

346
521

文學士 神山五黃先生著

會占
適用
易學講義錄

(第一卷)

東京 神山易學會藏版

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80 1 2 3 4 5

始



特234
715

文學士 神山五黃先生著

實用
占

易

學

講

義

錄

(第一卷)



東京 神山易學會藏版

實用占易學講義錄第一卷目次

易學の真隨

六十四卦名稱

易義例

上卦、下卦の説明	二
各爻の名稱	三
各爻の社會的地位	三
各爻の陰陽	四
各爻の定位、不定位、及び正、不正	四
爻の中、不中の義	五
爻の中正、不中正の義	五
爻の剛正又は重剛、柔正又は重陰の義	六
柔中、剛中の義	六
剛健中正、柔順中正の義	六
應爻の義	七
卦象	七
乾	七
坤	八
震	九
巽	九

占筮法講義

占筮法に對する第一要件

占筮の法式

(一)略筮法

(二)中筮法(其一)

中筮法に於ける變卦の求め方

經文講義

上經

乾爲天

坎	一九
艮	二〇
震	二〇
兌	二〇
占筮法に對する第一要件	二二
占筮法講義	二二
占筮の法式	二三
(一)略筮法	二三
(二)中筮法(其一)	二八
中筮法に於ける變卦の求め方	三二
經文講義	三七
上經	三八
乾爲天	三八
初九	四一
九二	四四
九三	四四
九四	四七
九五	五一

それ人間と云ふものはその本能として未来の幸福を切望するものであるが、悲しいかな「一寸先は暗」と云ふ諺がある通り、人間には未来を豫知することが不可能なのである。故に古今を通じて未来を豫知したいと云ふ望みは人間の心から離れないものであつて、従つて時の古今を問はず、文化の開否を論ぜず、何れの時代にも人間の存在する限り、占ひと云ふことは存在するのであつて、人間は色々の法式によつて占ひを行つて居るものである。易もこの人間の弱點慾望を満す爲めに生れ出たもので、何れの占ひの法式も人間より優越せるものを假想し、これに頼つて未来の豫知を受けんとするものであるが如く、易もこの優越せるものを假想して、神人の合一によつてこの豫知を受けんとするものである。この點から見て易も一の宗教であると云ひ得るのである。斯くの如く易の目的が占筮にありとすれば、果してこれが中なるものであるか、中らぬものであるかと云ふことであるが、少なくとも予の今日迄の多年の實地に於ける體驗から見ても、占筮するものゝ精神と、易理の充分なる研究と、實地の習練經驗と、且つこれに求筆者の敬虔なる心とが合致するものならば、必ず的中するものであると云ふことを確信するもので、この信念の下に予は今日占筮家として世に立つて居るのである。宜しく讀者も、精神の修養に努められ、學理の研究と實地の習練を積まれて、微妙神秘なる易獨特の境地に悟入せられることを切望する次第である。

第二に易を修養の書として見るに、これも卦辭爻辭に説ける所を讀すれば、直に明かにし得る所であつて本卷に收むる卦だけに就きて見るも、乾は天道を説き、坤は地道を説き、屯は創造の時に處するの道を教へ、蒙は教育の道を説ける點にてもこれを知り得べく、以下六十四卦に亘りて、悉くこれ人の時に處し境遇に應

じて善處すべき道を説きたるものと見るべく、大聖孔子すら、易を繙くの遅かりしを歎せし程である。讀者にして易に説ける所を充分に理解し、これを實生活に應用せられたならば、事を行ひ身を處する上に於いて、裨益せらるゝ所必ず甚大なるべし。宜しく易の説き教ふる所を悟得せられて、悲境難關に處して徒に悲しまず憂へず、勇氣を奮ひ起してこれを屈服打開する精神力を養はれ、又順境幸運に際して驕らず亢ぶらず、精神を緊張して自ら破れを招くが如きことなきやう、心身の訓練を積まれて、眞に生活戦線に於ける正しき勇者となられ、成功者、幸福者として完全を期せられんことを望むものである。

第三に易を哲學として見るに、太極を説き、陰陽を論じ、象數を説きて、六十四卦至る所に宇宙の大神秘を發かんとする意圖の明かなるを窺ひ見るべし。而して易の説く所の哲學は、一種獨特の立場に立ちて他と趣きを異にする所あるを以て、哲學として見るも頗る妙味を感じるのである。宜しく讀者が此點にも留意せられて、獨特の哲理を探り、他の哲學と比較研究せられんことを望む次第である。

六十四卦名稱

上經



長

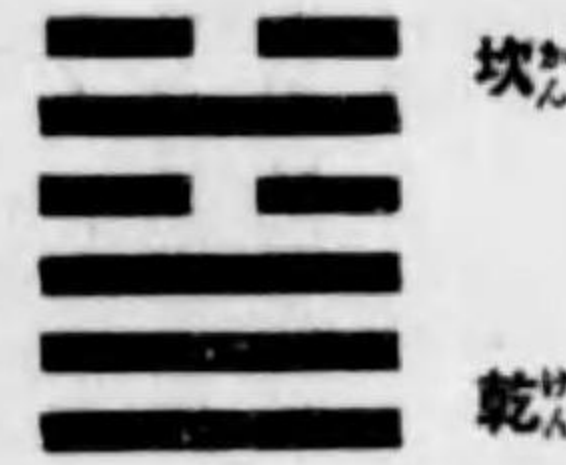
乾

山
水
蒙

坎

乾

乾
爲
天



坎

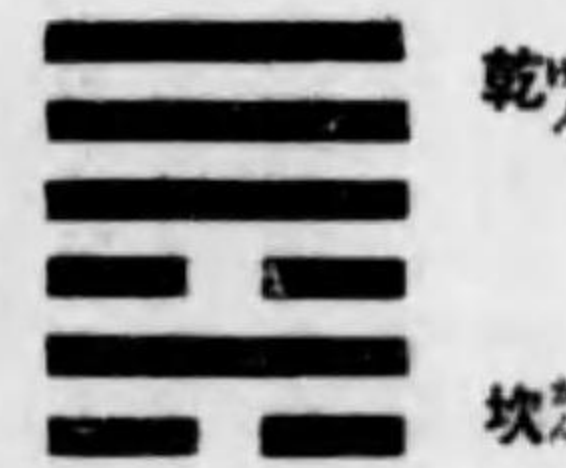
坤

水
天
需

乾

坤

坤
爲
地



乾

坎

天
水
訟

坎

震

水
雷
屯



乾

乾

坤

天
火
同人

離

兌

坎

天
澤
履

地
水
師



離

坤

坎

火
天
大有

乾

乾

坤

地
天
泰

水
地
比



坤

乾

巽

地
山
謙

艮

坤

乾

天
地
否

風
天
小畜

下
經



澤風大過

天雷无妄



坎為水

山天大畜



離為火

山雷頤



山火賁

地澤臨

雷地豫



山地剝

風地觀

澤雷隨



地雷復

火雷噬嗑

山風蠱

	坤		兌		震
	巽		乾		坎
地 風 升		澤 天 夫		雷 水 解	
	兌		乾		艮
	坎		巽		兌
澤 水 困		天 風 姤		山 澤 損	
	坎		兌		巽
	巽		坤		震
水 風 井		澤 地 萃		風 雷 益	

	巽		震		兌
	離		乾		艮
風 火 家人		雷 天 大壯		澤 山 咸	
	離		離		震
	兌		坤		巽
火 澤 睽		火 地 晉		雷 風 恒	
	坎		坤		乾
	艮		離		艮
水 山 蹇		地 火 明夷		天 山 遯	

	離 坎		巽 兌		兌 兌
火水未濟		風澤中孚		兌爲澤	
			震 艮		巽 坎
		雷山小過		風水渙	
			坎 離		坎 兌
		水火既濟		水澤節	

	震 離		艮 艮		兌 離
雷火豊		艮爲山		澤火革	
	離 艮		巽 艮		離 巽
火山旅		風山漸		火風鼎	
	巽 巽		震 兌		震 離
巽爲風		雷澤歸妹		震爲雷	

易義例

易は他の學問と違つて、特殊の學問であるだけに、特殊の名稱、構成、用語等があつて、豫めこれ等の豫備智識を了得して居ないと、その説明に當つて了解に苦しむことが多々あるものである。故に茲にそれ等の點に就いて豫備智識として説明を試みることにする。然しこれを餘り細密に亘つて説明しやうとすると、非常に複雑多岐に流れて、徒に卷数を増加するに止まらず、却つて繁雜を來して、本講義録の眼目とする、實占適用と云ふ方面に妨げとなる様な結果を招く懼れがあるから、講義録の眼目を悟得理解し得るに必要と考へる範圍内に於いて、簡單明瞭を旨として説明を加へることにする。

◎上卦、下卦の説明

卦は畫なり。乃ち宇宙の萬事萬物を形象化して、これを具現するものなり。而して易の六十四卦は、凡て上卦（又は外卦とも稱す）及び下卦（又は内卦とも稱す）より成立つものにて、これを圖解すれば左の如し。

地天泰



凡て上圖の如く何れの卦にても上の卦を上卦、下の卦を下卦と稱するなり。

◎各爻の名稱

爻とは卦中の一畫を指せるものにて、卦を構成する本となるものなり。而して爻とは爻と同義にして、易の變化を相交へて示せる義なり。この爻の名稱は、最下にあるものを初爻と云ひ、それより順次下より上へ數へて、二番目を二爻、三番目を三爻、四番目を四爻、五番目を五爻と云ひ、最上にあるものを上爻と云ふなり。これを圖解によりて示せば左の如し。

水火既濟の卦

◎各爻の社會的地位

卦の六爻はこれを社會の階級に應用する時は、各々一定の社會的地位を占むるものと見ることを得るものにして、古代に於いては、初爻を庶民、二爻を士、三爻を大夫、四爻を公卿、五爻を天子、上爻を無位に當るものと見たるものなり。これを現代の社會に應用して考ふれば、初爻は一般人民に當り、二爻は高等官判任官等に當り、三爻は地方長官、局長、次官等の勅任官級に當り、四爻は大臣その他の親任官級に當り、五爻は天子の御位に當り、上爻は大臣待遇又は在野の識者に當るものと見るべし。これを圖解すれば左の如し。

乾爲天 位子 離火 艮山 天

◎各爻の陰陽

六十四卦の凡ての爻は、皆陰陽二體の何れかに屬し、陰は「⚋」の形にて現し、陽は「⚊」の形にて現し、陰を柔となし、順となし、陽を剛となし、健となす。而して此陰陽の區別を卦の各爻に就きて現す場合に、陽爻には九の字を附し、陰爻には六の字を附するものにて、例へば次に圖解によりて示せるが如く、水火既濟の初爻は陽なるを以てこれを初九と呼び、二爻は陰なるを以て六二と呼び、他の爻も凡てこれに準じて三爻を九三、四爻を六四、五爻を九五、上爻を上六と呼ぶが如し。これを陰陽の位置全く既濟の卦と反對となれる水火未濟の卦に就きて云へば、初爻は初六、二爻は九二、三爻は六三、四爻は九四、五爻は六五、上爻は上九となるなり。

既水 濟 火 未 濟

◎各爻の定位、不定位、及び正、不正

各卦の六爻には各々陰陽の一定せる定位あるものにて、初爻は陽を以て定位とし陰を以て不定位となし、

二爻は陰を以て定位とし陽を以て不定位となし、三爻は陽を以て定位とし陰を以て不定位となし、四爻は陰を以て定位とし陽を以て不定位となし、五爻は陽を以て定位とし、陰を以て不定位となし、上爻は陰を以て定位とし陽を以て不定位となす。而して爻の定位を得たるものを正となして、概して吉とし、爻の不定位にあるものを不正となして、概して凶となすなり。これを圖解すれば左の如し。

各爻陰陽位を得たる卦 (水火) 既濟 各爻陰陽位を得ざる卦 (水火) 未濟

◎爻の中、不中の義

易の各卦に於いては、上卦の中央にある爻乃ち五爻、及び下卦の中央にある爻乃ち二爻を中となし、中は至徳を備へ且任重きを以て、特にこれを尊重するものにて、占して中を得たる時は、假令その爻が不正にてもこれを咎めて凶とすること少なく、二三の例外ありと雖概してこれを吉とするなり。従つて不中と云ふは中を得ざる爻のことにて、乃ち、初爻、三爻、四爻及び上爻を不中となすなり。而して不中の爻は概して凶とするものなるが、不中なるも正を得たる時はその凶を免るゝものなり。

◎爻の中正、不中正の義

中正とは爻が中にありて正を得たるを云ふものにて、乃ち陰爻を以て二にあり、又陽爻を以て五にあるを

中正を得たりとし、これを最も吉とするもなるが、不中正とは中正の反対にて、中を得ざるのみならず、正を得ずして不正なるものを云ひ、乃ち、陰爻を以て初及び三に居り、陽爻を以て四及び上に居るものにしてこれを最も凶となすなり。

◎爻の剛正又は重剛、柔正又は重陰の義

陽爻にして正を得たるものを、剛正又は重剛と稱するものにて、乃ち陽爻が初爻と三爻とに居る場合がこれに當り、陰爻にして正を得たるものを、柔正又は重陰と稱するものにて、乃ち陰爻が四爻と上爻とに居る場合がこれに當るものにして、爻が剛正を得たる場合も、亦柔正を得たる場合も、共に概してこれを吉とするものなり。

◎柔中、剛中の義

陰爻が五に居る場合を柔中と云ひ、陽爻が二に居る場合を剛中と云ひ、共に正を得ざるも、中徳を備ふるが故にこれを咎めざるものなり。

◎剛健中正、柔順中正の義

陽爻が五に居るを剛健中正と云ひ、陰爻が二に居るを柔順中正と云ひ、共に中正の全徳を備へたることを

強調して云ひ現せるものにて、最も吉なることを意味するなり。

◎應爻の義

應とは陰陽相應する理のことにて、男子の女子を愛し、女子の男子を慕ふが如く、互に意氣相投するを云ひ、君臣、父子、夫婦、神人、彼我、尊卑等凡て陰陽相應する關係にあるものにて、易の各卦に於ては初爻と四爻、二爻と五爻、三爻と上爻とは、その相互の位地よりして各陰陽相應すべき關係にあるものなり而してその陰陽相應する場合は、互に應和し相助けて吉を得るものとなし、これに反して陰陽相應せざる場合は、互に應和せず相助けることなくして凶となすなり。然れども時に例外として同性にして相應することあり。これを稱して敵應と云ふ。その一例を挙げれば、乾爲天の二爻と五爻とは、共に陽にして同性なるも相應するが如し。この應爻の關係を圖解すれば左の如し。

陰陽相應する例 (水火既濟)



陰陽相應する例 (澤雷隨)



◎卦象

三 乾

天○太陽○霞○雹○水○氷○秋九月十月○戊亥の年月日○戊亥の年月日○西北○四九一の數○天子の君○父○夫○大人○聖○君子○老人○長者○官位ある者○有名の人○大智○首の骨○肺臟○涕○帶○綿○袋○手巾○巾着○赤色○白色○始○黄色○馬○獅子○象○龍○鴨○猫○犬○鼬○鯉○金○王○貴物○冠○鏡○刀○圓き物○屏○箱○果物○米○豆○豆腐○大豆○牛蒡○芋○大根○團子○宮衙○樓臺○高堂○大厦○驛舎○西北向の家○大○始○統○施○明○御○正○大和○寧○剛○誠○辛○嚴肅○高貴○易簡○大度○大器○老成○運轉○眞實○満足○上達○自然の至徳○關○卓見○健○穎粹○銳進○勇猛○決斷○壯盛○昭明○富饒○盈滿○勉強○騰貴○確乎○驕奢○傲慢○侵凌○苛刻○強暴。

☷ 坤

地○地球○平地○雲○霧○田野○倉庫○村舎○皇后○母○庶民○臣○妻○凡人○小人○老女○農夫○樂人○腹○肉○脾○胃○西南○未申○夏秋の間○未申の年月日○八、五、十の數○甘味○黄色○牛○牝馬○百獸○布○帛○絲○綿○車○輿○釜○囊○袴○土器○五穀○腐草○藥○至○生○厚○載○含弘○迷○常○柔○主利○凡庸○惜○吝嗇○文○平均○乏○貯蓄○暗愚○聚斂○布藏○靴○受承○役せらる○服従○共同○省畧○徒黨○勞働○厚顔○簡易○闊○朋類○國○器物○能○法○化○濃厚○安靜○謙讓○恭敬○貞節○丁寧○儉約○卑賤○狹少○虛耗○衰微○怯弱○怠惰○疑惑○遲鈍○偏執○邪曲○不善。

☳ 震

雷○浮雲○東○春二月○卯の年月日○酸味○青色○四、三、八の數○賢人○祭主○長男○壯天○足○髮○走獸○飛鳥○龍○蛇○諸蟲○鶴○馬○菜蔬○鮮肉○菓物○竹木○葦○電氣○音○道路○地震○精力○動○勤稼○憤激○奮發○幾○決斷○動搖せしむ○修省○威權○活○意氣地○勇○勢○活潑○勵○跋扈○烈○立志○聲を發す○冒○震動○疾行○勉強○才能○逐行○躁動○驚駭○興起○出奔○成功。

☴ 巽

風○霞○東南○春夏の間○辰巳○辰巳の年月日○夏四月○酸味○白色○青色○綠色○五、三、八の數○長女○秀才○僧○尼○肱○股○氣○鷄○鶻○禽○蟲○蛇○香物○巧器○竹木○屏○鏡○袋○草木○花園○楊柳○蔬菜○果物○海○川○魚○繩直○葛藟○命令○長○依頼○風俗○教○妾○委託○戀○拜聽○會合○廣告○關涉○生聞○隨從○恭服○伏入○進退不果○如才なし○反目○高○臭○係○或○疑○死○恒○疾し○散○通○揉○諂諛○不決斷○往來○隱伏○多慾○好惡○出奔○利益○繁昌○薄情。

☵ 坎

水○雨○月○冬十一月○子の年月日○北方○鹹味○黑色○赤色○中男○舟人○盜賊○盲人○浪人○耳○血

腎臟○聲○一六數○冢○魚○狐○馬○水中の物○ 〇鐵器○水昌○椗楮○冷物○骨多き物○酒○海の物○穴
叢棘○蒺藜○寢所○袴○陷○險○溺○誠○仁慈○愛執○多欲○愚昧○伏藏○通○邪魔○狡猾○姦計○不明○
窮迫○不景氣の悴。

☲ 離

火○日○電○虹○霞○晴○南○夏五月○午の年月日○苦味○赤色○紫色○三、二、七の數○中女○文人○
心臟○眼○大腹○雉○蟹○龜○蛤○詩○文○歌○書籍○硯○甲冑○銃砲○綱目○花木○森林○乾地○宮
社○爐冶のある所○文明○智慧○附着の鋭○遷延○邪智○疑惑○性急○薄福○美麗○顯著。

☶ 艮

山○雲○霧○嵐○土○石○徑○丘○墓○門○少男○卒人○社家○山伏○手○指○骨○背○鼻○胸○脾胃○
東北方○冬春の間○甘味○黄色○丑寅○七、五、十の數○惰夫○狗○虎○鼠○狐○百禽○止○滅亡○篤實○
終始○敬肅○偏固○遲滯○慎守○丁寧○狼戾。

☱ 兌

澤○雨○露○雪○霰○星○月○新月○秋八月○西方○酉○酉の年月日○辛味○白色○、二、四、九の數○

少女○巫○歌妓○伶人○譯官○妾○口○舌○肝臟○輔頰○羊○猿○澤中、海中の物○金物○廢物○缺けた
る物○穴ある物○口ある物○樂器○鍵○鏡○扇○文書○秤○紙○筆○灌木○濕草○水邊○池○井○干瀉○西
向の家○説ぶ○見はるゝ○和順○毀折○柔和○親和○喜慶○憂愁○露見○講習○喧噪○愛好○卑劣○厚情○
感服○色情。

占筮法講義

占筮法に對する第一要件

占筮法には、略筮法あり、中筮法あり、本筮法あり、専ら根本通明博士の唱導せる三十六變筮法あり、又年月日時を以て筮を立つる法あり、文字の劃數を以て卦を起す法あり、その他にも色々法式があり、又立筮に用ふる筮竹の數も、五十本の中より、四十九本を用ふるを以て正しとするものあり、四十八本を用ふるを以て正しとするものあり、或は四十五本を用ふるを以て正しとするものありて、占筮の法式は一定して居らぬのであるが、これ等の法式の中の何れを用ふるのが正しいか、占筮上に如何に應用すべきかと云ふやうな點に就いては、後に説くこととして、予が茲に力説したいことは、占筮の的確を得るには、これ等の法式は第二の要件であつて、第一の要件は、筮を立てるもの、精神と易理の研究に透徹して居ると云ふことであり、特に立筮者の精神が根本要件であると信ずることである。乃ち筮を立てるもの、精神が至眞至純でなければならぬのであつて、若し立筮者の心に邪念慾心があつては、肝腎の精神統一が出来ず、従つて神人合一の神秘境に到達することが出来ないから、的確なる卦を得ることは望み得ないと信ずるのである。故に易によつて占斷を行はんとするものは、常に精神の修養を第一として、邪念を斷ち、純眞の心を保つやうに心掛けることが何よりも大切な要件であつて、その上に飽迄易理の研究に徹底して、これを占筮上に活用することが必

要なのである。故に本講義録の讀者諸士に於かれても、先づ第一にこの根本要件を完備せられるやうに、常に精神の修養と易理の研究とを怠られないやうに切望するのである。而して予の多年の、實地の體驗によるとこの至純の精神、易理の透徹と云ふ根本要件の外に、筮を求める人の心が敬虔であるべきであると云ふ事も、占斷の的確を得る上に缺くべからざることであると考へるのである。乃ち求筮者が所謂「當るも八卦當らぬも八卦」と云ふやうな不眞面目な態度であつたり、立筮者の人格を信用せず、尊敬の心を持つて居ないやうではそこに感應と云ふことが起らず、従つて占斷の的確を失ふに至ることが多いと信ずるのである。これを要するに、易の占斷の的確を得るには、立筮者の精神人格が根本であり、次に易理に透徹してこれを活用すると云ふことが肝要であり、これに加ふるに求筮者の易に對する敬虔なる信仰と、立筮者の人格に對する尊敬と信頼と云ふことが必要なのである。乃ち以上の三者が完備して始めてそこに完全なる神人合一が行はれて易の妙諦に到達し得るのである。

占筮の法式

(一) 略筮法

略筮法とは讀んで字の如く、本筮即ち十八變筮式を省略したる法式であつて、専ら高島吞象翁の用ひたる筮法で、現在に於いても普通一般に用ひられて居る立筮法である。この略筮は理論から見ると不備の點があ

るが、最も簡便で解り易く、短時間で卦を得ることが出来るものであり、特に予は形式よりも精神を重んずるものであるから、日常一般の占筮にはこの法式を用ひて居るのである。讀者諸士に於かれても、先づこの法式によりて占筮の實驗を積まれた上で、進んで中筮、本筮等の研究に向はれるが良いと考へるのである。偕この略筮の立て方は、先づ五十本の筮竹を取つて、瞑目端坐して神に祈り、邪念慾心を去りて占斷の目的とする事項に精神を集中し、無我の境に入りたる時に、その一本を取りてこれを別に置く。この一本は太極に象り、神靈をこれに倚らしむる意味のものであるから重要であつて、特に注意して置くことは、この一本は卦を立て終る迄は別に置いて置いた儘で、残りの四十九本の中へ加へない云ふことである。次にその残りの四十九本を同様に無我の境に入りて左右に二分し、右手の分を机の上に置き、左手の分はその儘左手に持ち、机上に置いた分の中から一本を取つてこれを左手に持つて居る分の中へ加へ、これを二本づゝ四回右手を以て數へ、同じことを繰返すのである。さうすると最後に残りの數が、一本から八本の中の数になる譯である。例へば初めに四十九を二分した時に、右手の分が二十五本で左手の分が二十四本であつたとすると、右手の分の一を取つて左手の分の二十四本へ加へると二十五本になり、これを二本づゝ四回數へることを繰返すこと三度で、最後に一本残ることになる譯である。これと同じ譯で、初めに右手の分が二十四本で、左手の分が二十五本であつた場合は、同じ方法を繰返すことによつて、残りが二本となる譯で、同様に

- ◎右手の分が二十三本、左手の分が二十六本の場合は、残りが三本、
- ◎右手の分が二十二本、左手の分が二十七本の場合は、残りが四本、

- ◎右手の分が二十一本、左手の分が二十八本の場合は、残りが五本、
 - ◎右手の分が二十本、左手の分が二十九本の場合は、残りが六本、
 - ◎右手の分が十九本、左手の分が三十本の場合は、残りが七本、
 - ◎右手の分が十八本、左手の分が三十一本の場合は、残りが八本、
- となる譯である。そこでこの残つた筮竹の數で卦を得るのであつて、乃ち

- ◎一本残つた場合は乾☰の卦となし
- ◎二本残つた場合は兌☱の卦となし
- ◎三本残つた場合は離☲の卦となし
- ◎四本残つた場合は震☳の卦となし
- ◎五本残つた場合は巽☴の卦となし
- ◎六本残つた場合は坎☵の卦となし
- ◎七本残つた場合は艮☶の卦となし
- ◎八本残つた場合は坤☷の卦となし

以上の如き方法によつて、初めに得た卦を下卦乃ち内卦として下に置き、次に同じ方法によつて得た卦を上卦乃ち外卦としてこれを上に置くのである。これにて本卦を得た譯であつて、例を以つてこれを説明すれば上述の如く、初めに立てた時に右手に二十三本、左手に二十六本となつて、残りが三本となつた場合は、下


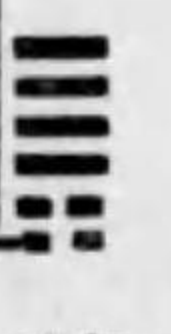
卦に離☲を得た譯で、次に右手に二十五本、左手に二十四本となつて、残りが一本となつた場合は、上卦に乾☰を得た譯で、乃ち本卦として左圖の如く天火同人の卦を得たことになるのである。

本卦  天火同人

以上の如くにして本卦を得たならば、次に爻を求めるのであるが、その方法は、本卦を立てた時と同様に、先づ四十九本を左右に兩分するのである。茲に特に注意すべきことは、前に述べた通り、最初に太極に象つて別にして置いた一本は、初めの儘にして手を觸れず、依然として別にして置くことである。そこで爻を求めるときに於いても、四十九本を兩分して、右の手の分の一本を左の手の分に加へることは同様であるが違ふ點は、卦の場合には二本づゝ四回数へてこれを繰返したのであるが、爻の場合には、二本づゝ三回数へてこれを繰返す點である。この方法を行つて行けば、卦を立てた場合と同じ理で、最後に一本から六本迄の数が残ることになる譯である。例へば、右手に二十五本、左手に二十四本といふ割合に兩分されたとすれば右手の一本を左手の分に加へれば二十五本となり、これを二本づゝ三回数へ、四度繰返へせば最後に一本残ることになる譯である。同様に

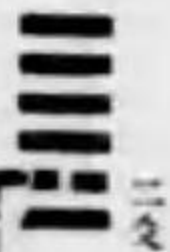
- ◎右手の分二十四本、左手の分二十五本の場合は、残りが二本、
- ◎右手の分二十三本、左手の分二十六本の場合は、残りが三本、
- ◎右手の分二十二本、左手の分二十七本の場合は、残りが四本、

- ◎右手の分二十一本、左手の分二十八本の場合は、残りが五本、
 - ◎右手の分二十本、左手の分二十九本の場合は、残りが六本、
- となる譯である。そこでこの残つた筍竹の數によつて爻が定まるのであつて、乃ち
- ◎一本残つた場合は初爻を得たことになつて、これが變ずることになり、
 - ◎二本残つた場合は二爻を得たことになつて、これが變ずることになり、
 - ◎三本残つた場合は三爻を得たことになつて、これが變ずることになり、
 - ◎四本残つた場合は四爻を得たことになつて、これが變ずることになり、
 - ◎五本残つた場合は五爻を得たことになつて、これが變ずることになり、
 - ◎六本残つた場合は上爻を得たことになつて、これが變ずることになり、
- これを例を以て説明すれば、前の例に於けるが如く、本卦として天火同人を得て、次に爻を求めた結果、右手の分が二十五本、左手の分が二十四本に兩分され、右手の分の一本を左手の分へ加へて二十五本となりこれを二本づゝ三回数へて四度の後、最後に一本残つたとすれば、乃ち天火同人の卦の初爻を得たことになつて、變卦は初爻の陽が變じて陰となるから、天山遯の卦となるのである。これを圖解すれば左の如し。

本卦  變卦  初爻の陽が變じて陰となれるなり。

又最後に二本残つた場合は天火同人の二爻を得た譯で、變卦は二爻の陰が變じて陽となるから、乾爲天の

卦となるのである。これを圖解すれば左の如し。

本卦 (天火同人)  變卦 (乾爲天)  二爻の陰が變じて陽となれるなり。

(二) 中筮法 (其一)

筮を立てる時に、精神統一を行ひ、無我の境に入るべきことは、何れの筮法に於ても第一に必要な條件であるから、以下何れの筮法を説明する場合にも、この注意は省略することにすから、豫め諒承せられたい。

中筮と云ふのは、略筮よりも詳密で、本筮よりは省略した中間の筮法であると云ふ意味であつて、その法式には立て方が色々あるが、その中で理論に合ひ、且つ解り易い法式を二三説明することにす。讀者はその中の何れにても、解し易くして意に叶へる法式を用ひられて差支へない。

偕中筮の立て方に於いても、本卦を得るには、最初に五十本の筮竹の中から一本を取つて、これを太極に象つて別に置いて、卦を立て終る迄別にして置くことも、次に残りの四十九本を左右に兩分し、右手の分の中の一本を左手の分の中へ加へることも、この左手の分を二本づゝ四回數へてこれを繰返すことも、略筮の立て方と全く同一であるが、唯少し異なる所は、略筮の場合には最後の一本残れば乾の三画卦 (☰) 、二本残れば兌の三画卦 (☱) 、三本残れば離の三画卦 (☲) 、四本残れば震の三画卦 (☳) 、五本残れば巽の三画卦 (☴) 、六本残れば坎の三画卦 (☵) 、七本残れば艮の三画卦 (☶) 、八本残れば坤の三画卦 (☷) を得たるものとして、直に下卦又は上卦を求め得たのであつたが、中筮の場合には、

- ◎ 一本残つた場合は乾を配した陽 (一) の一爻を置き、
 - ◎ 二本残つた場合は兌を配した陰 (二) の一爻を置き、
 - ◎ 三本残つた場合は離を配した陰 (二) の一爻を置き、
 - ◎ 四本残つた場合は震を配した陽 (一) の一爻を置き、
 - ◎ 五本残つた場合は巽を配した陰 (二) の一爻を置き、
 - ◎ 六本残つた場合は坎を配した陽 (一) の一爻を置き、
 - ◎ 七本残つた場合は艮を配した陽 (一) の一爻を置き、
 - ◎ 八本残つた場合は坤を配した陰 (二) の一爻を置くものとするのであつて、
- 以上の如く、第一回にて初爻を得、第二回にて二爻を得、第三回にて三爻を得、これで初めて下卦を求め得た譯で、次に第四回で四爻を得、第五回で五爻を得、第六回で上爻を得、これで上卦を求め得た譯になるのであつて、茲に上卦下卦を求め得て初めて本卦を立てることが出来たことになるのである。乃ち略筮では第一回で直に下卦を得、第二回で直に上卦を得て、前後二回だけで本卦を求め得るのであるが、中筮では、一回、二回、三回と同じ方法を行つて初めて下卦を得、再び四回、五回、六回と同じ方法を行つて初めて上卦を得る譯で、前後六回にして初めて本卦を得ることになるのである。故に中筮のことを又六變筮とも云ふの

である。

次に繁雜はんざつに亘るやうであるが、初學者の爲にもう一度具體的に、中筮に於ける本卦の立て方を説明すると

◎第一回到兩分した時に、右手二十五本、左手二十四本となつたとすると、右手の分の一本を左手の分に加へると二十五本になり、これを二本づゝ四回数へて三度の後、残りが一本になることになつて、乃ち乾けんで、陽の初爻を得たことになり

◎第二回到右手二十四本、左手二十五本となつたとすると、同様の方法を行へば、残りが二本になることになり、乃ち兌たいで、陰の二爻を得たことになり

◎第三回到右手二十三本、左手二十六本となれば、残りが三本になることになつて、乃ち離りで、陰の三爻を得たことになり

以上三回て下卦震しんを得た譯である。次に

◎第四回到右手二十二本、左手二十七本となれば、残りが四本になることになつて、乃ち震しんで、陽の四爻を得たことになり

◎第五回到右手二十一本、左手二十八本となれば、残りが五本になることになつて、乃ち巽しんで、陰の五爻を得たことになり

◎第六回到右手二十本、左手二十九本となれば、残りが六本になることになつて、乃ち坎かんで、陽の上爻を得たことになり

以上三回て上卦離りを得た譯で、乃ち前に得た下卦震しんに配して、左圖の如く茲こゝに本卦火雷噬嗑くわいらいせいかを得たことになるのである。

本卦 (火雷噬嗑)



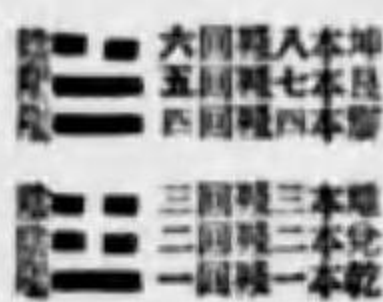
尙四十九本を兩分した時に

◎右手十九本、左手三十本になれば、残りが七本になることになつて、乃ち艮けんで、陽の爻を得たことになるのである。

◎右手十八本、左手三十一本になれば、残りが八本となることになつて、乃ち坤こんで、陰の爻を得たことになるのである。

例へば、前の本卦を得た例に於いて、第四回目迄は同様であつて、五回目に残りが七本となつた場合には艮けんであるから五爻が陽になり、六回目に残りが八本になつた場合には、坤こんであるから上爻が陰になる譯で、従つて得た所の本卦は左圖の如く澤雷隨ずいになるのである。

本卦 (澤雷隨)



茲に一言して置くことは、云ふ迄もないことであるが、上例の如く必ずしも、最後に残る数が、一本、二本、三本と云ふやうに順序よく残る譯ではなく、その時によつて、一回目が七本残り二回目が三本残り、三回目が五本残ると云ふやうな結果になることもあるのであつて、その場合、場合で残つた数によつて、爻の陰陽をあてはめて行くべきである。

◎中筮法に於ける變卦の求め方

中筮に於ける本卦の求め方は前に説明した通りであるが、然らば變卦は如何にして求めるかと云ふに、この變卦の求め方は略筮とは非常に違つて居つて、稍複雑である。以下その説明に移ることにするが、その前に當つて豫備智識として心得て置かねばならぬ必要條件があるのである。それは中筮に於いては、陽の中に、老陽、少陽の別があり、陰の中にも同じく、老陰、少陰の別があるのであつて、老陽、老陰は變じ、少陽、少陰は變じないと云ふ規定があるのである。而して老陽とは乾を指し少陽とは震、坎、艮を指すのであり、老陰とは坤を指し、少陰とは巽、離、兌を指すのである。これを圖解

すれば左の如し。

老陽 乾 變ずるものとす

少陽 震 變ぜざるものとす



老陰 坤 變ずるものとす

少陰 巽 變ぜざるものとす



略筮に於いては、本卦を得たる後に改めて變爻を求める法式を行ひ、それによつて變爻を得、その爻が變じて變卦を得たのであつたが、中筮に於いては初めから、老陽、老陰の爻は變じ、少陽、少陰の爻は變じないと定まつて居るのであるから、改めて變爻を求める法式を行ふ必要はなく、本卦を得れば同時に變卦を求め得る譯である。例を以てこれを説明すれば、前章で本卦を得る説明に應用した如き順序で、本卦火雷噬嗑を得たとすれば、變卦は左圖の如くなるのである。

(例の二)

本卦 (火雷噬嗑)



初爻は老陽なれば陰に變じたるなり

變卦 (火地晉)

上圖に於いて初爻だけが乾の老陽故、變じて陰となるも、他の各爻は少陽或は少陰なる故、凡て變ぜざるなり。従つて變卦は火地晉となるなり。

(例の二)

本卦 (澤雷隨)



變卦 (天地否)

上圖に於いて、初爻は乾の老陽にして上爻は坤の老陰なれば、共に陽は陰に變じ、陰は陽に變じたるも、他の爻は少陽或は少陰なる故變ぜざるなり。従つて變卦は天地否となるなり。

以上の如くにして、中筮の本卦と變卦とを得たる次第なるが、この本卦と變卦とを對照し、その關係によりて活斷を行ふものなり。
この活斷に應用する點に就きては、筮法の形式を説明し終りたる後にて、活斷法講義の章に於て説明すべし。

宇宙に大なる靈あり
發動して化育となる

人此の靈に繋がりて

初めて萬有と冥合す

— 黒岩周六一 —

經文講義

以下經文乃ち卦辭爻辭の講義に移ることにするが、豫め讀者諸士に諒承を願つて置くことがある。それは

◎第一に、本講義録は實占に適用することが本旨であるから、卦辭、爻辭の解説は、出来るだけ簡潔明瞭を旨とし、従つて諸家の異説、辭句の穿鑿等はなるべくこれを避けて、その全體の意味を解り易く説明する積りであることである。

◎第二に、占斷の説明に當つては、本講義録の第一の目的から、特に力を注いだ積りであつて、予が今日迄の多年の體驗から、占斷の對象となるべき事項に就いては、出来る限りこれを網羅した積りであるが、何分世態人事は複雑多様を極めて居ることであるから、予が説明を試みた事項以外に、占斷を必要とする事項が生じて來ることは、已むを得ないことであると思ふ。故に斯くの如き必要に遭遇せられた場合には、予の説明を基礎としてこれを應用し、適宜の活斷を試みられたいのである。

◎第三に、占斷は易の活用であつて、従つて占斷者の頭の働きたと、その機に應じての活用と云ふことが非常に肝要であることは云ふ迄もないことである。故に讀者諸士に於かれては、必ずしも予の説明にのみ因はれられず、充分に卦辭爻辭の意味を悟得せられて、これを基礎として、或は卦象を考へ、爻象を察し、或は變卦を取り、互卦を見、又卦辭爻辭の辭句を活用し、而して予の説明を参照せられて、工夫研究を凝らし、讀者自身、獨特の活斷を試みられんことを望むものである。

上 經

☰☰ 乾爲天 乾元亨、利貞。

(卦辭讀方) 乾は元いに亨る。貞しきに利し。

(象 義) ①「乾」乾とは天の意味で、この卦六爻皆陽にして少しの陰氣なく、丁度天の陽氣が重積し、滿ち盈ちて居る象から取つたのである。それで天は宇宙の開け初めより今日に至る迄、運行して息むことなく又變化窮りなきもので、これが天の理法である。そこで聖人がこの天の理法を人事に當はめて、人も亦天の如く、終日勉め努めて倦み怠ることなき様に教へ導かれたのが、この卦の主旨であつて、易の目的本旨が天地の道に則り、これに比へて人の道を説示するにあるから、最初に天道を説いた乾の卦を置き、次に地道を説いた坤の卦を置いて、天地兩道の根元性情を説き、これに基きて人道の大綱を示したのである。②「元」元とは天の元氣のことで、凡ての根元であつて、この元氣から萬物が創生したのである。③「亨」亨とは「通ずる」と云ふ意味で、天の元氣が萬物に相交り相通することを云ふのである。④「利貞」貞とは正しく固き意味で、天の元氣を受けて萬物が生じ、相交り相通じて生を得て發達した上は、これを正しく固く守つて動かぬ様にすべきであつて、これを「利貞」と云つたのである。

(占 義) この卦全體の意義は、天の元氣を得て萬物が生じ、その元氣が相交り相通じて宜しきを得て、

生々發達を遂げるものである。而して斯くの如く萬物が生々發達を遂げた上は、これを正しく固く守つて動かぬ様にすべきであると云ふ意味で、乃ち天地萬物の生々發達の理法を説いた卦である。故にこの卦を得た時は、萬事萬物に施し用ひて少しも凝滯する所なく、大いに通過して何事と雖も成就せぬと云ふことはないのであるが、全卦純陽の卦で剛健に過ぎて、餘りに勢ひがあり、働きがあり過ぎる爲に、或は萬一の過ちを生じないとも限らぬから、勢ひに乘じ過ぎない様に注意して、正しく固く守るべきである。

(占 斷)

◎運 勢 此卦は前に説明した通り、萬物の生々發達の理法を説いた卦で、大いに勢ひがあり働きのある卦であるから、運氣盛大にして萬事順調に運び、功を遂げ吉を得るものである。然し餘り盛大に過ぎる爲に勢ひに乗過ぎ、慢心に流れて破れを招く懼れがあるから慎みを要する。特に女子に取りては強過ぎて、盛んに見えて却つて凶を招くに至るものであるから注意を要する。尙龍昇天の象より見て、地位昇進發展の象あるも、位負けする憂ひがあるから注意を要する。

◎願 望 乾は物事の通達する卦なれば成就す。然し慢心して凶を招く憂ひあれば注意。

◎金 談 乾は物事通達の卦にして、且乾に金の象あれば叶ふ。然し調子に乗らざる様注意。

◎賣 買 乾は盛大通達の卦なれば成功利益を見るも、剛に過ぎて過ちを招く憂ひあれば、利を追い過ぎ、勢ひに乗過ぎる時は失敗損失の懼れあり。

◎相 場 乾は天の象にて高値を示すも、これより上なきものなれば賣るを利とす。

- ◎縁談 乾は通達隆盛の卦なれば成立して吉なり。然し過剛の性あれば、上を見過ぎて縁を破り、又縁遅き憂ひあれば注意。
- ◎子 實 乾は陽なり。強剛なり。又明なり。故に強健明敏の兒を得て幸福なり。然し過剛の性あれば教育に注意を要す。又妊娠は乾の純陽剛健より見て、男兒なり。
- ◎夫 運 乾は陽にして剛、且天理に合して明かなり。夫運吉にして榮達を見るべし。
- ◎妻 運 乾は剛に過ぐ、強情にして虚榮強き妻に添ひ、苦勞ありて凶なり。
- ◎家庭運 乾は盛大隆昌の卦なれば吉なり。然し盛んなる爲に心驕りてこれを破る惧れあれば慎しみを要す。
- ◎壽命 乾は天にして無窮の象、且陽剛なり。故に強健にして壽長し。然し過剛の性、健康に誇りて攝生を缺き、壽を破る憂ひあれば注意。
- ◎病 氣 乾は勢ひ強く、且龍昇天の象なれば、病勢重く尙昂進の兆あり。然し陽剛にして體質強き故養生届かば恢復の望みあり。又乾は肺の象なれば胸部の病なること多し。
- ◎待 人 乾は通達の卦なれば來る。
- ◎走 人 乾は天の象にして廣く窮りなきもの、遠方に走れる形勢ありて容易に探し出されず。乾を西北となす。西北を尋ねべし。
- ◎失 物 乾は公明の象故出づ。然し又無窮の象あれば長引く時は出でず。又高き象、西北の象、故に西北の高所を尋ねべし。

- ◎旅 立 乾は通達して凝滞なき象、出て吉。
- ◎争 事 乾は強剛なり。理に合して明なり。又通達の象、故に理ありて勝つ。然し剛に過ぎ、自ら求めて争ひを起すは凶なり。
- ◎就 職 乾は通達成就の象なれば調ふ。又高貴の象あれば目上の力を借るべし。
- ◎試 験 乾は盛大の象、成績優秀なり。
- ◎開 業 乾は氣運盛大の時、吉なり。
- ◎轉業 移轉 乾は現在氣運盛大の象、而して動に過ぐるを戒む。故に共に不可なり。
- ◎天 候 乾は太陽の象、又明かなる象、晴天なり。而して干魃の象なり。

初九 潜龍、勿用。

(爻辭讀方) 潜龍なり。用ふること勿れ。

(象 義) ◎「潜龍」乾の卦の諸爻は皆龍に象つて説いてあるが、これは龍と云ふものは、神變不測、出沒自在、時に應じ機に臨んでよく進退變化するもので、丁度君子がその時勢に随ひて進退宜しきを得るに似て居り、乾は君子の象であるから、これを取つて説いたのである。而して初爻を潜龍と云ふのは、この爻が卦の一番下に居つて、恰も龍が地下に埋伏して昇天の時を待つてゐるに似て居るからである。

(意 義) この爻の全體の意味は、初爻が卦の一番下に居るのは、恰も潜龍が昇天の時を得ず、その時の

至るを待つて居る状態であり、又君子が時機を得ずして世に用ひられず、名を成さぬ状態にあつて、陰忍して機會の至るを待つて居るのに似て居るものである。斯くの如き時機には、何人も、潜龍が昇天の時を待つて、君子が陰忍して機運の至るを待つて、忍耐自重して時運の到るを待つてきてあつて、徒に失望落膽したり、煩悶焦燥に陥つてはならないと戒めたのであつて、「勿用」とあるのがこの戒めの言である。

(占 断)

◎運 勢 この爻を得た時は、潜龍の如く、又陰れたる君子の如く、下積みとなつて運氣振はず、萬事意の如くならぬ運勢であるが、爻辭に於ける戒めの如く、徒に失望落膽したり、煩悶焦燥に陥ることなく、陰忍自重して機會の到るを待つてきてある。然らば乾の卦は元來昇天の氣運を保持するものであるから、必ず機會到りて運氣開け、諸事通達して意の如くなる時が来るものである。又この爻變すれば天 姤の卦となり、女難、佞姦者に欺かれての災ひ、不慮の災難等に遭ふ憂ひがあるから注意を要する。

◎願 望 初爻は時運に到らざるもの 故に急に成就せず、焦燥らずして待つ時は、龍の昇天の機に會するが如く、自然に成就の望みあり。

◎金 談 初爻時を得ず。又上の五爻に壓せられて妨げあり。成立せず。

◎賣 買 初爻は潜龍時を得ず、勢ひなき象、時期を得ずして順調に運ばず。見合すべし。

◎相 場 初爻は潜龍が時を得ず、埋伏して動かざる象なれば持合ふ。然し將來昇天すべき勢力を持つものなれば、後には上る。

◎縁 談 變卦天風姤に「勿取女」とあり。又爻辭にも「勿用」とあるより見て、凶縁なれば見合はずべし。又時運至らざる時なれば成立の望みなし。然し待たば時運到來する意あれば、後に良縁あり。

◎子 實 此爻現在勢ひを得るものなれば、初めは子供運悪しきも後には吉なり。又此爻陽にして正位を得、姤は男兒なり。

◎夫 運 初爻は陽にして力なく勢ひなきもの、故に働きなき夫に添ふ象にて夫運凶なり。

◎妻 運 初爻變すれば陰となり、一陰にして五陽に接す。不貞の妻を娶る象なり。故に變卦天風姤にも「勿取女」と戒め居れり。

◎家庭運 初爻は卦の最下に居り、下積みとなりて意通ぜざるもの、家族身内の苦勞多し。

◎壽命 初爻は力なく勢ひ弱し。虛弱短命の象なり。然し本性陽剛なるものなれば、攝生を守らば健康となりて壽を保ち得べし。

◎病 氣 初爻は潜龍埋伏の象、病氣外に發せず内に籠りて長引くべし。快否は養生次第。

◎待 人 初爻は龍地中に伏して動かざる象なれば來らず。

◎走 人 初爻は潜龍埋伏して動かざる象、而して上五爻は同性の陽なれば縁邊に潛み居るとのなり。又變すれば姤となりて不貞の女の象なれば、男なれば女の關係あり、乾は西北、變卦巽は東南なればその方角を尋ぬべし。

◎失 物 初爻は最下に居り埋伏の象、何かの下になり居るなり。方角は走人と同様なり。又變じて姤とな

り、卒然出會の象あれば、走人失物共に偶然遭遇又は發見することあり。

◎旅立 初爻は時機を得ずして進み動くに不可の時なれば凶なり。

◎爭事 初爻は陰忍自重すべき時なり。争ふべからず。強いて争は破る。

◎就職 初爻は君子時を得ずして世に用ひられざる時なり。就職望みなし。

◎試験 初爻は物事通ぜざる時なれば、成績悪し。

◎開業、轉業、移轉 初爻は時を得ず、進み動くに凶なる時なれば、何れも凶なり。時機を待つべし。

◎天候 初爻は物事凝滞の時なり、故に曇る。然し後には晴る。又變じて陰となり、變卦巽となる。陰は雨の象、巽は風の象、故に一雨あるか、風となりて後晴るゝ象なり。

九 一一 見龍在田、利見大人。

(爻辭讀方) 見龍田に在り。大人を見るに利し。

(象 義) ◎「見龍」見とは現れ出づる意味にて、初爻を地下とすれば、位置より見て二爻は地上なり。

乃ち初爻の潜龍が時を得て地上に現れ出でたる象であるから見龍と云つたので、見龍とは現れ出でたる龍と云ふ意味なり。◎「田」地の上面にて百穀を生ずる有益なる場所のこと。◎「大人」九五を指す。明君の意なり。

(意 義) この爻全體の意味は、初爻の潜龍が時を得て地上に現れ出た象で、これを君子に取つて見ると

機を得て逆境を脱し、社會の表面に立つて、今迄發揮し得なかつた才徳を奮つて、世の中の爲に活動することが出来る様になつたもので、恰も田地が百穀を人の爲に供給すると同じである。爻辭の「在田」とはこれを云つたのである。而して「利見大人」と云ふのは、九二の君子は、時を得て、才徳を社會の爲に施すに至つたものであるが、未だその居る所の地位が低いから、九五の如き明君に會してその用ふる所となり、一致協力して活動するのてなければ、充分才徳を發揮して功を現すことが出来ないから、明君に従つて協力して抱負を實行せよと云ふ意味である。乃ち九二に於いては、潜龍が昇天に好適なる地上の場所を得、君子が活動の機會を得て、明君と相和する象で、時と地と和を得たもので、大いに活躍して功を遂げ事を行ひ得る意を説いたのである。

(占 斷)

◎運 勢 此爻龍が昇天の時を得、君子が社會に立つ機會を得たる時にて、氣運盛大に赴き、前途に希望と光明とを認め、進みて吉を得、功を遂ぐる時なれば、積極的に出て、運氣の開發を計るべきである。然らば功を遂げ名を揚げる事が出来るものである。又九五の明君に和して才徳を現す象なれば、目上の引立を受け、又は目上と同心協力して事を成すに利ある時なり。又君子社會の爲に活動する象なれば、社會國家の爲に功を致す意あり。又此爻變すれば天火同人の卦となり、人と和して吉なる意あれば、凡て共同事に吉なり。特に我れ才智を以て他の實力あるものと共同する象なり。

◎願 望 龍昇天の時を得る爻なれば成就の望みあり。特に「利見大人」とありて、九五の明君に和して

功を遂ぐる象あれば、目上の力を借りて便宜を得べし。

◎金談 此爻時を得て運氣盛んなる象あれば調ふ。九五との關係より見て、目上より調ふべし。

◎賣買 時と地と和とを兼ね運氣盛んにして進みて吉を得る爻なれば、賣買順調に運びて利あり。進みて宜し。

◎相場 龍昇天の時を得たる爻にして、又變じて離となれば火の象なり。共に相場の上ることを示す。

◎縁談 此爻時と地と和を得、又變じて天火同人となれば親和の意を現す。乃ち吉にして纏まる象なり。

◎子實 龍昇天の時を得、君子榮達の機に會する爻にて、運氣吉なれば子福者なり。又妊娠は此爻正を得ず變じて陰となれば正位を得るより見て、男兒と思ひしもの女兒の象なり。

◎夫運 君子世に出て、龍昇天の時を得る爻なれば、將來盛名を揚ぐる夫に添ふ象なり。又變卦同人は親和の象、和合を得べし。

◎妻運 此爻變じて陰となりて正位を得、貞節の妻を得る象なり。又變卦同人は親和の象なれば和合を得て幸福なり。

◎家庭運 此爻吉兆盛運の象を示し、變卦同人は親和の象を現す。家庭和合して幸福なり。

◎壽命 此爻氣運盛大の象、健康長壽なり。

◎病氣 埋伏せる龍地に出づる象なれば、病源判明する意あり。而して隆運吉兆の爻なれば全快す。特に九五との關係より見て、名醫の爲に助けらるる象なり。

◎待人 龍昇天の時に會し、君子世に出づる象なれば來る。

◎走人 龍昇天の時を得て地上に現れたる象より見て、遠方に走る目的なるも、爻の位置より見て未だ道程にあり。又「利見大人」とあれば、警察の力を借りるを可とす。乾は西北、變卦離は南、その方角を尋ねべし。

◎失物 龍地上に現れ、君子世に出づる象より見て出づ。方角は走人と同様。

◎旅立 此爻運氣吉兆盛大の象、出て吉。

◎爭事 此爻運氣隆盛の象なれば、争ひは勝つべきも、變卦同人は争ひを避けて親和を計るべき卦なれば争ふは不利なり。九五との關係上より見て目上の力を借りて示談すべし。

◎就職 君子機を得て世に出づる象なれば調ひて吉。尙「利見大人」とあれば目上に依頼すべし。

◎試験 此爻吉兆隆盛の象、好成績なり。

◎開業、轉業、移轉 此爻龍地上に現れて勢ひを得、君子世に出て活動する象にて、進み動きて吉なる時なれば、何れも進みて宜し。

◎天候 此爻變じて離となれば太陽の象、上卦乾は天の象、乃ち太陽天につく象なれば晴天なり。

九 三二 君子終日乾々、夕惕若厲无咎。

(爻辭讀方) 君子終日乾々し、夕べまで惕若たれば、厲ふけれども咎無し。

(象 義) ◎「君子」九三が天地人三才より見て人位にあり、且陽を以て正位に居るより取りて云へるなり。◎「終日」下卦乾は太陽の象、而して初爻は朝、二爻は晝、三爻は夕べに當り、九三が下卦の終に居るを以て云ふなり。◎「乾々」乾とは自強息まざる義、乾の剛徳より取り、乾々と重ねたるは上卦下卦共に乾なるより、意を強めて云へるなり。◎「惕若」恐懼の義、乾が君父長上の象にて、尊嚴にして畏敬すべき義より取る。◎「厲」九三下卦の終に居り、將に上卦に移らんとする位置にて、危地にあるより云へるなり。

(意 義) 此爻全體の意味は、三爻は下卦の終りて上位に居り、上卦へ移る位置に當つて居つて、これを人事に當はめて見ると、その人の社會上の地位も高くなり、人の注目を引くことも多く、従つて責任も重く危険な地に居るものと云ふべきで、若し小人にして斯くの如き地位にあれば、自ら慎しみ戒むる所を知らず、努力を缺き慢心放縱に流れて身を過ち、危地に陥る懼れがあるが、この爻は陽にして正位を得、剛健の徳を備へて、惕若として朝から晩迄慎しみ恐れ、乾々として勉勵するものであるから、よくこの危険に陥らぬものである。故に爻辭にも「厲无咎」と云つて、無事安泰を得ることを示して居るのである。これを要するに、進みて克得たる地位を守るべき道を教へてあるのである。

(占 斷)

◎運 勢 この爻を得た時は、潜龍より見龍となり、今や進んで下卦の上位に達し、龍が地を離れて將に天上せんとする位地にあるもので、これより見て運氣開け身上發展し、吉祥の時であるが、それだけに大事な時で、若しその吉運の爲に心驕り、謹慎警戒を忘れ、努力を怠ることがあると、折角の運氣を破りて危地に

陥る懼れがあるから、飽く迄慎しみが肝要である。以上の注意を守りて進めば、益運氣の發展昇進を見るものである。又爻の意味より、他を侮りての失敗、時機を失しての過ち等の憂ひがあるから注意を要する。

◎願 望 爻辭に「終日乾々として夕まで惕若たれば厲ふけれども咎なし」とあるが如く、誠實に努力して怠らざれば成就の望みあるも、慢心放縱に流れ努力を缺く時は成らず。

◎金 談 この爻危地にあるより見て、なか／＼困難なり。然し爻辭に戒めあるが如く、誠實懸命に努力せば叶ふ望みあり。

◎賣 買 この爻危地にあるを以て、賣買共に困難危機に會する憂ひあり。而して爻辭の戒めに従ひ誠實に努力せば過ちなきも、堅實を忘れて山氣に走り、急進に流るゝ時は損失を招くべし。

◎相 場 この爻昇天の勢ひを示すものなれば相場高きも、危地にあるを以て爻辭の戒めを忘れ、無暗に買進むは危険なり。

◎謙 談 爻辭の戒めに従ひ、輕卒に話を進めず、尙充分先方の身元を調べて後にすべし。然らざれば後に悔を招くべし。

◎子 實 龍昇天の勢ひを得、君子地位進みたる爻なれば、將來成功發達の望みある兒女を得べし。然し危地にあるものなれば、教育を過る時は不良に陥らする懼れあり。又妊娠は變じて兌となれば少女の象、女兒なり。

◎夫 運 この爻下卦の上位に居り、君子地位を得たる象、又陽剛にして正位を得、有爲にして將來成功發

達の望みある夫に添ふべし。然し危地に居るものなれば多少の苦勞を免れず。

◎妻 運 この爻正位を得、變じて天澤履の卦となれば禮の象、而して上卦乾の夫に従ふ。温順貞節にして家庭向の妻を得べし。

◎家庭運 この爻危地にあり。故に家庭上波瀾辛勞を免れざる象あるも、陽にして正を得たり、爻辭の戒めを守り、誠實に努力せば、よく波瀾辛勞を脱して吉を得るに至るべし。

◎壽命 この爻陽にして正、乃ち剛健の徳あるもの、健康長壽の生れなり。然し爻辭の戒めより見て、攝生を怠り、天壽を破る愛ひあれば注意を要す。

◎病 氣 この爻危地にあるより見てかなり重態なり。然し陽にして正を得、元來剛健の性あれば、爻辭の戒めに従ひ、養生に充分手を盡さば、危険を脱して全快の望みあり。

◎待 人 この爻下卦の終に居り、上卦に移らんとする位置にて、天地の境なり。故に來否に迷ひ居るものなり。宜しく爻辭の戒めに従ひ、今一應誠意を以て催促すべし。

◎走 人 この爻龍昇天の勢ひを得たる時なれば遠方に走る象あり。又位置に於て危地に立ち、變じて履となれば危険に臨む象あれば、身上危険の憂ひあり。爻辭の戒めに従ひ、手落なく速に手配する要あり。乾は西北、變卦兌は西、その方角を尋ぬべし。

◎失 物 この爻危地にあり、又龍昇天の勢ひを得たるの時、天上せば姿見え。故に長引かば出でず。方角待人と同じ。

- ◎旅 立 この爻危地に立ち、慎しみを守るべき時なれば出でざるを吉とす。
- ◎争 事 この爻自重謹慎すべきの時、又變じて履となれば禮の象、争ふは不利なり。
- ◎就 職 君子の社會的地位高まれる象、望みあり。然し危地に立てば誠實努力を缺く時は永續せざる惧れあり。
- ◎試 験 この爻天地の境にして危地に立つ。成績定まらず變動多き象あり。爻辭の戒めを守り今一層勉強すべし。
- ◎開業、轉業、移轉 この爻謹慎自重を肝要とする時なり。何れも進むは不可。
- ◎天 候 この爻陽にして正、又勢ひを得たる時なれば晴れなり。然し危地に立ち、變じて毀折の象兌となるは永續せざる象なり。

九 四 或躍在淵、无咎。

(爻辭讀方) 或は躍りて淵に在り。咎無し。

(象 義) ◎「或」この爻陰位なるに今陽なり。それ陽の性は進むものにして陰の性は退くものなり。乃ち進退に疑ひを抱きて心の定まらざるものなれば「或」と云へるなり。◎「躍」起立して將に飛ばんとする象、陽は上り陰は下るものなるより云ふ。◎「淵」龍の住む所、九四變ずれば兌となり、兌は澤で、九四は澤上にあるもの故淵と云ふなり。

(意 義) この爻は既に下卦を離れて上卦に進み、恰も龍が地を離れて天を臨み、將に一躍して昇天せんとする勢ひを得た所で、或は躍りてこれを試み、或は退いて淵に入り、躊躇して心を定めぬ象であつて、これを人に取つて見ると、進んで大いに雄飛しやうか、今暫く時機を待たうかと、時勢の適否、人心の向背を考へて意を決せぬ象である。かやうに考へ深く無暗に進退せぬから、爻辭にも「无咎」とある通り過ちがないのである。

(占 断)

◎運 勢 この爻を得た時は、龍が昇天の勢ひを得て、地を離れて天を臨んで居る時であるから、運氣將に盛大ならんとする象があるが、それだけに大事な時で、かゝる時に處しては、萬事につけ、四圍の情勢、時機の適否、自己の實力を考へて進退を慎しまねばならぬものである。以上の心掛けを忘れなければ、過ちを招くことなく、眞に昇天の盛運に會すること目前にありと云ふべきである。

◎願 望 この爻龍既に地を離れて昇天の勢ひを得たる時なるも、大事を取りて輕進せぬ象にして、又此爻變じて、風天小畜となれば物事停滯の意あり。故に願望の成就目前にあるが如く見えて行惱む象なり。輕舉妄進を慎しむべし。

◎金 談 此爻龍の進退に迷ふ意あるより見れば、行惱みて成否定まらざる象なり。大事を取れば龍が目的を達するが如く、纏る望みあり。

◎賈 買 君子が時勢と自己の力を考へて自重するが如く、大事を取らば功を遂げ利を得べ。而して龍の

進退に迷ひ、變卦小畜に停滯の意あるより見て、多少の支障を免れず。

◎相 場 此爻龍の進退に迷ふ象なれば、相場浮動して定まらず。然し遂に昇天の目的を達するより見て、後には上る。

◎縁 談 此爻君子の自重する象、又龍の進退に迷ふ象あり。故に双方が大事を取りて色々に迷ひ急に定まらぬ象なり。然し五爻に至りて飛龍天に昇るが如く、結局は纏りて吉。

◎子 實 龍が或は上り或は下りて意を決せぬ如く、子供多き人と少き人とありて、運不運兩方に別るゝ象あり。又姪姪は此爻正を得ず、變じて陰となりて正を得るを以て女兒なり。

◎夫 運 龍が昇天の機を目前に得て勢ひある象なれば、末には大いに成功發展する夫に添ふべきも、一時進退に迷ふ象あるより見て、中年頃に夫の身上に就きて辛勞あり。

◎妻 運 此爻變すれば風天小畜となり、陰盛んにして陽に抗する象あれば、強情不貞の女を妻として迷惑する象なり。

◎家庭運 初爻、二爻、三爻と漸次に昇天の勢ひを得、此爻に至りて一時迷ふ象あり。而して遂に昇天の目的を達するものなれば、初運吉にして中運稍亂れ、晩運再び吉なり。

◎壽 命 乾は剛健にして健康長壽を現せども、この爻に至りて進退に迷ふ象あるは、中年に健康を害する憂ひを示すものなれば注意肝要なり。

◎病 氣 龍が上らんか下らんかと迷ふ象より見て、病勢一進一退の象あり。而して變卦小畜は停滯の象な

れば長引く。快否は爻意より見て養生次第なり。

◎待 人 此爻進退に迷ふものなれば、心定まらず來否に迷へる象なり。結局「吉」と云はず「无咎」とあるより見て、本人來らず來信あるべし。

◎走 人 此爻龍進退に迷ふ象、故に近くにうろつき居るものなり。乾は西北、變卦巽は東南、その方角を尋ねべし。

◎失 物 此爻進退に迷ふもの、又變卦小畜は他に止められて停滯する象、何かの中に迷ひ込めるなり。方角走人に同じ。

◎旅 立 此爻時勢の適否を考へて妄動せず、爲に咎なきを得るもの、出でざるを吉とす。

◎争 事 此爻進退に迷ひ意決せざる象、長引きて解決せず。爻意より見て争ふは不利なり。

◎就職、試験 此爻進退に迷ひて意決せざる象、又變卦小畜は停滯の象、故に就職は長引きて決せず。試験は不成績なり。

◎開業、轉業、移轉 此爻進退に迷ふ象にて、時勢を考へて妄動を避くべき意あり、故に何れも不可。然し飛龍天にあるの時近し。暫く時機を待たば好機至るべし。

◎天 候 此爻進退決せざる象、又變卦小畜は物事停滯の象、天氣ぐづつくべし。而して進みて五爻 至れば飛龍天にありて雲を呼び雨を起すの象、又變卦小畜の上卦は巽にして風の象、暴風雨となる兆あり。

九五 飛龍在天。利見大人。

(爻辭讀方) 飛龍大に在り。大人を見るに利し。

(象 義) ◎「飛龍」九五は天の位で、今陽を以て正位に居るは、恰も龍が本來の勢ひを全うして昇天したる象なるより云ふなり。◎「大人」九二を指す。下位の賢才の意。

(意 義) 九五は龍がその本來の目的を達して天上したもので、今や勢ひを得て雲を呼び雨を施し、その澤が萬物に及ぶの時、丁度賢人君子が時を得て天位に上り、徳政を施して萬民がその恩澤に浴する象と同じである。而して天下を治むるに當つては、假令賢人君子であつても、九二の如き下位の賢才を用ひてその助けを得るのでなければ、仁政を全うすることが出来ないものであるから、この心掛けを忘るべきでない云ふ意味である。

(占 斷)

◎運 勢 この爻龍が本來の性能を全うして昇天の目的を達し、出沒自在を得る象なれば、氣運隆盛を極め物事順調に運び、吉兆悦び事を得る時なり。又九二との關係上目下の助けを得 功を遂げ吉を得る象あり。又此爻變すれば火天大有の卦となり、その卦意より金運、賣買吉等の象あり。

◎願 望 龍昇天の目的を達したる象にて盛運の時なれば、願望成就して悦びあり。

◎金 談 飛龍天にありて運氣隆盛の時、此爻變じて大有となれば金運ある象、金談叶ふ。

- ◎賈 買 龍昇天して出沒自在を得る象、乃ち賈買意の如く運びて大利あり。
- ◎相場 龍天上の象、相場高し。然し天上に達せるものなれば先行下げ相場なり。調子に乗りて進むべからず。
- ◎縁談 龍の目的を達したる象、縁談調ひて吉なり。
- ◎子 實 飛龍天に在り盛運の象、子福者にて家運榮ゆ。又姪振は此爻陽にして正位を得。男兒なり。
- ◎夫 運 飛龍昇天、君子天位に上るの象、而して陽にして正位を得、夫運大吉なり。
- ◎妻 運 此爻盛運を示し、變じて離となれば華やかにして聰明の象、敏才にして美人の妻を得べし。然し變卦大有に女子驕傲の象あれば、夫を凌ぐ懼れあり。
- ◎家庭運 此爻盛大隆昌の運氣を現す。家庭運人に優れて大吉なり。
- ◎壽命 此爻陽にして正位を得、剛健の象、且運氣盛大なり。強健にして長壽を得べし。
- ◎病 氣 龍天上せる象より見て、病勢頂上に達せるものにて今が最も大切の時なり。又變卦離は火の象、乃ち熱高きことを示す。
- ◎待 人 龍昇天の目的を達せる象、待人來る。
- ◎走 人 飛龍天に在るは遠方へ走れる象、乾は西北、變卦離は南、その方角を尋ぬべし。
- ◎失 物 龍天上して姿を没せる象、出でず。
- ◎旅 立 飛龍昇天目的を達して勢ひを奮ふ象、出で、吉、悦びあり。

- ◎争 事 此爻龍昇天の目的を達したる象、又運氣盛大の象、争事勝つ。
- ◎就職 試験 龍昇夫の目的を達し、賢人君子天位に上れる象にて運氣盛大なり。就職、試験共に大吉なり。
- ◎開業、轉業、移轉 龍昇天の目的を達して出沒自在を極め、運氣盛大の象、何れも進みて吉。
- ◎天 候 飛龍天に在りて雲を呼び風を起す。暴れる象なり。然し此爻變ずれば火天大有となり、上卦離は太陽の象にして下卦乾は天の象、乃ち太陽中天に輝く象なれば、暴れたる後快晴となるべし。

上 九 亢龍有悔。

(爻辭讀方) 亢龍悔有。

(象 義) ◎「亢龍」亢は上り過ぎる意、又事を過つ義にて、上爻が天位の上で極點にあり、乃ち陽の上り、過ぎたるもので、恰も龍が昇天の勢ひを待み、調子に乗りて上り過ぎて、雲を離れ通力を失つた象を云つたのである。

◎(意 義) 此爻全體の意味は、龍が五爻に上り昇天の目的を達して、雲を呼び雨を施してその勢を奮つて居た間は良いが、その勢ひに慢心して上り過ぎると、通力を失つて進退の自由を得ざるに至るものである人も亦これと同じく、成功を得てこれに慢心し、勢ひを待み、調子に乗りて勢威を奮ひ、慎しみを忘れ戒めを守らぬ様なことがあると、運氣を破りて災害を招き失敗に陥るに至るものである。乃ち此爻は自然の理法人生の常として滿つれば缺くるといふことがあるから、足るを知つて慢心驕傲に走らぬ様戒められた教へて

ある。

(占 断)

◎運 勢 この爻龍が昇天の勢ひに乗じ、上り過ぎて通力を失へる象であり、又人が成功を得て慢心し、慢しみを缺きて驕傲に流れ、爲に災害失敗を招く象なれば、吉運に驕りて調子に乗り、勢ひを待みて進み過ぎ、身を破り災ひを招く象がある。故に宜しく足るを知ると云ふ心掛けを忘れず、謹慎自重して一身の安泰を計ることが大切の時である。又此爻變すれば陰となり、一陰五陽に迫られる象であるから、人に退けらるゝ憂ひ、不慮の災難の象があり、又變卦兌を毀折となす故、負傷、飢饉等の惧れがあるから注意を要する。

◎願 望 この爻勢ひに乗じて上り過ぎ悔いを招く象、故に初め願調に運ぶ爲に安心油断に流れて、七八分の所にて破るゝ象なり。

◎金 談 この爻調子に乗過ぎて破れを招く象、故に話が願調に運ぶ爲に樂觀し過ぎて結局調はざる象あり。

◎實 買 この爻盛運に乗り 進み過ぎ、破れを招く象、故に初めは調子よく利を見るも、山氣に走り、堅實を缺き、大利を夢みて結局失敗に終る象なり。

◎相 場 この爻龍の上り過ぎて通力を失ふ象、故に相場高値より崩落する象なり。

◎縁 談 この爻勢ひに乗じて進み過ぎ、悔いを招く象、故に人の話に乗りて輕卒に縁を結び、後悔を招く象なり。見合すを古とす。

◎子 實 この爻盛運に驕りて破れを招く象、故に初めは子供多く幸福の如く見ゆるも、後に子供の爲に苦勞を招く象なり。又姪姪は變じて陰となりて正を得、又變卦兌は少女の象なれば女兒なり。

◎夫 運 この爻運氣に乗り過ぎて破れを招く象、故に初めは夫運よく幸福なるも、後には夫のことに苦勞ある象なり。又變じて陰となれば、下の五陽に迫られる象なれば、男に關して波瀾辛勞多き生れなり。

◎妻 運 この爻變じて陰となり、正を得るものなれば、妻は柔順貞實なるも、下五陽に迫られて窮地に立つ象より見て、身體弱きか、妻の縁邊のものゝ爲に苦しむ象あり。

◎家庭運 この爻盛運に乗過ぎて破れを招く象、故に初運は幸福なるも、中運、特に晩運は凶にして困窮苦勞する生れなり。

◎壽 命 この爻盛運に驕りて悔いを招く象、故に生來は強健長壽の質なるも、攝生を缺き生活を亂し、虛弱短命に終る憂ひあり。

◎病 氣 この爻盛運の爲に強剛慢心に流れ、悔いを招く象、故に病勢一旦頂上を過ぎて恢復に向ひたるものを、安心油断よりぶり返したる象なり。而して變じて陰となれば、下五陽に迫られて窮地に立つ象なれば生命危険なり。

◎待 人 この爻盛運に乗過ぎて破れを招く象、故に來るものと思ひ安心せるもの來らざる象なり。

◎走 人 上爻を郊外となし、又此爻五爻を過ぎて卦の極に居るは、遠く走れる象なり。乾は西北、變卦兌は西、その方角を尋ぬべし。

◎失物 この爻變すれば、澤天夫となり、物事を決し去る象なり。又上爻は郊外の象、外に出て、返らず

◎旅立 この爻變じて陰となれば、下五陽に迫られて窮地に立つ。危険遭難の象、凶なり。

◎爭事 この爻勢ひに乘じ強剛に流れて悔いを招く象、争ひて不利に陥る象なり。

◎就職 この爻驕傲慢心に走り勢ひに乘過ぎて悔いを招く象、應對惡しき爲に成立すべきものを自ら破る象なり。

◎試験 この爻驕傲慢心に走りて破れを招く象、自己の才能に誇り、勉強を怠りて不成績を招くものなり

◎開業、轉業、移轉 この爻勢ひに乘じ進み過ぎて破れを招く象にて、慎しむを守るべき時なれば何れも進むは不可なり。

◎天候 この爻變すれば兌となり陰の象、下卦乾は天の象、乃ち陰氣天上に凝る象なり。又この爻盛運を過ぎて悔いあるもの、天候險惡に變ずる兆なり。

用九 見群龍无首、吉。

(用九) 群龍の首无きを見る。吉。

(象義) 用九、用六は乾坤の二卦にあるのみで他の六十二卦にはないものである。而してこの用九、用六に就いては古來色々の説があるが、要するに用九は陽爻に對する一般的の注意で、用六は陰爻に對する一般的の注意である。故に用九は乾の六陽爻のみでなく、易の凡ての卦に於ける陽爻全體に對する注意であり

同様に用六は坤の六陰爻のみでなく、易の凡ての卦に於ける陰爻全體に對する注意である。◎「群龍」群龍とは乾の各爻、乃ち初爻から上爻迄の六爻を指して云ふのである。

(意義) 乾の卦に於いて初爻には「勿用」と云ひ、三爻には「惕若」と云ひ、四爻には「在淵」と云ひ、上爻には「有悔」と云つて、皆輕舉妄動に陥らぬ様に戒めてある。只二爻と五爻とは一見戒めの言がない様に思へるが、よく考へて見ると何れも「利見大人」と云つて、自分の力のみを恃みて獨斷に流れる様なことのない様に戒めてあるのである。これは陽がその剛健の力を持みて、驕慢に流れて過ちを招く懼れがあるの、六爻とも謙讓の徳を守りて過ちを招くことのない様に戒めたのである。乃ち用九に於ける「无首」と云ふ言が、その戒めに當つて居るのであつて、龍の猛威を示すのは首であるから、その首を秘し勢ひを包みて、順徳を守れば吉を得ると云ふ意味である。斯くの如く乾卦の六爻にも陽剛に過ぎない様に戒めてあるのであるから、他の卦の百八十六陽爻に於いても亦、陽剛に過ぎるのが悪いことは勿論であつて、これをも併せて茲で戒めたのである。

坤爲地。坤元亨、利牝馬貞、君子有攸往、先迷後得主

(卦辭讀方) 坤は元いに亨る。牝馬の貞に利し。君子往く攸有り。先つときは迷ひ、後るゝ時は主を得。西南に朋を得るも、東北に朋を喪ふに利し。貞に安んずれば吉。

(象 義) ◎「坤」坤は乾に對して云つたもので、乾は剛の義、坤は順の義である。又乾は天で坤は地であつて、乃ち坤地は乾天の元氣を受けてこれに順ふものである。◎「牝馬」乾は陽で牡馬の象であるから、坤の陰を牝馬とするのである。◎「西南得朋」巽、離、坤、兌は西南の方位に居つて皆陰の卦で、坤が陰であるからこれ等は同類である。故に「西南に朋を得」と云ふのである。◎「東北喪朋」東北の方位には、艮、震、乾、坎が居つて皆陽の卦で、坤の陰と反對であるから、「東北に朋を喪ふ」と云つたのである。

(意 義) 坤の卦は六爻とも陰であつて、乾の卦が六爻とも陽であるとは全く反對である。乃ち乾は純陽至健で天道であり、坤は純陰至順で地道である。そこで乾にも「元亨」と云ひ、坤にも「元亨」と云つてあつてこの「元亨」と云ふのは大いに通ずると云ふ意味であるが、同じく大いに通ずると云つても、その大いに通ずる所以は自ら異つて居るのである。乃ち坤の卦の通ずるのは、乾の元氣を受けて通ずるのであつて、一は積極的で他は消極的である。これを例へて云ふと、天の氣を地が受けて、初めて萬物が生ずるのである、又乾を君とすれば坤は臣に當り、乾を夫とすれば坤は妻であつて、凡てが受身である。それで「利牝馬貞」と附加へたのであつて、これは坤に於いては牝馬が柔順にして重い荷を負うて遠い道を行くやうに、固く正しく守つて行けば良いと云ふ意味である。乃ち何所迄も坤は受身である。次に「君子有收」往」と云ふのは上の意味を承けて云ふので、上に述べたやうに柔順にして正固なる徳があれば、進んで物事をなすことが出来ること云ふ意味である。それから「先迷後得主」と云ふ句より以下の意味は、上の句の意味を承けてその進み行くべき方法を説いたのであつて、臣が君に先立ち、妻が夫に先立つて自己の意見を行ひ、我儘勝手な振

舞つて、君なり夫なりの指圖を受けぬやうな事があれば、萬事迷ひて道を失ふに至るものである。若しこれと反對に、臣たるものが君の命を聞き、妻たるものが夫の意見を聞き、然る後にその意見命令に従つて進め行けば、間違ひがなく萬事が都合よく進んでゆくと云ふ意味である。次に「利西南得朋東北喪朋」と云ふのは、西南には同類の巽、離、兌が居り、そちらへ行けば、朋を得ることになるが、皆陰の小人であり、且陰は陽に従ふべき理に反するからよくない。然しこれに反して東北へ行けば、艮、震、乾、坎が居り、皆陽であつて同類の友を失ふ事になるが、陰の陽に従ふべき理に合することになるから良いと云ふ意味で、臣が君に仕へる様になれば、自分の仲間を引上げて黨を組むやうなことは否けないこと、一意君に盡すべきであり、女が一旦嫁入つた上は、専心夫に従ひて真心を盡すべきで、自分の害になる様な友達を寄集めるやうなことは否けないと同じである。それから「安貞吉」と云ふのは、以上の如くなれば柔順の徳を守り、進むべき道を正しく固く守つて行くものであるから、吉であると云ふ意味である。

(占 斷)

◎運 勢 坤は天の元氣を受けて通ずるものであり、乃ち消極的で受身の卦であるから、萬事進み動くことを慎しみ、退き守る心掛けが肝要で、この心掛けを守れば、無事安泰を得て過ちなきものである。然るにこれに反して、柔順堅實の心掛けを忘れ、急進妄動に流れる様なことがあると、運氣を破り、失敗災害を招くに至るものである。卦辭に「先迷後得主」と云ひ、「安貞吉」と云へるはこれを戒めたのである。尙卦の意味より見て、理に迷ひての災ひ、他に心を動かしての凶等を招く象があるから注意を要する。

- ◎願望 坤は柔順退守を吉とする卦なれば、焦燥るも成就せず。然し「元に亨る」とあるより見て氣長に時を待たば自然に成就の時来るべし。
- ◎金談 坤は消極的にして受身の卦なれば、急に望むも繼らず。順徳を守り時を待たば、「元亨」とある如く叶ふ時来るべし。
- ◎賣買 坤は進むに不利にして守るに吉なる卦なれば、賣買共に利をあせりて急進するは不利なり。宜しく堅實を旨として時を待つべし。
- ◎相場 坤は消極退守の卦なれば安し。然し受身の卦なれば買ひて時を待たば後に利あり。
- ◎縁談 坤は安靜退守を吉とし、卦辭にも「先迷後得主」とあるが如く、現在の縁談を急に運ぶは凶。時を待たば後に良縁あり。
- ◎子實 坤は母の象にて、乾の陽氣を受けて通ずるもの、又衆多の象、兒女多く坤の順徳よりして順良にして幸福なり。妊娠は坤の純陰の卦より見て女兒なり。
- ◎夫運 坤は純陰消極の卦にてその働き受身なり。故に意力弱く働き鈍き夫に添ひて苦勞する象あり。
- ◎妻運 坤は順徳を備へて陽に従ふもの、又母の象に慈愛深し。故に良妻賢母を得べし。
- ◎家庭運 坤は消極安靜の卦なり。故に家庭運華やかならざるも無事平安を得べし。然しこれに満足せず妄動せば、坤の運氣に反するものにて家運を破るに至るべし。
- ◎壽命 坤は消極にして陰柔なり、身體弱き象、然し坤の戒めを守り、貞にして正固、よく攝生を守らば

相當長壽を保ち得べし。

- ◎病氣 坤は陰柔の性なり。故に病狀急激の變化なく、重からざる如く見えて長引く、養生を怠らば慢性となる憂ひあり。
- ◎待人 坤は消極退守の卦なれば來らず。
- ◎走人 坤は消極にして動性を缺く、故に遠方に走る氣力なく近所にうろつき居るものなり。又純陰の卦なれば男ならば女に關係あり。女ならば陽に従ふ象より見て男に迷されたるなり。「西南得主」とあれば西南を尋ぬべし。
- ◎失物 坤は地なり。外にて落せるものなり。動性を缺くを以て出でず。坤は西南の象、方角西南。
- ◎旅立 坤は安靜退守を吉とする卦なれば出でざるを吉とす。
- ◎爭事 坤は受身の卦にて退守安靜を吉とす。争ふは凶。坤の順徳に従ひ示談すべし。
- ◎就職、試験 坤は陰柔にして消極、動性を缺く、就職急に成らず。時を待つべし。試験は成績平凡なり。
- ◎開業、轉業、移轉 坤は安靜退守を吉とする卦なれば、何れも進むは不可なり。
- ◎天候 坤は陰柔にして陽氣なし。天氣陰鬱雨續く。

初六 履霜堅氷至。

(爻辭讀方) 霜を履んで堅氷至る。

(象 義) ◎「霜」霜は陰氣の結びて生ずるもの、而して陰の微なるものなり。初爻が陰の初めにありて微なるより取れるなり。◎「履」初爻最下に位し、變じて震となれば足の象、故に「履」と云へるなり。

◎「堅氷」霜結びて後に堅氷の張る時期の到來することを推察して云へるものにて「上六」の時を指す。

(意 義) 初六は坤卦に於ける陰の初めて、例へて云へば陰氣が初めて凝て霜を結んだ様なもので、これからだん／＼進んで行けば氷の張る様な極寒になるのである。これを人事に當てはめて見れば、陰は小人であつて、小人が始めて用ゐられた時は、外面は柔和親切さうに見えるが、だん／＼權力を得て來ると、國を亂し君を害する様になるものであり、又邪惡の氣が人の心に影を宿した時は、微小なものであるが、これがだん／＼廣がつて行くと、遂にその人を害するに至ると同様である。故に霜が始めて結んだならば極寒の時が間もなく來ると思つて用意を怠らぬ様に、小人は權力を得ぬ中にこれを退けねばならぬし、邪惡の念が萌したならば、その微かな間にこれを取除く様にせねばならぬと云ふ教へである。

(占 斷)

◎運 勢 初六は爻辭に解けるが如く、霜が始めて結んで極寒の至ることを豫示する意味の爻で、前途に艱難危險の迫らんとする兆があるから、身を慎み行ひを正しくして、極寒に對する用意を怠らぬが如く、他日に於ける艱難危險に備へ、よくこれを耐へ忍ぶ用意と力とを養ふ様に心掛けることが肝要の時である。又この爻好惡の小人害意を内に藏する意あれば、邪惡の小人に近づかぬ注意を要し、又小より大に及ぼす象あれば、小事として輕視せしことより大事を起す憂ひがあるから注意を要する。

◎願 望 この爻位低く力弱し。小事は成るも大事は成らず。

◎金 談 坤は消極の卦にして、特に初爻は位力共に乏し。故に小金は手に入るも大金は望みなし。

◎賣 買 此爻消極的の卦坤の最下に居り、位力共に弱く、活動性を缺く、賣買共に不振なり。無理をせば極寒の時至りて困難に遭ふが如く失敗損失を招くべし。

◎相 場 この爻位力共に乏しく活動性を缺く。相場弱し。然し變じて地雷復となれば一陽來復の象あれば後には騰勢を示すべし。

◎縁 談 初六は才乏しく且好惡小人の象あり。又變卦復には元に歸へる意あり。故に縁談凶にして破縁の象あり。見合すべし。

◎子 實 この爻力微にして振はず。子供運惡るし。妊娠は變じて震となり、長男の象あれば男兒なり。

◎夫 運 初爻は陰柔にして位低く力乏し。働きなき夫に添ひ、極寒の時至りその用意なくして苦しむが如く苦勞多し。

◎妻 運 初六は才乏しく力なく、然も好惡小人の象、下賤にして、働きなき妻に添ふ象あり。

◎家庭運 初爻は位なく力弱く、勢ひ振はざるものなれば、家庭運惡るし。然し變卦地雷復に一陽來復の象あれば、坤の順徳を守らば後には家を興し幸福を得る望みあり。

◎壽 命 初爻位を得ず力弱し。虛弱短命の象なり。然し霜を見て極寒に備ふるが如く、攝生に注意せば、變卦復より見て健康を増進して相當の壽を保ち得べし。

- ◎病氣 この爻坤卦の初めに於て勢ひ微なり。病根淺き象。霜降極寒に備ふるが如く、療養届かば變卦復より見て恢復すべし。
- ◎待人 霜を履みて堅氷至る象より見て遅るゝも來る。
- ◎走人 この爻變じて地雷復となり、元に復る意あれば、間もなく歸來すべし。
- ◎失物 此爻卦の下にあるより見て何かの下になれるなり。又坤は地なれば地下に埋れることあり。變卦復より見て手に返へる。坤は西南、變卦震は東、その方角を尋ぬべし。
- ◎旅立 この爻位力共に乏しく勢ひ振はず。又「至堅氷」とあるより見て艱難の象あり。出でざるを吉とす。
- ◎爭事 坤は安靜退守を吉とし、特に初爻不正にして位力弱し。争ふは不利なり。
- ◎就職、試験 此爻位を得ず。才力共に弱く勢ひ振はざるもの、就職望みなく、試験不成績なり。
- ◎開業、轉業、移轉 坤は安靜退守を吉とし、特に此爻最下に居りて位を得ず。才力弱く身を慎しみて艱難に備ふべき時なれば、何れも進むは不可なり。
- ◎天候 坤は純陰の卦なるに、初爻位を得ずして勢ひなし。天候悪るき象、而して「霜履至堅氷」とあるより見て、度を外れて寒氣厳しき象あり。然し變卦復となるを以て恢復の兆あり。

六二 直、方、大、不習、无不利。

(爻辭讀方) 直、方、大なり。習はずして利しからざる无し。

(象義) ◎「直方大」「直」は正しくして邪曲なき義、「方」は四角にして法則備り正しき義、「大」は廣大の義にして、何れも皆坤の卦の性情である順徳を云ひ現したものであるが、これは坤の六爻に於いて、初爻と三爻とは不中不正、四爻と上爻とは正を得れども不中、五爻は中を得れども不正なるに、二爻だけが獨り中正を得て居つて、坤の本來の性情である順徳を完備して居るから、「直方大」と云つてこれを讚美したのである。

(意義) 六二は前の象義の所で説明した通り、坤の本來の性情である「直方大」の徳を兼ね備へて居るから、學び習はずして自然にその行ふ所が吉であると云つて、極力これを讚美したのであつて、この爻に於いて天の元氣を受けて現るゝ地の徳が、完全に現れて居るものと云ふべきである。

(占斷)

◎運勢 この爻坤の卦に於いて獨り中正を得て、坤の順徳を完備して居るものであるから、運氣和順を得て吉兆悦び事ある時である。然し元來坤の時は安靜退守の心掛けを守るべき時であるから、急進妄動を慎しむべきであつて、若しこの心掛けを忘れる様なきとあると、この爻變すれば地水師の卦となり、波瀾艱難に遭過する象の卦で、折角の運氣を亂して辛勞困難に陥る憂ひがあるから慎しみが肝要である。尙此爻坤の順徳

を兼備へ、變卦師の主となりて他を率ゆる象あれば、人の上に立つ運氣が現れて居るものである。

◎願望 この爻中正を得て運氣吉なり。願望成就すべし。

◎金談 此爻中正を得て順徳を備ふ。金談調ふ。

◎賣買 この爻中正を得て運氣強く吉なり。賣買順調に運びて利を得べし。然し坤は元來消極退守を吉とする卦なれば、調子に乗りて急進妄動に走らざる注意肝要なり。

◎相場 この爻中正を得たれば相場穩健に進むべし。然し變卦師に波瀾の象あれば、後には相場變動波瀾を生ずる象なり。

◎縁談 この爻中正を得、坤の順徳を完備す。縁談吉にして成立する象、進みて吉なり。

◎子實 この爻中正にして坤の順徳を完備す。順良溫和の兒女を得て幸福なり。又妊娠は中正を得て變ずれば坎となり中男の象、男兒なり。

◎夫運 この爻坤の順徳を完備して溫和順良の象、然も變じて師となれば奮闘心ありて人の長となる象なれば、溫順にして情深く、且内に奮闘心を藏する理想的の夫に添ふ運あり。

◎妻運 この爻中正にして坤の母たる順徳を完備す。良妻賢母を得て幸福なり。

◎象運 この爻中正にして坤の順徳を完備し、吉祥和順の象を現すものなれば、家庭運平和幸福なり。然し變卦師に波瀾の象あれば、幸福の爲に心緩みて亂れを招く懼れあれば注意を要す。

◎壽命 この爻中正にして吉祥和順の象、健康長壽なり。

◎病氣 この爻中正にして吉祥を示す。全快疑ひなし。安心すべし。

◎待人 この爻中正の徳を備へ、運氣吉なり。待人好便をもたらして来る。

◎走人 坤は西南に朋を得る卦、又變卦坎は北、故にその方角を尋ねべし。六二は吉祥の爻なれば直に判明すべし。

◎失物 方角走人に同じ。六二吉祥の爻なれば出づ。又坤は地、坎は水、地に近く水に縁ある所を尋ねべし。

◎旅立 この爻中正を得て和順の象、旅程平安を得て悦びあるべし。出て、吉。

◎爭事 坤は安靜退守を吉とする卦にして、この爻坤の順徳を完備するもの、争ふは爻意に反して凶なり

◎就職 この爻中正にして坤の順徳を完備し、吉祥なり。就職叶ふ。

◎試験 爻辭に「不習无不利」とあるは、天性頭腦明敏の象、好成绩疑ひなし。

◎開業、轉業、移轉 この爻正を得て坤の順徳を備ふ。吉にして運氣強し。何れも進みて吉。但し轉業移轉は坤の安靜退守を吉とする意より見て、現状支障なきに強いて進み動くは却つて順徳を亂すを以て不可なり

◎天候 坤は陰、又此爻變じて坎となれば雨の象あり。雨天なり。然し中正の徳あれば後晴る。

六三 含章、可貞、或從王事、无成有終。

(爻辭讀方) 章を含む。貞にす可し。或は王事に從ふ。成すことなくして終り有り。

(象 義) ◎「含章」含むとは包み藏すること。章とは文章才能乃ち學問道德の意。此爻陰にして陽位に居り、陽の美德を包藏する意あるより、章を含むと云へるなり。◎「可貞」此爻陰を以て陽に居り位を得ざるが故に、動もすれば陽の美德を包藏し得ぬ憂ひあれば、固く守るべしと戒めたる言なり。◎「或從王事」或はと云ふは此爻陰を以て陽位に居り、位に安んぜずして進退定まらず、疑ひを抱ける象あるを云ひ、王事の王は六五を指し、君國の大事の意。◎「有終終」と云へるは此爻が下卦の終にあるより云へるなり。

(意 義) 此爻に説いてある所は、臣の探るべき道、妻の夫に對する道を説き教へたものであつて、六三は陽の美德を包藏して學問道德を備へて居るが、これを外へ現して輕舉妄動してはならぬと云ふ戒めて、例へば臣たる者は君に使へて功徳を現してもこれを君の功徳とし、自分の功徳として誇らぬが臣道であり、又妻は内助の功があつてもこれを夫の功として控へて居るが婦道である。斯くの如く臣たるものは自己の學問や徳を内に秘して堅く守り、若し王命があつたらば出で、使へ、王の爲に盡して自ら誇らぬ様にすべきであり、妻たるものは夫の爲に陰にあつて内助の功を盡して、鼻を高くせぬ様に心掛けるべきものであると云ふが如くである。「含章可貞或從王事」とあるのはこれを説いたのである。かう云ふ態度を守つて行けば過ちがなく、終を全うして一身の安全幸福を得るものである。「有終」とあるのはこれを云つたのである。

(占 斷)

◎運 勢 此爻、内に學德才能を包藏するものなれども、陰を以て陽に居り位を得ざるを以て、これを内に秘

して外に現さず、貞固を守るべきことを説き戒めたるものであるから、この意味より斷じて、才能學德ある人なるも、これに誇りて無暗に物事に差出過ぎる様なことがあると、運氣を破り身を過つに至る懼れがある時であるから、陰徳を守り身を慎しむことが肝要であつて、この心掛けて進めば「或從王事」とあるが如く人の信頼を受け目上の引立てを得て、「有終」と云つてある通り、一身の安全幸福を得、運氣の降昌を得るに至るものである。この爻變すれば地山謙の卦となり、謙讓の徳を説いて居る卦なるより見ても、一層此の心掛けが大切であることを知るべきである。

◎願 望 此爻徳あり働きあるも、今陰を以て陽に居り位を得ざるは、願望成就の望みあるも時を得ずあせる時は却つて破れを見る懼れあれば、「可貞」とある如く急がずして堅く正しく進むべし。然らば「有終」とあれば遂に成就すべし。

◎金 談 此爻變じて良となる。良は物事停滯の象、又爻意も時を得ず。故に急にならず。爻辭の戒めに從ひ貞固を守らば、「有終」とあれば結局は叶ふべし。

◎賣 買 此爻働きを外に現すことを戒めたるもの、今急進するは不可なり。忍耐時を待たば「或從王事、有終」とある如く、好機到來利を得べし。

◎相 場 此爻働きを内に包藏するもの、相場底力あることを示すも、未だ外に現れざる象、然し「或從王事」とあれば先行き爆發すべし。

◎雜 談 此爻變じて良となれば物事停滯の象、長引くことを示す。又爻意働きを内に藏して外に現すこと

を戒むるもの、あせらずして時を待つべし。然らば「有終」とあれば結局纏りて吉なり。

◎子 實 此爻才能學徳を内に藏する象 將來有望の兒女を得べく、「或從王事」有終」とあれば、末は兒女の爲に幸福を得べし。然し「可貞」と戒めあれば教育に注意を要す。妊娠は變じて陽となりて正を得。又變卦艮を少男となすを以て男兒なり。

◎夫 運 此爻働を内に藏する象なれば、將來有望の夫に添ふ運氣あり。

◎妻 運 此爻内に才能學徳を藏するもの、又變じて地山謙となれば謙讓の徳を現す。怗悃温順の妻を得る象なり。然し位正を得ざれば身體弱き憂ひあり注意。

◎家庭運 此爻内に才能學徳あるも外に現すを戒む。家庭運吉なるも、慎しみを缺き驕慢に流れて亂れを招く憂ひあれば注意を要す。此注意を守らば「有終」とあるが如く一生幸福を得べし。

◎壽命 此爻位正を得ずして、内に働きあるも外に現すを戒しむ。身體生れつき強健なるも、行ひ亂れ攝生を缺きて健康を損じ、短命に終る憂ひあれば注意を要す。

◎病 氣 此爻正を得ず。變じて艮となれば停滯の象、病氣の性質悪しく長引くべし。然し陽の剛徳を内に藏すれば、養生次第にて恢復の望みあり。

◎待 人 此爻變じて艮となれば物を妨げ止むる象、故障妨害ありて來られざる象なり。「含章」とあるより見て來信あるべし。

◎走 人 此爻陽の働きを内に藏するもの、又變すれば艮となり、妨げ止めらるる象、何所にか抑留され居

るものなり。坤は西南、變卦艮は東北なれば、其方角を尋ぬべし。又「或從王事」とあれば目上か年上の者に誘出されたる象あり。

◎失 物 此爻陰にして陽の徳を内に藏し、又變じて艮となれば止めらるる象、故に何かの中に紛れ込めるなり。方角走人に同じ。

◎旅 立 此爻正位を得ず、働きを外に現すことを戒む。又變じて艮となれば妨げ止めらるる象、故に途中にて故障災難の象あれば出てざるを吉とす。

◎争 事 此爻陽の働きを内に秘して外に現さざる様戒め、貞を守るべきことを説く、争ふは凶なり。

◎就職、試験 此爻陽の働きを内に藏し外に現さざる様戒むるもの、又變じて艮となれば停滯の象 故に就職急に調はず、試験は實力よりも不成績なり。然し「或從王事」とあり、又「有終」とあれば 暫く貞正にして時を待たば、就職調ふ望みあり。試験も次回は好成绩を得べし。

◎開業、轉業、移轉 此爻正を得ず。陽徳を内に藏するも外にこれを現すことを戒しむ。何れも進むべき時にあらず。「可貞」とある戒めを守り、正固の心掛けを守りて時を待つべし。

◎天 候 此爻位を得ず。陽の働きを外に現すことを戒む。故に天候悪し。

六 四 括囊。无咎无譽。

(爻辭讀方) 囊を括る。咎も无く譽も無し。

(象 義) ◎「囊」坤は地の象、地が萬物を受入れるの義を取りて囊に象どれるなり。◎「括」此交陰を以て陰位に居るは閉塞の象、又四爻變じて陽となれば囊の口を結ぶ象なり。故に「括る」と云へるなり。

(意 義) この交陰を以て正位に居り、位正しきも不中である。且上、五の君の側近に居るから、動もすればその勢ひ君を凌ぐ様な恐れがある。従つて自己の智能を誇り才力を現す様なことがあると、人の妬みや非難を受けて災ひを招くに至るものであるから、囊の口を括つて物を出さない様に、自己の智能才力を秘し暗まして外へ現さない様に慎しむべきである。か様に謹慎の態度を守つて居れば間違ひがないものである。然し態度が消極的であるから、間違ひがないだけに又名譽も得られず、平凡であるのは當然であつて、「无咎无譽」と云つてあるのである。乃ちこの爻は位地により時に處する道を教へたのである。

(占 斷)

◎運 勢 この交囊の口を括るが如く、自己の才力智能を秘して外に現さず、萬事控目を守り身を慎しむべき時である。斯くの如く消極的態度を守るべき時であるから、交辭にも「无咎无譽」とある様に、身上に變化波瀾なく平凡無事に過ぐる運勢である。然しこの爻變じて雷地豫の卦となれば雷地中より出て、勢ひを奮ふ象であるから、現在は平穩無事であるが、近き將來には大いに運氣奮ひて雄飛すべき時の來ることを現して居るものである。若しこの豫の運氣に到らざる、交辭の戒めを忘れて、急進妄動に流れる様なことがあると、時勢に反くものであるから、身上に波瀾を招き、失敗災害を招く恐れがある。

◎願 望 交辭に「括囊」とあり、囊の口を括ればその用をなさず。願望達せざる象なり。

◎金 談 交辭に「括囊」とあり。囊の口を括れば金出でず。金談成らざる象なり。

◎賣 買 この交囊の口を括るが如く、消極的態度を守るべき要ある時なれば、賣買共に手控ふべき時なり。従つて「无咎无譽」とあるが如く平凡にして大なる損益なし。

◎相 場 交辭に「括囊」とあるが如く、萬人形勢を窺ひて手を出さざる象なり。従つて「无咎无譽」とある如く相場平凡に持合ふべし。然し變卦豫は雷地中を出て、勢ひを奮ふ象なれば先行は上放れて活氣を呈すべし。

◎縁 談 「括囊」とあるより見て、縁談結ばるゝ象、然し「无咎无譽」とあれば平凡の縁にて吉凶なし。

◎子 實 「括囊」とあるより見て、子宮閉塞の象、子實なきか、初めに兒女を得るも後になし。又「无咎无譽」とあれば子供運は平凡なり。妊娠は此交陰を以て陰位にあれば女兒なり。然し變じて震となれば長男の象、故に初産は男兒なり。

◎夫 運 「括囊」とあるより見て、眞面目にして物堅き夫に添ひ安心を得べし。然し「无咎无譽」とあれば安心なるだけに平凡の象あり。

◎妻 運 「括囊」とあるより見て、儉約にして世帯持ちよき妻を得べし。然し「无咎无譽」とあれば才氣容色共に平凡の象あり。

◎家 庭 運 「括囊无咎无譽」とあるより見て、波瀾浮沈なく平凡の運氣に終るべし。

◎壽 命 交辭に咎も無く譽も無しとある如く、人並みの壽を保つ生れなり。

- ◎病氣 この爻過ちもなく名譽もなき意にて平凡の象なれば、病氣は大したることなし。
- ◎待人 坤は退守の象、又爻辭に「括囊」とありて動きなき象なれば來らず。
- ◎走人 坤は陰にして消極的の卦、六四は平穩無事の象、案ずることなく間もなく歸り來るべし。
- ◎失物 坤は安靜の卦、六四は平穩にして動きなき爻、凡て消極受身の象なれば、何所かへ置忘れたるなり。變卦雷地豫は雷地中を出て、勢ひを奮ふ象なれば出づ。坤は西南、變卦震は東、その方角を尋ぬべし。
- ◎旅立 この爻囊の口を括るが如く、進み動くを戒めたるものなれば出でざるを吉とす。
- ◎爭事 この爻囊の口を括るが如く、身を慎しみ物事を控ふべき意あれば争ふは不可。
- ◎就職 「括囊」とあるより見て、物事の結ばれ定まる象なれば、就職定まる。然し「无咎无譽」とあれば、平凡の地位なり。
- ◎試験 咎も無く譽れも無しとあるが如く、成績平凡なり。
- ◎開業、轉業、移轉 この爻囊の口を括るが如く、身を慎しみ物事を控目にし、進み動くことを戒めたるものなれば何れも不可なり。
- ◎天候 この爻變すれば豫となり、雷地中より出で、勢ひを奮ふ象、雨降るべく、雷伴ふ象あり。

六五 黄裳元吉

(爻辭讀方) 黄裳元吉

(象義) ◎「黄裳」「黄」は地の色にして、坤を地となすより取れるなり。「裳」は下衣のことにて、例へば袴、ズボン等に當る。この黄裳と云ふ意義に就いては色々の説があつて、坤は乾の君道に對して臣道であるから、臣に就いて説いたのであるとする説もあり。上衣を天皇と見、下衣に當る黄裳は皇后のことであるとする説もあるが、予は六五は矢張り爻の位地より見て君主の位であるから、飽く迄君主のことであつて、茲に黄裳と云つた譯は、坤は柔順の卦であるから、六五は柔順謙讓の徳を備へてよく人に下ると云ふ意味を取つて、下衣に當る黄裳と云つたのであると考へるのである。

(意義) この爻の意味は、六五は柔順謙讓の徳を備へた明天子で、尊位にあつて誇らず亢ぶらず、坤地の徳をよく現して居る君主であるから、大いに吉であると云ふ意味である。

(占断)

◎運勢 この爻尊位にあつてよく柔順謙讓の徳を備へ、誇らず亢ぶらざる象で、坤地の徳を發揮するものであるから大いに吉なることを示して居る如く、運勢和順を得て吉祥幸福なることを現して居るものである。然しこれが爲に自分を忘れ坤の順徳を失ひて運氣を破るに至る惧れがあるから、飽く迄この運氣を完うする様、益柔順謙讓の徳を守る心掛けが肝要である。尙この爻變すれば水地比の卦となり、人と親和を計りて吉を得る意、目上の意見を重んじて吉、願望成就、旅立吉等の象がある。

◎願望、金談 この爻坤の徳を完うし、柔順謙讓にして大吉の象なれば、何れも成就す。特に此爻變じて水地比となれば親しき者、目上に計りて便宜を得る象あり。

- ◎賣 買 この爻尊位を占め、坤の徳を完うして大吉の象、賣買共に順調に運びて利あり。然し爻意より見て山氣に走るは凶。
- ◎相 場 この爻坤の高位に居るを以て今相場高きも、變卦水地比は水地上にある象にて、低き所に流るゝものなれば先行安し。
- ◎縁 談 この爻柔順謙讓の徳を備へ、坤の徳を完うするもの、變卦比は親和の象、縁談吉にして纏る。
- ◎子 實 この爻坤の順徳を全うして大吉の象、順良の兒女を得て幸福なり。姪姪はこの爻天位に當り、變卦坎は中男の象、男兒なり。
- ◎夫 運 この爻位高く、然も坤の順徳を完うするもの、地位高く温良の夫に添ふ象なり。
- ◎妻 運 この爻坤の母として女としての徳を完備するもの、理想的の妻を得べし。
- ◎家庭運 この爻坤の順徳を完備して大吉の象、然も變卦比は親和の象、一家和合を得て幸福隆昌を見るべし。
- ◎壽命 この爻坤の徳を完うするもの、坤は地にして長久なり。壽長き象。
- ◎病 氣 この爻坤の徳を完うして大吉の象、病氣間もなく全快すべし。
- ◎待 人 この爻坤の徳を備へて大吉なり。來る。
- ◎走 人 坤は西南、變卦坎は北、その方角を尋ぬべし。此爻坤徳を全うし大吉の象なれば心配なし。
- ◎失 物 この爻大吉 象なれば出づ。方角走人と同じ方を尋ぬべし。

- ◎旅 立 この爻大吉の象、而して變卦水地比に出て、親しみを得、幸運を得る意あれば吉。
- ◎争 事 この爻坤の徳、柔順謙讓の徳を全うして大吉なる象、争ふは絶對に凶なり。
- ◎就職、試験 この爻坤の順徳を完うして大吉の象、就職定まり、試験優良なり。特に變卦水地比に目上に計りて便宜を得る象あれば就職は目上に依頼すべし。
- ◎開業、轉業、移轉 この爻大吉の象あれば、何れも進みて吉なるも、爻意柔順謙讓を守りて吉なるものなれば、轉業、移轉は現状順調ならば却つて動かざるを吉とす。
- ◎天 候 この爻變じて水地比となれば、地上に水ある象なれば雨なり。然し爻意大吉なれば間もなく晴る

上 六 龍戰于野 其血玄黃

(爻辭讀方) 龍野に戰ふ。其血玄黃。

(象 義) ◎「龍」龍は本來乾の象であるが、此爻陰なるに龍と云つたのは、上六は陰の極に進んで居つて、その勢ひが盛大で、陽と見違ふ程になつ居ると云ふ意味から云つたのである。◎「野」野とは郊外のこと、六爻の外乃ち卦の外の意味である。上爻に郊乃ち町又は村の象あるより云つたのである。◎「玄黃」玄は天の色、黄は地の色のことで、茲ては血の色に例へたもので、玄の方は陽が流した血の色で、黄の方は陰の流した血の色である。

(意 義) この上六は陰の極で、その勢ひが盛大を極め、陽に紛らはしい程になり、將に陽を犯さんとし

て陰陽相戦ふ象で、恰も野原に於いて陽の龍と陰の龍が相戦ふに至り、双方の龍が共に傷いて血を流して居る状態である。然し双方共に傷いたとは雖も、それは唯一時的のことであつて、元々陽は剛健、陰は柔順の性質のものであるから、結局は陰は陽に勝てないのが當然であると云ふ意味が、言外に籠つて居るのである。そこでこれを人事に當てて考へて見ると、女子小人が勢ひを得て増長すると、君夫を侮蔑して、これを犯さんとするに至るものであり、それが爲に、君臣、夫妻共に難み傷く様な體態たる有様を呈するに至るものであるが、如何に女子小人が増長しても、結局は君夫に及ぶ所でないといふ意味である。乃ち一時的に如何に勢力を得ても、悪は遂に善に勝つことは出来ないといふ戒めである。

(占 断)

◎運 勢 この交陰の極に進み、盛ひに乗じて陽を犯さんとするものにて、恰も双龍野に戦ひて共に傷ける象あり、又變じて山地剝となれば一陽五陰に迫られて危地に立つ象にして、運氣逆轉して危險に陥り、艱難災害の迫る時なれば、身を慎しむ私慾邪念を退け、陰の順徳を守り柔順謙讓の心掛けを第一として進むことが肝要である。尙双龍相戦ふ象より見て争事を生ずる憂ひがあり、陰の陽を犯さんとする象より見て本分を忘れ、私利私曲に走りて災ひを招く懼れがあり、變卦剝となり五陰一陽に迫る象より見て、小人不善者の爲に災害を招く象、女難、金錢上の損失迷惑等を招く憂ひがあるから注意を要する。

◎願 望 この交陰が勢ひに乗じて陽を犯さんとする象にて事理に反し、又變じて艮となれば停滯の象、故に願望成就せず。

◎金 談 この交勢ひに乗じて理に反むくもの、又變じて山地剝となれば、金錢散ずる象、故に調はず。

◎賣 買 この交双龍戦ひて共に傷く象なるは、賣買共に損失の象、又變卦剝は進みて敗れを見る象なれば賣買共に失敗の象なり。

◎相 場 この交陰陽の双龍相戦ひて共に傷く象より見て、強弱混戦、相場亂高下を示す象なり。而して陰の陽に勝つ能はざるは天理なれば、一時強氣の勝に歸するも、變卦剝は一陽五陰に迫らるゝ象なれば結局相場崩る。

◎縁 談 この交陰陽の双龍戦ひて共に傷く象、縁談成立せず。又陰勢ひを得て陽を犯さんとするものなれば凶なり。

◎子 實 この交双龍戦ひて共に傷く象より見て、兒女病弱又は災難の爲に育たざる象なり。而して變卦剝は運氣衰退の象なれば子供運凶にして不幸の象なり。妊娠は陰の勢ひを極めたる交なれば女兒なり。

◎夫 運 この交變じて剝となれば、一陽五陰に迫られて陽の勢ひ弱したる象なれば、夫に働きなく、特に女の關係にて苦勞多き象なり。又双龍戦ふ象より見て争ひ絶えざる象なれば、夫運凶なり。

◎妻 運 この交陰の勢ひ強くして陽を犯さんとするもの、又陰陽の双龍相戦ふ象、故に強情我儘の妻に添ひて苦情争論絶えざる象なり。

◎家庭運 この交双龍戦ひて共に傷く象なるは、家庭に争ひ絶えざる象にして、又變卦剝は零落の象なれば家庭運悪しく苦勞多し。

- ◎壽命 この爻陰の勢ひ強く陽を犯す象なるは、身體の虛弱を現し、又變卦剝は運氣凶を示す。短命の象なり。殊に其血玄黃とあるより見て不慮の災難の爲に壽を縮むる懼れあり。
- ◎病氣 この爻陰の勢ひ強くして陽を犯すは病勢昂進の象、又双龍相戦ふは危険の象、病勢險惡にして生命の危険を示すものなり。
- ◎待人 この爻變じて艮となれば妨げ止めらるゝ象、又双龍戦ふは危険の象にて運氣凶なり。待人來らず
- ◎走人 この爻双龍野に戦ひ其血玄黃とあるは危険の象、走人の身上に危険迫れることを示す。坤は西南雙卦艮は東北、その方角を至急に尋ねべし。
- ◎失物 この爻變じて剝となれば、運氣凶にして、破財損失の象、失物出でず。
- ◎旅立 この爻双龍野に戦ひ、危険の象、變卦剝は運氣衰退を示す。危険故障災難の憂ひあり。旅立は絶對に凶。
- ◎爭事 この爻双龍相戦ひて共に傷く象なれば、争ひは共倒れとなりて彼我共に凶なり。
- ◎就職、試験 變卦剝は運氣衰退の象、然も上六は双龍戦ひて危険の時、就職成らず。試験不成績なり。
- ◎開業、轉業、移轉 この爻陰の陽を犯すものにて理に反し、双龍戦ふは危険の象、變卦剝は氣運衰退の卦何れも凶なり。
- ◎天候 この爻陰勢ひを得て陽を犯さんとする象なれば、天候險惡に向ふものなり。

用六 利永貞

(讀方) 永貞に利し。

(意義) 用六は乾の用九と同じく、陰爻に對する一般的の注意であつて、坤の卦の大爻のみならず、他の六十二卦に於ける凡ての陰爻に對する注意である。それで「利永貞」と云ふ意味は、永は長き義、貞は正しきを固く守つて動かぬ義であつて、陰はその性質が柔弱で躁がしく、落着きを缺く爲に、常道を守ることが六つかしく、進退共に動搖し易くして、兎角陽を犯さんとする懼れがあるから、坤の本性である、柔順貞正にして永久恒常の徳を、固く守るべきであると教へ戒しめたのである。



水雷屯 屯元亨、利貞、勿用有攸往、利建侯。

(卦辭讀方) 屯は元いに亨る。貞しきに利し。往く攸有るに用ふること勿れ。侯を建つるに利し。

(象義) 乾の卦の所で説明した通り、易は六十四卦の初めに乾坤の二卦を載せて、天道地道の根元性情を説き、これに基づいて人道の大綱を示してあるのであるが、この水雷屯以下の卦では、人事の細目に涉りてその経緯を説き、而してこれに處する道を懇切に教へ諭してあるのである。それで乾坤は宇宙に取れば天地であり、人事にとれば父母に當るのであつて、この天地父母に當る乾と坤とが始めて交りて生れ出でたるものが、屯の下卦震であつて長男に當り、又次に交りて生れたものが、屯の上卦の坎で次男に當り、互體の艮が

少男て乃ち三男に當るのである。又屯の裏卦は火風鼎になり、その下卦巽は長女、上卦離は次女、互體兌は三女に當るのである。これ併せて三男三女が出来たことになつて、乃ち天地の氣を父母が受けて三男三女を生じ、茲に人事百般の源泉が現れたことになるのである。◎「屯」屯とは難むの義で、上の「バ」は地の象で、下の「屯」は草木の根の象であつて、草木が始めて、地を破つて萌芽を發し、伸びんとして未だ伸びることが出来ず、難む象である。これを卦の陰陽の關係から見ると、下卦の震は一陽が二陰の下にあつて進み伸びんとして動く象があり、上卦の坎は一陽が二陰の間に陥りて難む象であつて、丁度草木が漸く芽を出したけれども、未だ脆弱で、風雨の難に遭つて暢び難む象を現して居り、又これを時に取つて考へると、天地が始めて開け、萬事が未だ整頓せず、混沌として定まらざるときに當つて居るのである。乃ち屯は天地の元氣を受けて萬物がこれから發生せんとする創造受難の時である。◎「侯」侯とは、統治者の意で、初爻が成卦の主となり、確固不拔の象ある。取つて云へるなり。

(意 義) 屯の卦に於いても「元亨」と云つてあるが、これは乾の卦に於けるが如く、直に「元亨」と云ふ意味ではない。元來「屯」は象義の所に於いて説明した通り、創造受難の時で、天地萬物が未だ整頓せず混沌として險難の時であるから、この時に當つては、よく辛苦艱難に耐へ、努力して怠ることなくして、始めてこの險難の時を脱して、遂に大いに通達することが出来るのである。故に次に「利貞」と云つて、身を守るに固く正しくせなければならぬと戒めてあるのであつて、この貞乃ち正固の心を守つて始めて元亨することが出来るのである。それから「勿用有攸往」と云つてあるのは、かゝる艱難の時に無暗に輕はづみ

に進めば、自ら求めて困難の渦中に陥るものであるから、斯くの如く輕舉妄進してはならぬと云ふ戒めてある。又「利建侯」と云ふのは、屯は創造混沌の時で、これを國家に取ると、開國創業の際で多事多難の時であるから、働きがあり徳のある人を立て、中心となし、統治を行つて行くやうにせねばならぬと云ふ意味である。乃ち屯の卦は萬事萬物の創造の時に當り、又國家創業の際に當りて、取るべき態度並びに注意を説いた卦である。

(占 斷)

◎運 勢 屯の卦は創造受難の時で、多事多難を極め、辛苦艱難多き象で、これに對する態度注意を説いた卦であるから、この卦を得たる時は、一身上に色々多事多難、運氣艱難を示す時であるから、宜しく卦辭の戒めに従ひ、身を慎しみ心を正しく固く持ち、忍耐努力を第一として、輕舉妄動に流れぬやうに心掛けることが肝要である。以上の注意を守りて進めば、よく一身上の問題を解決、ることを得て艱難辛苦を脱し、卦辭に「元亨」とあるが如く、平安順調の氣運を迎へて、功を遂げ悦びを得るに至るものである。尙卦意、卦象より見て、物事を新しく始める象、他に推されて人の上に立つ象、風雨、水難の象、辛勞事等を招く象がある。

◎願 望 屯は物事の始めにて故障多く、辛苦艱難の象なれば、願望成就迄には支障困難多し。然し卦辭の戒めを守り、忍耐刻苦努力を怠らざれば、「元亨」とあるが如く遂に成就すべし。

◎金 談 屯は故障艱難甚しき象、故に妨げありて容易に成立せず。然し忍耐努力して進まば成就の望みあり。

り。

◎賣買 屯は多事多難にして故障艱難の時、急進妄動を戒むるものなれば、賣買共に堅實の方針を守りて時機の到来を待つを吉とす。

◎相場 屯は草木の萌芽伸び悩むの象、故に相場上らんとする氣配ありて伸び悩む象なり。

◎縁談 屯は艱難多事の時に難む象なり。故に縁談故障ありてなか／＼纏らず。然し氣長に進まば卦辭に貞正を守りて忍耐せば元いに亨る意味あるより見て纏る望みあり。末は吉。

◎子 賣 屯は乾坤交りて三男三女を生ずる象、兒女多し。然し艱難多事の象あれば子供に就きて苦勞多し末は吉。姪は下卦震は長男、上卦坎は中男の象なれば男兒なり。

◎夫 運 屯は物の始めにて艱難多き象、然し遂には元いに亨るものなれば、初めは夫に就きて苦勞あるも後には幸福を得べし。

◎妻 運 屯は艱難多事の象なれば妻に就きて故障辛勞多し。然し遂に通達を得るものなれば、後には吉。卦意より見て縁の變ることあり。

◎家庭運 屯は艱難多事の象、故に家運に故障波瀾多く辛勞あり。然し卦辭の戒めを守りて、心身を正固に持ち忍耐努力せば元いに亨るとある如く末は幸福を得べし。

◎壽命 屯は草木、萌芽脆弱にして風雨の爲に悩む象、故に身體虛弱なり。然し卦辭の戒めに従ひ攝生を嚴守せば健康を得て壽を保ち得べし。

◎病氣 屯は物の始めなれば病氣の初めなり。而して多事艱難の象あれば、病勢に變化多く前途大いに危険なり。快否は卦辭の戒めの如く養生如何に依る。

◎待人 屯は故障艱難多き象、故に妨げありて直に來らず。然し遂に通ずるものなれば久しくして來る。

◎走人 屯は險難の象、故に家出後困難し居るべし。上卦坎は北、下卦震は東、その方角を尋ねべし。

◎失物 屯は伸び悩む象、故に現在は人手に渡り居らず。然し遂には通ずるもの、通ずれば動く、故に長引かば人手に渡る憂ひあり。方角走人に同じ。

◎旅立 屯は艱難多事の時、輕進を戒むるもの、出でざるを吉とす。

◎爭事 屯は險難の時に貞正を守るべきもの、争ふは不可。

◎就職 屯は險難の時に物事の伸び悩む卦なり。就職故障ありて長引く。然し貞正を守らば遂に通ずるもの、忍耐努力せば先々纏る望みあり。

◎試験 屯は物事の伸び悩む卦、不成績なり。卦辭の戒めを守り大いに勉強すべし。

◎開業、轉業、移轉 屯は艱難多事の時にて輕進妄動を戒むる卦なり。何れも進むは不可。

◎天候 屯は創造の時に混沌の象、天候定まらず。然し遂に通ずるものなれば後には晴る。

初九 磐桓、利居貞、利建侯。

(爻辭讀方) 磐桓たり。貞に居るに利し。建つて侯たるに利し。

(象 義) ◎「磐桓」磐桓とは險中に動きて進み難き義、初九が陽を以て陽位に居り、位正しく且下卦震の主となつて、大いに爲すある才徳を備へながら、今や屯難の時にて急に動き進むことが出来ず、若し強いて進めば自ら求めて外卦坎の險難に陥る憂ひがあるから、才徳を有しながら進み兼ねて居る象を云ふのである (意 義) 初九は「磐桓たり」とあるが如く、位正しく陽剛にして、下卦震の主となりて有爲の才徳を備ふるも、今屯難の時にして急に進み動く時は、險難に陥る憂ひがあるから、進み兼ねて居るものであるが、斯くの如く多難危険の時には、正しく固く守つて輕々しく進まず、時節を待つのが機を得た良い態度である乃ち「利居貞」とあるのはこの戒めの言である。次に「利建侯」とあるのは、屯難の時であるから、輕々しく進み動くのは良くないが、絕對に進んではならぬと云ふのではなく、元來初九は有爲の才徳を備へてこの艱難多事の時を治め救ふ爲に、立つて統治者となるべきだと云ふ意味である。これを要するに、才徳があつて有爲の人材でも、時節の到来せぬのに輕舉妄動することは慎むべきであつて、陰忍自重して時節の到来を待ち、時が来たならば奮起して大いに活動せよと云ふ、時勢に處する教を説いたのである。

(占 斷)

◎運 勢 初九は位正しく陽剛にして成卦の主となり、有爲の才徳を備へて居るものであるが、今屯難の時にて艱難多事であるから、輕進せず、陰忍自重して時節の到来を待ち、時を得たならばその才徳を發揮して大いに活動せよと云ふ意味の爻であるから、この爻を得た時は、徳もあり働きもある人であるが、時勢に遭遇

せず、辛勞困難が多く、物事が意の如く運ばぬ運勢であつて、徳を現し働きを示すことが出来ぬ状態である。かう云ふ時は兎角あせつたり無理をしたりする様なことになる易いものであるが、爻辭に戒めがあるが如く、正しく堅實な態度方針を守つて時節を待ち、輕舉妄動せぬ心掛けが大切である。この心掛けを守つて進めば間もなく時節が到来して、吉運順調に向ひ、大いに活躍し得る時に會するものである。尙爻意より見て、これ事、故障辛勞事等を生ずる象がある。

◎願 望 初九は屯難の時に遭ひ、進み難く時節を待つべき象、願望成就望み難し、時節を待つべし。

◎金 談 初九は屯難の時に會して進み難く、物事意の如くならざる時なり。金談調はず。

◎賈 買 屯は險難の時、初九は時を得ずして意の如くならざる象、賈買共に支障ありて順調に運ばず。爻辭の戒めを守り時機の到来を待つべし。

◎相 場 初九陽剛の徳を備へながら、屯難の時に會して進み動き難き象、相場底意強きも伸びず。教調を示す。

◎縁 談 初九屯の險難に居り、進み難き象、縁談故障ありて急に運ばず。暫く時を待つべし。然らば卦意爻意より見てこの縁纏るか、更に良縁現るべし。

◎子 實 爻辭に「磐桓たり」とあるが如く、初九は才徳ありながら進み難き時なれば、初めは子供に就きて辛勞あり。然し「利建侯」とあれば末は幸福なり。姪姪はこの爻陽にして正を得。男兒なり。

◎夫 運 初九陽剛の徳を備へながら時を得ずして進み難き象、然し後には建て候たるべき力あるもの、故

に初めは夫に就きて苦勞あるも後には夫世に出て、幸福を得べし。

◎妻 運 この爻初めには艱難に處して難むものなるも、後には立ちて侯となり才徳を現す機會を得。故に妻運初めは悪しく故障辛勞あるも、後には吉を得て幸福なり。

◎家庭運 初九初めは屯の險難に處して難むものなるも、後には時に會して侯たるを得。故に家庭運初めは悪しく、辛勞困難あるも、後には吉運を迎へて幸福なり。

◎壽命 初九は位正を得て陽剛の徳を備ふるを以て、天性健康長壽の生れなるも、屯難に會して難むが如く、中途にて病を得、健康を害し壽を縮むる憂ひあれば注意を要す。

◎待人 初九は屯の險難に處して進み動き難き象、故障ありて待人來らず。

◎走人 初九は艱難の時に遭ひて進み動き難き象、遠方に走らず、近くに居るものなり。下卦坤は西南、變卦震は東、その方角を尋ぬべし。

◎失物 初九は艱難の時に會し進み動き難き象 外に出でず。變卦水地比は和順の卦なれば出づ。方角走人に同じ。

◎旅立 初九は屯の險難に處し、輕進妄動を戒むるもの、出で、故障災難に遭ふ憂ひあり。凶。

◎爭事 初九は輕進妄動を戒むるもの、且變卦水地比は親和を計りて吉なる卦。故に争ふは不可。

◎就職、試験 初九は屯の險難に會し、意の如くならざる象なり。故に就職望みなく、試験不成績なり。

◎開業、轉業、移轉 初九は屯の險難に處し、輕進妄動を慎しむべき時なり。故に何れも不可。

◎天候 屯の上卦坎は水の象、下卦坤は地の象、水地上にあるは雨降る象、然し初九陽剛にして動かんとするは晴れる象。

六二 屯如、遭如、乘馬班如、匪寇婚媾、女子貞不字、十年乃字。

(爻辭讀方) 屯如たり。遭如たり。馬に乘りて班如たり。寇するに匪す。婚媾せんとす。女子貞しうして字せず。十年にして乃ち字す。

(象 義) ◎「屯如」屯如とは難みて進み難き義、◎「遭如」遭如とは旋回して進み難き義、共に下卦の震が進み動かんとし、上卦坎の險難に遭ひて進み難き象より取りて云ふ。◎「乘馬班如」馬は下卦震の象より取り、二爻が初爻の陽の上に乗れるより馬に乗ると云へるなり。班如とは進まんとして又退く象で、六二は元來九五と正應で、これに従ふべきであるのに、陰にして陰位に居り、その性柔弱なる上に、今屯の艱難の時にある爲に、進んで九五に従はんとするが、氣力乏しく進み兼ねて初九が陰陽相比して居る爻である爲にこれに引つけられて再び引返して來ると云ふ意味である。◎「寇」九五を指して云ふ。元來九五は應爻で六二の味方であるのを、屯難混沌の時である爲に、寇と考へ違へたのである。◎「字」字とは妊娠の義で茲では思ひを遂げる意味である。

(意 義) 六二は柔順中正であるが、今や屯の時で艱難多事であり、陰を以て陰位に居るもので、その性質が柔弱である爲に、進んで九五に従はんとする心がありながら、比爻の初九に引かれて進み兼ねて又後へ

戻つて来る様な有様で、進退の定まらぬものである。乃ち「屯如逌如乘馬班如」と云つてあるのがこの意味を述べたのである。それで六二は九五が自分の正應でこちらへ来いと云つて招くのを、寇である様に考へ違ひして居るのであるが、實際九五は心から六二を招いて結婚しやうとして居るので、決して寇ではないのである。「匪寇婚媾」と云ふのがこの意味を述べたのである。斯くの如く六二は進退に迷ひ九五の心を疑つて見たものゝ、元々柔順で正しい性質であるから、よく貞節を守つて初九に引つけられてしまはず、十年の間も固く身を守つて居る結果、屯の艱難も解け、九五の本心も解つて、遂にこれと目出度く結婚することが出来る様になるのである。「女子貞不字十年乃字」とあるのがこの意味を述べたのである。これを要するに此爻ては女子の貞節忠臣の節義を解き教へたのである。

(占 断)

◎運 勢 六二は陰を以て陰位に居り、柔弱なる爲に屯の艱難に處して進退に迷ふものであるが、柔順中正の徳がある爲に、よく節を持って屯難を脱し、終を全うするものである。故にこの爻を得た時は、身上多事にして運氣艱難の象で、色々と心に迷ひの起るものであるが、正節を持ち柔順の心掛けを守り、忍耐を第一として進退を過らぬことが大切である。以上の心掛けを守りて進めば、艱難自然に解け、九五の如き目上の助力者も現れて吉運順調の時を迎へ得るに至るものである。
◎願 望 六二は屯難の時に遭ひ進退定まらぬもの、願望拂々しく運ばず。故に六二が十年字するが如く忍耐して時を待つべし。然らば爻意の如く遂に成就を得るに至るべし。

◎金 談 六二は屯難の時進退に迷ふもの、又變卦水澤節は節約の象、金談調はず。

◎賣 買 六二は柔弱にして進退に迷ふもの、果斷を缺きて掛引進退を過ち、賣買共に失敗損失の象あり。進むべからず。

◎相 場 六二は進退に迷ひ十年も字せざるもの、相場長く氣迷ひて持合ふ。而して變卦節は物を節する象故に後安し。

◎縁 談 六二は進退に迷ひ十年も應爻九五に字せざるもの、故に女の方迷ひて縁談決せざる象なり。然し遂に字するに至るものなれば、氣長に運ばゞ結局は成立すべし。

◎子 實 六二は屯の險難に遭ひて惱み迷ふ象、子供に就きて苦勞ある象なり。然し後には屯難自然に解くるが如く、幸福を得べし。姪姪はこの爻柔順中正なれば女兒なり。

◎夫 運 六二は迷ひて進退決せざるもの、柔弱薄志の夫に添ひて苦勞する象なり。

◎妻 運 六二は屯難に會してよく柔順中正の徳を守り、貞節を全うするものなれば貞實柔和の妻を得べし。

◎家庭運 六二は初め屯難の爲に惱み、後に艱難を脱する象、又變卦節は節度ある象、故に初めは家庭の苦勞艱難多きも、よく節を守りて忍耐を守る爲に末は幸福を得る象なり。

◎壽 命 六二は柔弱にして進退に迷ふもの、身體虛弱にして短命の憂ひあるも、よく十年貞節を守りて艱難を脱するものなれば、攝生よき爲に壽を保ち得る象なり。

◎病 氣 六二は柔弱にして十年も進退に迷ふ象なれば、病勢ぐつつきて長引く。快否は爻意の示すが如く

辛抱と養生次第なり。

◎待人 六二は十年も迷ひて進退決せざるもの、來らず。

◎走人 六二は十年の長き進退に迷ふもの、行先不明にて容易に判明せざる象なり。又この爻陽爻なる初九と九五に引かれて心迷ふ象なれば、女ならば男子關係の纏れあり、下卦震は東、變卦兌は西、その方角を尋ぬべし。

◎失物 六二は進退に迷ふもの、出でず。然し十年にして字する象あれば、久しき後に發見する象あり。方角走人に同じ。

◎旅立 六二は屯難に處して進退に迷ふもの、變卦節は退守を吉とする卦なれば、出でざるを吉とす。

◎爭事 六二は柔順中正の徳を守りて終りを全うするもの、争ふは不利。

◎就職 六二は十年の久しき進退決せざるもの、長引きて定まらず。

◎試験 六二は屯難に遭ひ、迷ひ悩みて進退決せざるもの不成績なり。

◎開業、轉業、移轉 六二は柔順中正を守りて終りを全うするもの、又變卦節は退守を吉とする卦、故に何れも進むは不可なり。

◎天候 六二が陰にして正位を得るは雨天の象なり。

六三 即鹿无虞、惟入林中、君子幾不如舍、往吝。

(爻辭讀方) 鹿に即いて虞無く、惟り林中に入る。君子幾捨つるに如かず。往くときは吝なり。

(象 義) ◎「鹿」外卦坎の象より取り、九五を指す。◎「无虞」虞とは山林を司る官吏にて、狩獵場案内人とも云ふべきもの、六四を指す。「虞無し」と云へるは、六四が六三と比せず、又六三は上に應爻もなく、助くるものなきより云へるなり。◎「林中」約象艮は山、下卦震は草木の象、且六三變すれば互體坎となり暗の象、故に林中と云へるなり。◎「幾」は機に同じく、努牙のこと、乃ち鹿を射る弓矢のことなり

(意 義) 六三は下卦の終に居り、その性質が躁しく落着きがないもので、案内人たる六四の案内がないに拘らず、鹿を射留め様として無暗に林中の中へ別入るもので、これを人事に取つて見れば、利を追ひ祿を求めて躁進妄動するものである。斯くの如きものは鹿を追つて無暗に林中に別入り、道を迷ひて難避するものと同じく艱難災害に陥るは必然のこととして「即鹿无虞惟入林中」とあるのはこれを云つたのである。然るに君子乃ち賢明の人は、時を知りて妄動躁進せず、丁度鹿を追ひて無暗に案内人なくして森林中に別入りて危険を犯すやうなことなく、弓矢を捨て、鹿を獲ることを断念するのと同じく、利を追ひ祿を求めて無暗に妄動する様なことはないのである。乃ち君子は斯くの如く時を知りて妄動躁進せぬから、一身の安全を得ることが出来るのである。故に誰でもこの君子に習ひて時勢を察し、妄動躁進を慎しむべきであると戒めたので「君子幾不如舍」と云つてあるのがこれを説いたのである。然るにこの君子の行動に習はずして妄動躁進

するやうなことがあると、危険災害に陥り困難に遭遇するものであつて「往吝」と云ふのはこれを戒めた言
で、吝とは侮蔑を受け恥辱を取るの義である。これを要するに、六三は、時勢を察せずして無暗に利慾に走
り、功名心に驅られて妄動躁進する徒を戒めたのである。

(占 断)

◎運 勢 六三は下卦の終りに居りて性質輕躁なるもの、その上比なく無援孤立にして、恰も鹿を追
ひて獨り林中に入り、道を迷ひて難避するものと同じである。故にこの爻を得たる時は、他に助けなく、氣
運時を得ざるに拘らず、利慾功名の念に驅られて堅實慎重の態度を欠き、輕進妄動に走りて失敗災害を招き
艱難に陥る象の運勢である。斯くの如き時に當りては、君子が時勢を知りて、輕舉妄動を慎しむが如く、弓
矢を捨て、鹿を獲ることを断念するが如く、利慾を断ち、功名心を捨て、身を慎しむ行ひを改めて、安全を
計ることが肝要である。尙又意より見て、進取に不可、退守に吉、輕卒よりの過ち、山氣よりの失敗等を招
く象があるから注意を要する。

◎願望、金談 六二は時勢を得ず。鹿を獲んとして林中に入り、道に迷ひて目的を果さざるもの、願望、金
談共に成就せず。

◎賣 買 六三は時勢を察せず、利慾に驅られ輕舉妄動に走りて失敗災害を招くもの、故に賣買共に機運時
勢を考へず、利をあせりて、妄進し、失敗損失を招く象なり。宜しく君子が時を知りて断念し、身を慎しむ
て安全を得るが如く、損失を思切りて手を引く心掛け肝要なり。

◎相場 六三は鹿を追ひて林中に迷ふもの、相場氣迷ひて浮動する象、而して變卦水火既濟に初め吉にし
て終り亂るゝ意あれば、先行一時上りて後下るべし。

◎縁 談 六三は輕躁にして妄進し、艱難に陥る象、又變卦既濟は初め吉終り凶なる卦なれば、輕卒に縁を
結びて後悔する象あり。君子が慎重にして断念し、よく災ひを免るゝが如く、思切りたる方吉なり。

◎子 實 六三は時運を得ず。林中に入りて難避する象、子供のことに苦勞多し。姪姪は此爻陰にして變
じて離となれば中女の象、女兒なり。

◎夫 運 六三は陰柔にして性質輕躁、鹿を追ひて目的を遂げず、徒に林中に迷ふもの、故に柔弱輕薄にし
て威力なき夫に添ひ苦勞する象なり。又變卦既濟に別離の象あれば縁變ることあり。

◎妻 運 六三は性質輕躁にして妄動するもの、だらしなく出しや張りものゝ妻を持ちて惱まざるゝ象なり
又變卦既濟に別離の象あれば縁變るべし。

◎家庭運 六三は輕舉妄動に走りて艱難を招くもの、慎しみを缺き行ひを亂して家運を破り、不幸に陥る象
なり。君子の身を慎しむに鑑みて慎しむを守り、家運の安全を計ること肝要なり。

◎壽 命 六三は陰柔輕躁にして身を破るもの、身體虛弱の上に素行治まらず、健康を損じ短命に終る象な
り。君子の身を慎しむに鑑みて謹慎攝生を守り、壽を保つ心掛け肝要なり。

◎病 氣 六三は輕舉妄動身を破るもの、養生を怠りて危険に陥る象なり。君子の身を慎しむに鑑みて養生
を專一に心掛くべし。

◎待人 六三は鹿を追ひて林中に迷ふもの、来る意志あるも支障ありて來られざる象なり。
◎走人 六三は林中に迷ひて難避する象。行先にて困難し歸りたき意志あるも、きまり悪くして歸られざる象なり。而して迷へる者が案内人を望むが如く迎ひの者を待ち居る象あり。震は東、變卦離は南、其方角を尋ぬべし。

◎失物 六三は林中に迷へる象、何かの中に紛れ込み居るなり。方角走人に同じ。

◎旅立 六三は道に迷ひて難避する象、出て、災難故障に遭ふ憂ひあり。凶。

◎争事 六三は輕躁の性、躁進妄動して身を破るもの、争ふは絶対に不可なり。

◎就職、試験 六三は鹿を獲んとして目的を達せざるもの、就職調はず。試験不成績なり。

◎開業、轉業、移轉 六三は時勢を得ざるに輕舉妄動して艱難に陥るもの、故に何れも進むは時を得ずして凶なり。

◎天候 六三陰にして雨の象なるも、變じて離となれば太陽となり、又明かなる象、故に晴る。

六四 乘馬班如、求婚媾、往、吉无不利

(爻辭讀方) 馬に乗りて班如たり。婚媾を求めて往く。吉にして利しからざる無し。

(象義) ◎「乘馬」下卦震を馬となす。六四これに乗るを以て云へるなり。◎「班如」進まんとして又退く義にして、六四は初九と正應であるから、その方へ行かうと欲するのであるが、今屯難の時て意に任せ

ず、且上に九五が居つて陰陽相比して六四を招いて居るから、どちらへ行かうかと進退に迷ふ象があるのを云つたのである。所て六二には「道如」と云つてあつて茲にその言がない譯は、六二は屯難の初めに居つて困難の度、強いが、六四は屯難の半ばを過ぎて餘程困難の度が薄らいて居るからである。◎「求婚媾往」これは六四は屯難の時を救はんとする志切なるものがあるが、陰柔にしてその力が足らない爲に、自分の正應である初九へ助けを求めて行くと云ふ意である。
(意義) 六四は屯難の時を救はんが爲に、正應である初九へ助けを求めに行かうとするが、屯難の時て困難が多く、且比爻の九五が自分の所へ引つけやうとして迫る所があつて意の如くならず、進退に難むものがある。「乘馬班如」と云ふのはこれを述べたのである。然し六四は初九に助けを求めて行く志の切なるものがあつて、飽く迄その助けを求めて行く所があり、初九とは元々正應であつてその志が正しく道に合つて居り、屯難の時も半ばを過ぎて居ることであるから、必ずその思ひを遂げて、初九と心を併せて力を共にして屯難の時を救ふことが出来る様になると云ふ意味で、「求婚媾往吉无不利」あるのがこれを述べたのである。これを要するに六四は、高きに居りて下位の賢者に下り、心を慮しうして時世の艱難を救はんとする志の人を讚美したのである。

(占断)

◎運勢 六四は屯難の時に處し、進退に悩む象あるも、これを救ふ志強く、よく下位の初九と心を併せて遂にその目的を達するものである。故にこの爻を得たる時は、運氣艱難にして辛勞の象あるも、意志を強固

に持ちて迷はず焦燥らず、辛勞艱難を屈服すべく努力する心掛けが肝要である。この心掛けを持して進まば六四が遂に目的を達するが如く、難關を打破して吉運を迎へ、功を遂げ悦びを得るに至るものである。尙此爻初九の助けによりて目的を達するより見て、目下の賢才の力により功を遂ぐる象がある。

◎願望、金談 六四は初め屯難に處して難むものなるも、堅忍よくこれを救ふものなれば、願望、金談共に初めは故障ありて困難なるも、忍耐努力して進まば遂に成就すべし。又初九との關係より見て、目下の賢才の力を借りて便宜を得べし。

◎賣 買 六四は初めは艱難に難むも後にこれを打破する目的を達するもの、賣買共に初めは支障困難ありて意の如く運ばざるも、忍耐努力せば後には順調を得て利益成功を見る象なり。

◎相場 六四は初め屯難に會して進退に迷ふ象あるも、後に志を遂ぐるものなれば相場目先氣迷ひて浮動するも、後には上るべし。

◎縁 談 六四は初め難みあるも後にはこれを打開して目的を遂ぐるもの、又變卦澤雷隨に物事長引く象あり。故に縁談初めは故障ありて行悩むも、後には成立して吉なり。

◎子 賣 六四は初め屯難に處して艱難なるも、後にはこれを打開するに至る象なれば、初めは子供に就きて辛勞あるも、後には幸福を得る運氣なり。又姪姪は此爻陰にして正位を得、故に女兒なり。

◎夫 運 六四は屯難を救ふ熱誠強く、堅忍よく志を遂ぐるもの、熱血眞摯の夫に添ひ、初め苦勞あるも後は幸福なり。

- ◎妻 運 六四は眞實と熱誠を以て陽爻初九と心を併せ、遂に屯難を救ふもの、又變卦隨はよく他に隨順なる象、故に熱情と眞實の心を持ち、内助の功を盡す妻を得べし。
- ◎家庭運 六四は初九に應ぜんとする志を貫き、遂に屯の艱難を救ふもの、故に初めは家運困難にして苦勞あるも、堅忍の心よくこれを打開し、後には幸福を得るものなり。
- ◎壽 命 六四は初め艱難に會し難むものなるも、堅忍よくこれを打開するもの、故に初めは虚弱の生れなるも意志強く攝生を守ること固く、健康を得て壽を保つものなり。
- ◎病 氣 六四は堅忍よく屯難を脱するもの、變卦隨は物事の長引く象、故に病狀長引くも養生よき爲に恢復すべし。
- ◎待 人 六四は初九に應ずる心切にしてよく難を排して思ひを遂ぐるもの、故に遅るゝも遂に来る。
- ◎走 人 六四は初九に應ぜんとする切なる志を持つもの、故に宿志を遂げんとして走れるなり。上卦坎は北、此爻變すれば兌にして西、その方角を尋ねべし。
- ◎失 物 六四變すれば澤雷隨となり、隨從する象、故に何かに附着して紛失せるなり。辛抱よく探さば六四が遂に志を遂ぐる象より見て出づ。方角走人に同じ。
- ◎旅 立 六四は初め艱難に悩むも遂に志を遂ぐる象、故に故障困難に遭ふ象あるも、忍耐強固を守らば旅立の目的を完うすべし。
- ◎争 事 六四は堅忍にして遂に志を達する象、故に辛抱強く進まば、初めは故障辛勞あるも最後には勝ち

を得べし。

◎就職、試験 六四は熱誠貞實を以て遂に初九と應じて、屯難を救ふ志を送ぐるもの、故に就職初めはなか
く困難なるも、熱心貞實を以て進まば遂に望みを達すべし。試験は六四の如く忍耐勉強するものなれば成
績次第に進むべし。

◎開業 六四が堅忍熱誠を以て志を送ぐるが如く、堅忍と熱意を以て勉勵する覺悟あらば開業して吉。

◎轉業、移轉 六四は遂に志を送ぐる意あれば、必ずしも不可にあらざれども、今屯難の時なれば暫く時期
を待つべし。

◎天候 六四は陰にして正位に居る。雨天の象なり。

九 五 屯其膏、小貞吉、大貞凶。

(爻辭讀方) 其膏を屯す。小貞は吉、大貞は凶。

(象義) ◎「膏」膏とは雨にて潤す義、上卦坎に雨の象あるより取る。◎「屯」屯とは凝滞して廣く行渡
らざるの義で、九五が坎の眞中になり、二陰の間に陥りて難んで居り、下に六二の正應があるが、陰柔不才
でこれを助ける力がないのを指して云ふなり。◎「小貞」色々の説があるが、要するに小事を漸々に正しく
行つて行くこと、◎「大貞」小貞の反對で大事を行ふこと、殊に急ぐ意味が含まれて居る。

(意義) 九五は上卦坎險の眞中に居り、二陰の間に陥つて難み苦んで居る象であり、下に正應の六二が

あるが、これも陰柔不才で九五を助ける力がない状態にあるものである。これを人事に當てはめて見ると、
人君たるものに仁心ありて民を潤さうとする心はあるが、時世艱難の時仁徳を民に施すことが出来ず、下
に六二の如き忠節の志を持つものがあるけれども、これも才力共に貧弱で君を助けることが出来ない状態に
當つて居るのである。「屯其膏」と云つてあるのがこの意味を述べたのである。そこでかかる状態の時であ
るから、小事を漸々に正しく行なつて行くのは良いが、大事を急いで行はうとするのは、假令それが正しく
とも凶であると言ふ意味を説いたのであつて「小貞吉大貞凶」と云ふ句がこれを述べて居るのである。これ
を要するに人君たりと雖も、時勢宜しきを得ざれば、大いに志を伸べることは出来ないから、無理をせず小
事を漸々に行つて行くより仕方がないと云う事を説いたのであつて、我が朝の後三條帝が藤原氏の横暴を退
けることが出来なかつた事蹟、又後醍醐天皇が楠公を專任して足利氏を除くことが出来なかつた史實がこれ
に當つて居るのである。

(占断)

◎運勢 九五の人君民に仁徳を施さんとする志あるも、時勢艱難にして且下にこれを助くるものなく、そ
の志を實行する事が出来ないために、己むを得ず小事を漸々に行つて行く象である。故にこの爻を得たる時
は運氣艱難にして志を行ふこと能はざる状態である。時運斯くの如き時であるから、無理をしたり、力に餘
る大事に手を出さず、自己の力に應じた事を焦燥らずして徐々に實行して行くやうに心掛けることが肝要であ
る。この心掛けを守りて進めば、この爻變すれば地雷復となり、一陽來復、運氣漸次に吉兆に向ふ象があ

るから、志を遂げ功を成す氣運に會するに至るのである。

◎願望 九五は屯難の時、坎險の眞中に陥りて苦しみ、志遂げ難き象なれば、願望成らず。但し「小貞吉」とあれば小望は急がず手固く進まば成る望みあり。

◎金談 小貞は吉、大貞は凶とあるより見て、小金は手に入るも大金は調はず。

◎賣買 九五は坎險に陥りて苦しみ、意遂げざる時、賣買共に故障ありて意の如く運ばず。但し「小貞吉」とあれば小賣買は手固く進まば利を得べし。

◎相場 九五は其背を屯すとあるが如く、凝滞して通ぜざるものなれば、相場軟調に持合ふ。然し變じて復となれば、一陽來復陽氣の伸び進み來る象なれば後漸騰歩調を示すべし。

◎縁談 九五は坎險に陥りて物事凝滞し、通ぜざる象、縁談行悩みて纏まらず。又「大貞凶」とあるより見て、婚姻は人生の大事なれば、この縁談凶なり。

◎子實 九五は坎險に陥りて悩み苦しみ、意通ぜざる象、子供運凶にして苦勞多し。妊娠は九五は陽にして正を得、上卦坎は中男の象、男兒なり。

◎夫運 九五は陽剛なるも今坎險に陥りて苦しむもの、働き有る夫に添ふも、時勢を得ずして苦勞する象なり。然し變卦復は一陽來復の象なれば、末には時運に會して世に出て幸福を得べし。

◎妻運 九五は陽を以て二陰の間に陥り、悩み苦しむもの、妻運悪くして苦勞多き象なり。

◎家庭運 九五は屯難の時坎險に陥りて志通ぜざる象、故に家庭運悪く苦勞多き象なり。然し陽にして中

正を得るを以て、變卦復の現すが如く、後には幸福を得るに至るべきを以て、交辭の戒むる如く、小貞を守りて進むべし。

◎壽命 九五は坎險に陥りて難むもの、身體虛弱の象、「小貞吉」の戒めを守りて健康を計るべし。

◎病氣 上卦坎は病患の象、今九五その間に陥りて難むは病氣重き象なり。大事を取るべし。

◎待人 九五は坎險に陥りて難むもの、故障ありて來らず。

◎走人 上卦坎は北、初九變すれば坤となりて西南の象、その方角を尋ぬべし。而して此爻一陽二陰の間に陥りて難むもの、男子ならば女に關係あり。

◎失物 「小貞吉大貞凶」とあるより見て、小額の物は出づるも多額の物は出でず。方角走人に同じ。

◎旅立 九五は難險に陥りて難むもの、出先にて故障艱難の憂あり。凶なり。

◎争事 九五は屯難退守を吉とする時に當り、坎險に陥りて難むもの、争ふは不可。

◎就職 「小貞吉大貞凶」とあるより見て、地位條件を望まざれば調ふも、然らざれば調はず。

◎試験 九五は坎險に陥りて意通ぜざるもの、不成績なり。

◎開業、轉業、移轉 九五は屯難退守を吉とする時に當り、坎險に陥りて意通ぜざるもの、何れも不可なり。

◎天候 上卦坎は雨の象、而して九五陽を似て二陰の間に陥るは天候悪しき象なり。

上六 乘馬班如、泣血漣如。

(支辭讀方) 馬に乗りて班如たり。泣血漣如たり。

(象 義) ①「乘馬班如」六二及び六四の所にて説明せると同意義にて、茲には上卦坎に馬の象があり、上六が九五に乘れるより云へるなり。②「泣血漣如」泣血とは悲泣の極、涙盡きて血涙出づる義、漣如とは涙の流れ下る象にて、上卦坎に血の象があり、又水の象、憂ひの象あるより云へるなり。

(意 義) 上六は陰を以て陰位に居り、その性質柔弱不才であるのに、今屯難の時に當りて卦の極に居りその位地に止らんとするも安んじて止るを得ず、さりとて進み行く餘地もなく、且上下にこれを助ける應爻もないと云ふ、實に艱難の極に立つて進退窮り、如何ともすることが出来ぬ状態にて、なす所をしらず唯泣き悲しみて、遂に涙も盡き果て、血の涙を流して居ると云ふ様な悲痛な状態にあるものである。「乘馬班如泣血漣如」と云つてあるはこれを述べたのである。これ位徒に高くして徳なく力なく、人の服するものもない孤立無援、悲痛の極にあるものゝ状態であるが、かう云ふ時に當つては、唯なす所なく泣いて居る計りでは仕方のないもので、宜しく元氣を出し、力を蓄つてこの難境を打開する所がなければならぬのであつて、さうすればこの艱難の極も開けて來て、又運氣の回復を得られるものであると云う意味が言外に籠つて居るのである。

(占 斷)

◎運 勢 上六は陰柔不才にして、屯難の時に當りて卦の極に居り、上下にこれを助くるものなく、艱難悲痛の極に陥つて涙も盡き果てた象である。故にこの爻を得た時は、運氣艱難を極め且孤立無援の状態にて、進退に窮し施すに補なき時である。然しかゝる状態にあつては、徒に泣き悲しんで途方に暮れて居るべきでなく、勇氣を出してこれを打開する方法を講ずることが必要である。この勇氣があれば、この爻變すれば風雷益になり、氣運盛大を示す象があるより見て、必ず難局を打開して吉運を迎ふるに至る望みがあるものである。

◎願望、金談 上六は陰柔不才、孤立無援、屯難の極に立つもの、願望、金談共に調はず。

◎賣 買 上六は屯難の時に當り、艱難悲痛の極に立つもの、賣買共に大失敗大損失を招く象なり。決して手を出すべからず。然し現在失敗損失の場合にあらば、絶望せずして打開策を講ずべし。然らば變卦益に隆昌の象あるより見て、切抜け得る望みあり。

◎相 場 上六は艱難悲痛の極に立つ象、相場崩落の兆なり。然し變卦益は氣運盛大の象なれば先行回復を示すべし。

◎縁 談 上六は艱難悲痛の極にあるもの、縁談纏らず。大凶なり。

◎子 實 上六は孤立無援、悲痛の極にあるもの、子供なきか、不幸悲劇を見る象なり。妊娠は此爻陰にして正位を得。故に女兒なり。

◎夫 運 上六は陰柔不才にして艱難悲痛の極に立つもの、夫運悪しく、働きなき夫に添ひて一生苦勞する

か、早く別れて辛勞する象なり。

◎妻 運 上六は陰柔不才、孤立無援にして艱難の極に立つもの、墮弱不敏の妻に添ひて苦しむか、早く別れて難澁する象なり。

◎家庭運 上六は孤立無援、艱難悲痛の極に立つもの、身内の縁薄く、貧窮の家又は没落の後に生れて辛勞を嘗むる象なり。宜しく奮闘努力して身を立て家を興す決心を持つこと肝要なり。然らば變卦益に隆昌の象あれば、悲運艱難を脱して吉運幸福を迎へ得る望みあり。

◎壽命 上六は陰柔にして卦の終りに居るもの、虚弱短命の象なり。

◎病 氣 上六は卦の終りに居り、艱難悲痛の極に立ち、血涙を流して泣き悲しむもの、病狀絶望、死去の象なり。

◎待 人 上六は卦の終りに居りて進み行くべき所なく、又孤立無援の象、待人來らず。

◎走 人 上六は卦の終りに居り、悲痛の極に立ちて血涙を流すもの、走人の生命危険なり。上卦坎は北、變卦巽は東南、その方角を尋ねべし。又坎に水の象あれば水遁に縁あり。

◎失 物 上六は卦の終りに居り、物の終りなり。出せず。

◎旅 立 上六は孤立無援、艱難の極に立つもの、出先にて不幸災難の象あり。出づべからず。

◎争 事 上六は孤立無援、悲痛の極に居るもの、争ひ事破れて困難不利を招くべし。

◎就職、試験 上六は孤立無援、悲痛の極に立つもの、就職引なくして成らず。試験落第の象なり。

◎開業、轉業、移轉 上六は屯難の極に立ち、艱難甚しきもの、何れも進むべからず。

◎天 候 下卦坎は雨の象にして今上六陰を似て、陰位に居るは、雨烈しき象、而して此爻卦の終りに居り、變じて巽となれば風の象、故に風出すれば晴る。



山水蒙 蒙亨、匪我求童蒙、童蒙求我、初筮告、再三瀆、瀆則不告、利貞。

(卦讀方) 蒙は亨る。我童蒙に求むるに匪らず。童蒙我に求む。初筮は告ぐ。再三せば瀆る。瀆るゝときは則ち告げず。貞に利し。

(象 義) 前の屯の卦は天地の創造、世の中の開け初めの時で、混沌として物の秩序が整つてをらぬからかう云ふ時には統治者を立て、秩序を整へ安寧を保つべきことを説いたのであるが、如何に統治者を設けて安寧秩序を保たうとしても、人心が蒙昧であつて物事の理非曲直を辨じなかつたならば目的を達することは出来ないものである。それでこの蒙の卦に於ては人間の教養の道を説いてあるのであるが、これによつて聖人が宇宙人生を完全にし美なるものにしやうとする理想を窺ひ知ることが出来るのであつて、屯の卦の次に蒙を置いてある理由も、自ら明かなるものがあるのである。又これを卦象から説明すると、蒙と云ふのは藁の類で蔓草のことである。蔓草は樹木に絡まつて蔓延し、樹木や地面を掩ふことから蒙は暗いと云ふ義になり、又上卦艮は山で下卦坎は水であり、水氣が蒸發して霧となれば、昏くして山を見ることが出来なくな

るもので、これも蒙乃ち暗いと云ふ義になるのである。以上の如く蒙の卦には蒙昧の意味があつて、これに對して教養の道を説くことが、この卦の目的となつて居るのであるが、茲に云ふ蒙昧と云ふのは、頑迷固陋と云ふ様な悪い意味ではなく、幼兒が教へられないから東西を知らぬと云ふのと同じで、幼稚にして未だ學ばざるが故に事理に暗いのであつて、教導すれば明智に導き得るものなのである。◎「童蒙」蒙は蒙昧の義童は童兒で、上卦艮を少男となすより取れるなり。乃ち童蒙とは蒙昧なる童兒の意なり。而してこの童蒙を六五を指すとする説あるも、卦象より見て斯くの如く限定せられたる意味に取らず、廣く一般に教訓を受けらるるものを指すと見る方穩當なり。◎「我」九二を指す。易にては内卦を我れに取り、外卦を彼と取るを通例とするものなるに、九二は下卦の眞中に居り卦主となつて居つて、衆陰の歸する所となれるが故なり。◎「筮」筮して易に問ひ事を決する義、下卦坎に誠の象のり。占筮は誠心誠意を以て行ふべきものなればこれを取れるなり。◎「再三」度を重ねる義、約象坤に衆多の象あるより取る。

(意 義)「蒙亨」とあるのは、童蒙は智識未だ開けず、事理に暗いものであるが、賢明の人に就きて教へを受ければ、智啓けて發達することが出來ると云ふ意味で、蒙の下卦坎を夜半となし、冬となし上卦艮を明方となし、冬春交る時となすより云へるものにて、夜半より明方に向ひ、冬過ぎて春に移らんとする象より取りて亨ると云つたのである。而して亨る以下の句は占辭であつて、「匪我求童蒙、童蒙求我」と云ふのは、兒童が師に就いて教へを求めらる關係態度を以て教育の道を説明した句で、物を教へる場合には、智識の暗い者が賢明なる人に向つて教へを乞へば、賢者がこれに教導を與へるのが常道であつて、師の方から童

蒙に向つて教導してやらうと進み求めるものではなく、弟子の方から誠心誠意と信頼とを以て教へを求めらるべきで、この積極的の心がなければ、蒙を開き智識を授けることは出來ないのである。乃ちこれが教育の本義であり禮であること云ふことを説いたのである。次に「初筮告、再三瀆、瀆則不告」と云ふのは、占筮に例へて重ねて、師弟の關係、教育の本義を説いたのであつて、占筮と云ふものは、神の御告を請けて物事を決しやうとするのであるが、それには至誠の心を以て行はねば神意を受けることは出來ないので、従つて初めに筮を立てる時には、至誠の心が満ちて居るから、神もこれを受入れて神意を告げるものであるが、二度も三度も繰り返して筮を立てる様なことをするのは、占者に誠意がなく神を汚すことになるから、神意を受けることが出來ないものである。師弟の關係もこれと同じことで弟子が誠意を以て教へを乞へば、師もこれに感じて懇切に教へるものであるが、再三同じことを聞返す様では熱心の足らぬ証據であり、師を尊敬する心がないものであつて、自分の心も汚れ従つて師をも汚すものであるから、師たる者も親切心が失せ、熱心に教導しない結果になるものであると云ふことを説いたのである。そこで最後に「利貞」と云つてあるのは、上の説明を受けて、教育の道は教へる者も教へを受ける者も、共に正しい道を守つて行かねばならぬと云ふ戒めである。これを要するに蒙の卦は、教育の道を説いた卦で、教育の本義は、教へを受ける者が誠心誠意を以て教へを乞ひ、教へる者もこれに應じて誠心誠意を以て教へ導くべきものであつて、師弟が共に此の心掛けて進めば、蒙昧なる者も智を開き道を悟りて向上發達することが出來ると云ふ意味である。

(占 斷)

◎運 勢 蒙の卦は蒙昧の意で、恰も夜未だ開けずして暗き象である。故にこの卦を得たる時には氣運開けず故障ありて辛勞困難を免れざる時であり、自己も事理に暗くこの氣運に處する力足らざる象である。斯くの如き時に際しては、蒙の卦に説きある如く童蒙が師に誠意を以て教へを乞ふ態度を以て、他の意見を聞きてこれを重んじ、自己の考へのみにて妄動せぬ心掛けが肝要である。この心掛けを以て進まば、よく童蒙が智を開きて發達する如く、氣運を開きて順調に向ひ、吉兆悦び事を得るに至るものである。尙、卦意より見て、迷事、物事初め凶にして後吉等の象がある。

◎願 望 蒙は蒙昧の象、迷ひを抱きて果斷を缺く象あり。故に願望今成就せず。然し童蒙が誠意を以て教へを乞ふが如く、熱誠を以て當らば遂に他を動かして將來目的を達する望みあり。

◎金 談 初筮は告ぐ、再三する時は告げずとあるより見て、調ふものならば直に調ふ。然らざれば望みなし。要するに卦意に示せる如く熱誠を以て進むこと肝要なり。

◎買 買 蒙は蔓草はびこりて暗く通ぜざる卦、賣買共に順調に運ばざる象なり。殊に卦意より見て迷ひて失敗を招く象あり。

◎相 場 蒙は蒙昧にして事理に暗く、迷ふ象、相場氣迷ひて煮え切らざる形勢なり。

◎縁 談 蒙は蒙昧にして暗く、通ぜざる卦、故に縁談成立の望み乏し。然し卦に説けるが如く、童蒙教へを乞ふの熱意を以て進まば、先方を動かして遂に成立を見るに至る望みあり。

◎子 實 蒙は教へ導きて童蒙を啓發する意味の卦なり。教育宜しきを得ば優秀の兒女を得て幸福を得べく教育を過らば兒女を不良に陥らしめて辛勞を招くべし。姪姪は上卦艮は少男、下卦坎は中男、故に男兒なり

◎夫 運 上卦艮は小男、下卦坎は中男の象、而して蒙昧にして迷ふ象あり。故に意志弱く教養なき夫に添ひて苦勞する象なり。然し卦意より見て内助の功を盡し、夫を啓發せば成功せしむる望みあり。

◎妻 運 蒙は蒙昧にして事理に暗き象、教養なき女を妻として不幸を見る象なり。然し卦意より見て教導宜しきを得ば、これを啓發する望みあり。

◎家庭運 蒙は蒙昧にして通ぜざる卦、故に家庭運悪しき象なり。然し童蒙の教へを乞ふに熱誠を以て臨むが如く、奮勵せば目上の引立を得て後に幸運を迎ふる望みあり。

◎壽 命 蒙は蒙昧にして暗く通ぜざる卦、攝生保健の道に暗く、健康を損じ短命に終る憂ひあり。宜しく攝生保健に勉むべし。

◎病 氣 蒙は蔓草にして、蔓延する象あり。傳染性の病氣にして漸次病勢の進む象なり。

◎待 人 「我れ童蒙に求むるにあらず。童蒙我れに求む」とあるより見て、先方の要件にて來るものなり故に遅るゝも來る。

◎走 人 上卦艮は東北、下卦坎は北、その方角を尋ねべし。蒙は事理に暗き象、何人かに迷されて出てたるなり。

◎失 物 蒙は蔓草にして物を掩ふもの、何かの下になれるなり。卦意より見て、童蒙教へを乞ふの熱誠を

以て、綿密に尋ねれば出づ。方角走人に同じ。

◎旅立 蒙は蒙昧にして事理に暗く、通ぜざる象、旅程に對する注意研究足らざる爲に、故障を招く憂ひあれば注意を要す。

◎爭事 蒙は蒙昧にして事理に暗く、通ぜざる象、故に理あるも智足らざる故に敗を招く象あり。

◎就職 蒙は蒙昧にして通ぜざる卦、就職成らず。

◎試験 蒙は智暗く事理を解せざる象、勉強足らざる爲に不成績の象なり。

◎開業、轉業、移轉 蒙は蒙昧にして物事通ぜざる卦、何れも用意足らざる象、不可なり。

◎天候 蒙は蒙昧にして暗き象、曇天なり。

初六 發蒙、利用刑人、用說桎梏、以往吝。

(爻辭讀方) 蒙を發く。用ひて人を刑し、用ひて桎梏を説くに利し、以つて往くときは吝なり。

(象義) ◎「發蒙」茲に云ふ蒙は童蒙幼穉の者を指したるにあらず。一般的に蒙昧の者を指したるなり。發は啓發の義、初爻變すれば兌となり、下卦坎の形崩れて發の象となるより取る。◎「刑」刑罰の義、下卦坎に法律刑罰の象あるより取る。◎「桎梏」足かせ、手かせのこと、下卦坎は一陽一陰の中に陥り、二陰の爲に拘束せらるゝ象あるより取れるなり。◎「說」脱の義、初爻變じて兌となれば坎の體崩るゝより云ふ。(意義) 初六は陰柔にして六爻の最下に居り、蒙昧の甚しきものである上に、今坎險の底に陥つて居るの

は愚昧なる者が患難の境遇に居る状態であつて、これを教へ導くには優しく教へ諭した位では無駄であるから、嚴重なる刑罰を用ひてこれを畏れさせて、然る後に教導すれば功が擧るものである。然し刑罰を加へて畏れさせた上で教導の功を擧げるのは、教育本来の目的ではなく、一時的の方便であるから、これによつて愚昧な者が悟る所があつたならば、早速刑罰を解いて寛大なる處置に出て、恩威並び施し、寛嚴宜しきを得て、これを導く方法を講ずべきで、これが教育の法宜しきを得たものと云ふべきである。「發蒙、利用刑人、用說桎梏」とあるのがこれを説いたのである。然るに懲罰を加へる計りで寛大の處置を取らぬ様なことがあれば、教へられる者は、その嚴重なる處置に堪へずして自暴自棄に陥り、却つて愚蒙を深くする様な結果を生ずるに至るものであるから、教育の法宜しきを得ざるものである。「以往吝」とあるのがこの意味を説いたのであつて、「以往」と云ふのは、刑罰を加へ嚴重一方で以て進んで行くと云ふ意味で、かう云ふ方法で進めば「吝」乃ち悪い結果になると云ふ戒めである。これを要するに初六では、愚昧なる者を教導する方法を説いたのであつて、その方法は寛嚴宜しきを得よと云ふのである。

(占斷)

◎運勢 初六は蒙の時に當り、陰柔にして最下に居り、蒙昧の甚しきものである。故にこの卦を得ば、蒙の卦が暗くして、運氣通ぜざる象より見て、運氣通ぜず故障難なる運勢にあるものなるに、暗愚にしてこれに處する策を知らざるものにて、その危険なること甚しき象である。宜しく蒙の卦が誠心誠意を以て師を求め教へを乞ふが如く、人の意見を聞きてこれに従ひ、勤勉努力を以てこの衰運難難を打開する心掛けが

肝要である。

◎願望、金談 初六は蒙昧通ぜざる時に處して、陰柔不才、且下卦坎險の最下に居りて苦しむもの、願望、金談共に成らず。

◎賈 買 初六は蒙の時に處し、暗くして通ぜざるものなるに、陰柔不才を以て最下に居るは、才智なく時勢を得ざるもの、且此爻變じて山澤損の卦となれば缺損の象、故に機敏を缺き、其上時勢に乗ぜざるものなれば、賣買共に失敗損失の象なり。

◎相場 蒙の卦は暗くして通ぜざる象なるに、今初六陰柔不才を以て最下に居るは、力なく時を得ざるものなれば、相場安し。

◎縁談 蒙は蒙昧にして通ぜざる卦なるに、初六陰柔にして位正を得ず。且最下に居りて時を得ざるは縁談成立せず又凶の象なり。

◎子賈 蒙は蒙昧暗愚の象なるに、初六が陰柔不才を以て最下に居るは、暗愚の甚しきもの、不育の兒女を得て苦勞艱難する象なり。宜しく初六に戒めある所に從ひ、教育に力を注ぎ寬嚴宜しきを得てこれを指導すること肝要なり。姪姪は初六陰にして變じて兌となれば少女の象、故に女兒なり。

◎夫運 初六は陰柔不才にして卦の最下に居り、暗愚の甚しきもの、才なく働きなき夫に添ひて苦勞する象なり。

◎妻運 初六は陰を以て位を得ず。蒙昧の甚しきもの、暗愚の妻を得て一生苦しむ象なり。

◎家庭運 蒙は暗くして通ぜざる卦なるに、初六は陰柔不才にして最下に居り、暗愚甚しく時を得ざるものなれば、家庭運悪しく苦勞艱難する象なり。

◎壽命 初六は陰柔にして位正を得ず。身體虛弱短命の象なり。

◎病氣 下卦坎は病患の象、又惱み苦しむ意なり。而して初六は陰柔にして位正を得ず。病氣重感にして其上身體虛弱の象なれば危険なり。

◎待人 蒙は暗くして通ぜざる卦、初六は陰柔にして力なく時を得ざるもの、故に妨げに遭ひて来る氣力なき象なり。

◎走人 初六は暗愚の甚しきもの、人に誘惑されたる象なり。而して下卦坎險の下に居るは危険ある象なり。坎は北、變じて兌となれば西、その方角を尋ねべし。

◎失物 蒙は物事の通ぜざる卦なるに、初六變じて損の卦となれば欠損の象、失物出でず。方角走人に同じ。

◎旅立 初六は陰柔不才にして卦の最下に居り、暗愚の甚しきもの、暗愚なれば危険多し。旅立凶なり。

◎争事 初六は暗愚の甚しきもの、變卦損は欠損の象、暗愚にして事理に暗く、争ひて損失不利を招くものなり。爻辭に「利貞」とある如く慎しむを守るべし。

◎就職 蒙は暗くして通ぜざる卦、初六は暗愚の甚しきもの、通ぜざる時に暗愚を以て臨むは物事成らざる象、就職調はず。

◎試驗 初六は陰柔不才にして暗愚の甚しきもの、成績頗る不良の象なり。卦辭に説きある如く、良師を求め誠心誠意を以て勉強すべし。

◎開業、轉業、移轉 蒙は暗くして通ぜざる卦、初六は暗愚の甚しきもの、進む時は危険の象なり何れも不可なり。

九 一一 包蒙吉、納婦吉、子克家。

◎天 候 下卦坎は雨の象、初六陰柔を以て正を得ず。雨天の象なり。然し此爻變じて兌となれば喜悅の象雨晴れて悦びを見る象なり。

(爻辭讀方) 蒙を包む吉。婦を納る吉。子家を克くす。
(象 義) ◎「包」包容の義、九二變すれば坤となり、坤に包容の象あるより取る。◎「蒙」茲て云ふ蒙は、初、三、四、五爻を指せるものにて、四爻共陰にして柔弱蒙昧なるより云へるなり。◎「納婦」納るとは包むと同じく包容の義なり。下卦坎の象及び九二變じて坤となれば、包容の象あるより取れるなり。而して「婦を納る」とは、九二が坎の中央に居り、剛を以て上六五に應じ陰陽相和するが故なり。◎「子」九二を指す。互體震を長男となすより云ふ。◎「家」二爻を大夫となす。大夫を家と稱する故なり。
(意 義) 九二は成卦の主であつて、陽剛を以て中に居り、賢明の才と剛健の徳とを備へ、寛嚴宜しきを得て、師となつては衆蒙を包容してこれを教育し、一家の主となつてはよく妻を包容支配して家を治め、子

としては六五の父に使へてよく家を保つものである。「包」蒙吉、納婦吉、子克家」とあるは此意味を述べたのであつて、九二が徳あり、才ありてよく教育の任を全うするものであるのを讚美したのである。乃ち教育の重任を全うするものは九二の如く、徳あり、才あり、力あるものでなければならぬと云ふ意味である。

(占 斷)

◎運 勢 蒙は蒙昧にして通ぜざる時であるが、九二は才、力、徳共にこれを備へて、よく蒙を開き、教育の大任を全うするものである。故にこの爻を得たる時は、運勢通ぜず、辛勞困難ある象であるが、徳あり才能を備ふる爲に、よくこの氣運を打開して辛勞艱難を脱し、吉運順調に向はしむる力のあるものである。尙爻意より見て家運繁榮の象があり、九二が衆陰を包容指導する象より見て首長となる運氣がある。

◎願望、金談 九二は陽剛にして中徳を備へ、運氣強く盛んなるものなれば、願望、金談共に成就す。

◎賣 買 九二は才力徳行を備へて吉なるもの、働きあり信用ある象なれば賣買共に吉にして利を得べし。

◎相 場 九二は陽剛にして力あるもの、相場強き象なり。然し變じて山地剝の卦となれば、陽が陰の爲に犯されて勢ひ窮する象なれば、先行崩落の兆あるを以て警戒を要す。

◎縁 談 九二は陽剛にして中を得、吉祥を現すものなれば、縁談吉にして纏る。又上位の六五と陰陽相應

ずるより見て、高貴より良縁を得る象あり。尙「子克家」とあるより見て養子縁に特に吉なる象あり。

◎子 實 九二は陽剛にして中徳を備へ、爻辭に「子家を克くす」とある如く、子として家を繁榮ならしむ

るものなれば、子供運大吉にして幸福なる象なり。妊娠は九二陽剛にして中を得るより見て男兒なり。

◎夫運 九二は陽剛にして才力德行共に備り、蒙を治むるもの、徳あり働きありて人の上に立つ夫に添ひ幸福を得べし。殊に「納婦吉」とあるより見て情愛深き夫を得べし。

◎妻運 九二は陽剛なれば氣性強き妻を得る象なるも、中徳を備へ又變じて坤となれば順徳を現すを以て、よく勝氣を抑へて夫に盡す象あり。

◎家庭運 九二は陽剛にして中徳を備へ、吉祥盛運の象なれば、家庭運大吉の象なり。

◎壽命 九二は陽剛にして中を得。身體健康にして長壽を得る象なり。

◎病氣 九二は陽剛にして中徳を備へ、吉祥の爻なれば、病氣は心配する要なく、間もなく全快すべし。

◎待人 九二は陽剛にして中徳を備へ、蒙の通ぜざる時を治むるもの、待人來る象なり。

◎走人 下卦坎は北、變じて坤となれば西南の象、その方角を尋ねべし。九二は陽剛にして中を得、蒙を治むるものなれば直に行先判明すべし。

◎失物 九二は陽剛にして中を得、蒙を包む象なれば、何かの中に仕舞ひ込みて忘れたるなり。九二が蒙の通ぜざるを治むるものなるより見て出づ。方角走人に同じ。

◎旅立 九二は陽剛にして中を得、吉祥にして物事通ずる象なれば、旅立出て吉なり。

◎爭事 九二は陽剛にして中徳を備へ、上六五の君と陰陽相應じ、蒙の時を治むるもの、目上の仲裁ありて圓滿に解決する象なり。争ふは不可。

◎就職、試験 九二は陽剛にして、中徳を備へ、蒙の時を治めて通ぜしむるもの、就職調ひ、試験好成績の

象なり。又上六五と陰陽相應するより見て、就職は目上の助を得て吉なる象あり。

◎開業、轉業、移轉 九二は陽剛にして中を得、吉祥盛大の象なり。何れも進みて吉。

◎天候 九二陽剛にして中を得るは勢ひある象、又蒙の暗きを治めて通ぜしむるは、陽氣現る象、天氣良き兆なり。現在天候險惡ならば漸次に晴る。

六 三 勿用取女、見金夫不有躬、无攸利

(爻辭讀方) 女を取るに用ふること勿れ。金夫を見て躬を有たず。利しき攸なし。

(象義) ◎「女」六三を指す。陰爻なる故なり。◎「金夫」九二を指す。九二は陽剛にして乾金の象があり、又衆陰を包容するもので富む象ある故なり。◎「不有躬」躬とは約象坤に身體の象あるより取れるなり。而して下卦坎に陷溺する象ありて、今六三その極に居るは、女子の不貞にして節操を破り身を保つ能はざるものに比すべし。乃ち「不有躬」とはこれを云へるなり。

(意義) 六三は陰柔を以て陽位に居り、不中不正で蒙昧の甚しきものであり、殊に下卦の終に居りて輕躁盲進の象がある。故に元來上九と相應じて居つて、それに從はねばならぬものであるのに、下に九二が居つてその勢の良いのを見て迷ひを起し、貞心を失ひて九二に從はんとするものである。これは丁度女子にして貞操なく、亂行に陥りて身を保つことの出来ないものと同じて、眞に嫌惡すべきものである。「見金夫不有躬」とあるのは、これを云つたものであつて、その上の句の「勿用取女」とあるのは、六三はこんな

不貞亂行の女であるから、こんな者と相親みて娶る様なことをするなと云つて、上九を戒めた言である。次に「无攸利」と云つてあるのは、六三は斯の如き不貞亂行の女であるから、良いことのあるべき筈がなく身を破り家を破りて大凶を招くのは必然のことであると云ふ意味であつて、これを要するに六三に於いては利に走り義を忘れて、自ら求めて蒙に陥るものに痛撃を加へた訓戒である。

(占 斷)

◎運 勢 六三は蒙の時に居り、不中不正にして貞心なく、上九に應ずべきものなるに拘らず、九二の勢ひ盛んなるに迷ひてこれに従はんとするもので、節操なき女が不貞亂行に流れて身を過ち家を破るが如き象あるものである。而して變じて山風巖となれば、事物停滯腐敗して蛆虫を生ずる象がある。故にこの交を得たる時は、氣運通ぜざる時なるに、利慾權勢に迷ひて心を亂し、堅實操守の心掛けを失ひて、身を過ち災ひを招き自ら求めて凶運に陥る象がある。宜しく心を改め眞實を守り、災害凶運に陥らざる心掛けが特に肝要である尙交意及び變卦の象より見て、色情の過ち、破財、故障災害等を招く憂ひがある。

◎願 望 六三は不中不正にして貞心なく、身を破るもの、變卦巽は物事停滯の象、爻辭に「无攸利」とあるが如く願望成らず。

◎金 談 六三不中不正にして貞心なきは人の信用を得ざるもの、又變卦巽に破財の象あり。金談調はず。

◎賣 買 六三は利慾權勢に迷ひ、貞心なきもの、又變卦巽に故障敗壞の象あり。賣買共に利慾のみに走りて不正に流れ、爻辭に「无攸利」とあるが如く失敗を招き災厄に逢ふ象なり。

◎相場

蒙は蒙昧にして通ぜざる卦なるに、六三陰柔にして位正を得ざるは相場力なく安き象なり。

◎縁 談 六三は不貞亂行にして身を過ち家を破るもの、又變卦巽に家亂る、象あり。故に爻辭に「勿用取女」とあり、又「无攸利」とあるが如く、縁談大凶なり。

◎子 實 六三は不中不正にして、不貞亂行身を過ち家を破るもの、又變卦巽に家政亂る、象あり。素行治まらざる不良の兒女を得て苦勞艱難甚しく、家運危殆の象あり。宜しく蒙の卦の教ふる所に従ひ、兒女の教育に力を注ぐべし。姪姪は六三陰にして變じて巽となれば長女の象、女兒なり。

◎夫 運 六三は陰柔不正にして中を得ず。又變卦巽には女に迷はざる、象あり。柔弱にして働なく徳なく素行治らざる夫に添ひて苦勞する象なり。

◎妻 運 爻辭に「勿用取女」とあるが如く、六三は不貞亂行身を過ち家を破る女の象なり。故に淫奔不貞の女を妻として家亂れ、恥ぢを招く大凶運の象なり。極力妻女の選擇に注意を要す。

◎家庭運 六三は不貞亂行にして身を過ち家を破るもの、又變卦巽は家政亂る、象、故に自己の素行治らざる爲に家運を破りて苦勞困難に陥るか、或は亂れたる家に生れて苦しむ象あり。特に交意より見て家族の婦女に就きて苦勞する象あり。

◎壽 命 六三は陰柔にして不中不正、然も下卦の終に居るは、虚弱にして短命の象なり。殊に六三の不貞亂行身を破る意より見て、素行亂れ攝生を缺きて夭折する憂ひあり。

◎病 氣 六三不中不正にして、下卦坎險の終に居り危地に立つは、病氣重く危険の象なり。

◎待人 六三は上九に應ずべきものなるに、下九二に従はんとするは迷ふものにして來らず。
◎走人 六三は不貞亂行にして身を破るもの。色情の關係あり。而して生命危険の象なり。下卦坎は北、變じて巽となれば東南、その方角を尋ねべし。尙六三下卦坎の終に居るは、坎は水の象なれば水邊を尋ねべし。

◎失物 六三が下卦坎險の終に居るは危険の象、變卦巽は破財の象、失物出でず。

◎旅立 六三が陰柔不正にして下卦坎險の終に居るは危険患難の象、旅中危険災厄の憂ひあり出づべからず。

◎爭事 六三は陰柔不正にして中を得ず、才なく徳なく力なきもの、争ふは不可なり。

◎就職 六三は陰柔にして中不正、貞心なきもの、働きなく然も素行に欠點ある爲に調はざる象なり。

◎試験 六三は陰柔不才、然も中正を得ず。敏才を欠く上に素行治らざる象なれば、不成績は當然のことなり。

◎開業、轉業、移轉 六三は陰柔にして中不正、然も下卦坎險の終に居るは危険の象、何れも進むは凶。

◎天候 下卦坎は雨の象にして、六三蒙昧の暗きに居り陰にして位を得ず。天候險惡の象なり。而して變じて巽となれば、風の象なれば後風となる。

六四 困蒙吝

(爻辭讀方) 蒙に困しむ。吝なり。

(章義) 六四は柔を以て陰位に居り、暗柔にして才も乏しく力もないものである。然もこれに應ずるものも比するものもなく、兩陰の間に陥り、陽に遠ざかりて師とするものもない境遇にあるもので、その爲に苦しみ困つて下愚の人として終つてしまふと云ふ意味であつて、天性恵まるゝこと薄く、その上教へ導いて呉れる人もなき不幸の境遇にあるものが、此爻に當るものであるが、斯くの如き性質境遇に生れた人でも、徒に不幸を悲しみ苦しんでばかり居つては駄目であつて、かゝる逆境不幸を打破つて、學び進んで行く氣力がなければならぬと激勵した意味が籠つて居るのである。論語の季氏篇に「困して學ばざる民、斯れを下と爲す」と云つてあるのが、此爻の意味に當るのである。

(占斷)

◎運勢 六四は蒙の時に當り、暗柔にして然もこれを助くる應爻も比爻もなく、孤立無援にして困苦に難むものである。故に此爻を得たる時は、運氣凶惡にして加ふるに助くる人もなく、然も自力を以てこれを打開して光明を開く才力もなき状態にあるものである。斯くの如き凶運にありては、徒にこれに苦しみ難みて爲す所なき有様では仕方がないから、宜しく奮起して元氣を出し、これを打開する様努力する心掛けが肝要である。然らば此爻變すれば火水未濟の卦となり、暗中光明を認むるに至る意あれば、氣運を開き前途に光明を生じて來る望みがあるものである。

◎願望、金談 六四は蒙昧通ぜざる時に處し、才力なく孤立無援、困苦に難むものなれば、願望金談共に望みなし。

- ◎賈 買 六四は蒙昧通ぜざる時に處し、暗柔不才にして困苦に難むもの、時運を得ず、且商才に乏しき象にて、賈買共に失敗損失を招くべし。
- ◎相場 六四蒙昧の時に處して陰柔不才、これを助くるものなきは、相場に好材料なく、活氣乏しき象にて安し。然し變卦未済には暗黒より光明に向ふ意あれば、先行は追々活氣を示し來るべし。
- ◎縁談 六四は陰柔不才にして孤立無援、蒙の時に處して困苦に難むもの、縁談周囲の反對多く、故障ありて成立せざる象、縁としても又凶なり。
- ◎子 賈 六四は暗柔不才、蒙昧にして通ぜざる時に處し困苦に難むもの、子供運悪しく苦勞多き象なり。姪姪は此爻陰にして正位を得、變じて離となれば中女の象、故に女兒なり。
- ◎夫 運 六四は陰柔不才にして蒙の時に居り、困苦に悩むもの、働きなく養え切らざる夫に添ひて苦勞多き象なり。
- ◎妻 運 六四陰を以て陰に居り、位正しきは貞女を妻とする象にて、又變じて離となれば華麗の象、故に美人の妻を得べし。
- ◎家庭運 六四がこれを助くる應爻も比爻もなく孤立無援なるは、身内に縁薄き象、而して暗柔不才、蒙の通ぜざる時に處して困苦に難むは家庭上苦勞多き象なり。
- ◎壽命 六四が陰柔不才にして困苦に難むは、身體弱く多病の象にて、短命の生れなり。
- ◎病氣 六四が陰柔にして、且兩陰の間に陥りて難むは病氣重く危険の象なり。

- ◎待 人 六四が蒙に居りて通ぜず、陰柔にして力なきは、故障ありてこれを排除して來る氣力なき象にて來らず。
- ◎走 人 上卦艮は東北、六四變じて離となれば南、その方角を尋ねべし。而して六四が陰柔にして力乏しきより見て遠方に走る勇氣なく、近所にうろつき居れる象なり。
- ◎失 物 六四陰柔なるは動く力なきもの、上卦艮は止る象、而して上卦の下位に居るより見て、何かの下積みになりたる象なり。方角走人に同じ。
- ◎旅 立 六四が蒙の通ぜざる時に居り、陰柔不才困苦に悩むは、旅中故障困難多く、目的達げざる象なり出づるは凶。
- ◎爭 事 六四が暗柔不才、孤立無援にして蒙の通ぜざる時に處して難むは、事理に暗く、且つこれを助くるものなき象にて、争ひて破れ困苦不利を招く象なり。
- ◎就 職 六四が陰柔不才、孤立無援なるは、身に才力なく、然も引きもなき象にて就職望みなし。
- ◎試 驗 蒙は蒙昧にして通ぜざる時、六四は暗柔不才なるもの、才力乏しくして時運を得ざる象にて不成績なり。
- ◎開業、轉業、移轉 蒙は蒙昧にして通ぜざる時なるに、六四暗柔不才にして働きなきは、進むに凶なるもの、何れも不可なり。
- ◎天 候 蒙は暗き象、今六四陰を以て陰位に居るは、天候曇か雨の象なり。然し六四變じて離となれば太

陽の象、又明かなる象、故に間もなく晴るべし。

六五 童蒙吉

(爻辭讀方) 童蒙にして吉なり。

(象 義) ①「童蒙」上卦艮を少男となすより取れるなり。而して茲に云ふ童蒙とは蒙の卦に於いて一般に云ふ蒙昧の童兒と云ふ意味とは少し意味を異にし、純心にて蟠りなき意にて、幼兒が無心にして汚れなきと同じ意なり。

(意 義) 六五は卦の尊位に居るものであるが、陰を以て陽位に居り、中を得て居つて、よく柔中の徳を備へ下九二に應じて居るのは、尊位にありて柔順謙讓の徳を備へて、己れを空しうして下の賢者に下り、その教へを求めらるものである。それ人は位が高かつたり、財産があつたりすると、なか／＼謙遜して目下の者に教へを聞く様なことは出来難いものであるが、今六五がよくこれを實行するのは感心すべきであつて、吉を得ざる譯がないのである。故に「童蒙吉」と云つてこれを賞讃してあるのである。

(占 斷)

◎運 勢 六五は尊位に居るも、柔中の徳を備へてよく下の九二に下り、謙讓の徳を有するが故に吉なるものである。故に此爻を得たる時は、人の上に立ち財産名聲ある運勢であるが、それに慢心することなく謙讓の徳を備へて目下の者の意見を用ひる爲に、益々運氣の吉祥盛大に赴くものである。又爻意より見て目下の

助けによりて吉を得る象があり、變卦風水渙の意より見て、艱難辛勞事の消散する象がある。

◎願 望 六五は尊位に居り柔中の徳ありて吉なるもの、願望調ふ。然し六五の謙讓の徳を有するが如く、慢心に流れざること大切なり。

◎金 談 六五は尊位にありて富を有するもの、金談調ふ。爻意より見て目下の力を借りるを利とし、又金子手に入りたる爲に心に緩みを生ぜざる心掛け肝要なり。

◎賣 買 六五は柔中の徳を備へて吉祥盛大を得るもの、賣買共に順調に運びて利を得べし。然し六五が謙讓の徳あるが故に吉なるに鑑みて、調子に乗り山氣に走らざる注意大切なり。

◎相 場 六五が陰を以て陽位に居り、中を得て謙讓の徳あるは、相場底意強きも伸び悩む象なり。而して變卦渙に解散の意あるより見て、一時下放れて後強調に向ふべし。

◎縁 談 六五は柔中の徳を備へて吉なるもの、縁談吉にして纏る。

◎子 實 六五が柔中にして「童蒙吉」とあるより見て、順良溫和の兒女を得て、子供運吉にして幸福なり。姪姪は六五陰を以て陽位に居り、又上卦艮は少男なるに、變じて巽となれば長女の象となるを以て、男と思

ひしもの女の象なり。

◎夫 運 六五は柔中の徳を備へて吉なるもの、溫良にして情愛深き夫に添ひ幸福を得る象なり。

◎妻 運 六五は柔中にして謙讓の徳を備へ吉なるもの、柔順溫和の妻を得べし。又此爻尊位にあるより見て身分高き女を妻とする象あり。

◎家庭運 六五は尊位に居り「童蒙吉」とあるより見て、地位高く財産ある家に生れて幸福なる象なるも、謙讓の徳を欠き慢心に流るゝ時は、交意より見て運を破り困苦に陥る憂ひあれば慎しみ肝要なり。

◎壽命 六五陰柔なるは身體虚弱の象なるも、中徳を備へて吉を得るより見て、攝生よき爲に壽を保つ象なり。

◎病氣 六五は中徳を備へて吉なるもの、又變卦渙に艱難消散する象あれば、病氣間もなく全快すべし。

◎待人 六五は柔中の徳を備へてよく人に下るもの、又變じて巽となれば動く意あり。待人來る。

◎走人 上卦艮は東北、變じて巽となれば東南、その方角を尋ねべし。而して此交吉にして變卦渙に辛苦消散する意あれば直に判明すべし。

◎失物 六五變じて巽となれば動く象、變卦渙は物事の消散する卦なり。故に外に出てて人手に渡りたる象なれば出て難し。然し「童蒙吉」とあれば時機早からば出づることあり。

◎旅立 六五は中徳を備へて吉なるもの、旅程順調に進みて吉なり。

◎爭事 六五は柔中謙讓の徳ありてよく人に下るが故に吉なるもの、争ふは絶対に凶なり。

◎就職、試験 六五は柔中の徳を備へて吉祥盛大なる象、就職調ひ、試験好成績なり。然し交意に反き慢心に流るゝ時は、共に將來の凶兆を招く憂ひあれば注意を要す。

◎開業、轉業、移轉 六五は柔中の徳を備へて吉を得るものなれば、無理をなし狼りに妄進するが如きことなければ、何れも差支へなし。

◎天候 蒙は暗き象、六五は陰交なれば天候悪しき象なるも、變じて渙となれば解散の意あれば、天氣晴るべし。又變體巽は風の象なれば風強し。

上九 擊蒙、不利、爲寇、利禦寇。

(爻辭讀方) 蒙を撃つ。寇を爲すに利しからず。寇を禦ぐに利し。

(象義) ◎「擊」誦責折檻する義にて上卦艮に手の象あるより取れるなり。◎「寇」害をなす者、下卦坎に盜の象あるより取れるなり。◎「禦」害を防ぐ義、上卦艮、上に止りて禦ぐ象あるより取れるなり。

(意義) 蒙の卦は四陰二陽より成り、四陰は皆蒙昧にして、二陽は剛明である。乃ち二陽は剛明を以て四陰の蒙を發くものであるが、九二は中徳を有し蒙を發くに寛嚴宜しきを得るも、上九は卦極に居りて中正を失つて居るから、蒙を教ふる學識はあるが、これを導く徳を欠いて居る爲に蒙を發くに當つて嚴酷に過ぐる所がある。「擊蒙」と云つたのはこれを云つたのである。そこで「不利爲寇」と云ふのは、斯くの如き態度では、折角蒙を導かうとする心があつても、教へ導かれるものにはその仁愛の心が届かずして、これを開發して善に導くことが出来ぬのみでなく、却つて反抗心を起して勉學修養を怠るに至り、蒙者に害をなす様な結果になるものであるから、教導者としてかゝる態度を取るのには否けないことであると云ふ意味である。それで教導者たる者は、斯くの如く嚴酷に過ぎて蒙昧者に害を與へる様な結果を招かぬやうに注意すべきである。と戒めたのであつて「利禦寇」と云つてあるのが、此の戒めの言である。乃ち上九に於いては、教育家

たるものは、智育にのみ走つて嚴酷に流れず、温情を以てこれを撫育して、教育の道を全うすべきであると云ふ訓戒を説いたのである。

(占 斷)

- ◎運 勢 上九は蒙を發き導くに當り、嚴酷に流れて却つてその目的を達せざる意味を説きたるものなれば此爻を得たる時は、運氣の開發を計る心掛けが大切である。尙交意より見て、強剛に過ぎて敵を作る懼れがあり、又變卦地下水師に、困難危険に遭遇する憂ひ、争事を生ずる象があるから注意を要する。
- ◎願望、金談 上九は嚴に過ぎて蒙を發く目的を達せざるものなれば、願望、金談共に餘りに功を急ぎ無理をして成就を得ざる象があるから、「利」禁寇」とあるが如く、徐に成功を求むる心掛けが大切である。
- ◎賣 買 上九は剛明の才あるも中徳なく、蒙を發く能はざるもの、乃ち賣買共に商才あるも、餘りに利を收むるに急にして無理に流れ、失敗損失を招く象があるから注意すべきである。
- ◎相 場 上九が陽剛にして卦の最上に居り、蒙を撃つものなるより見て、相場高き象なるも、卦極にあるはこれより以上進む餘地なきものなれば、先行崩落する兆あり。
- ◎縁 談 上九は蒙を撃つて寇を爲すもの、故に餘り縁談を纏めんとして焦燥り過ぎ、却つて破談を見る象なり。
- ◎子 實 上九蒙を發くに當り、嚴酷に過ぎて却つて害を與ふるものなれば、兒女の教育嚴重に過ぎて却つて不良悪化せしめ、辛勞を招く憂あれば注意を要す 帷帳は上卦艮は少男の象、上九は陽剛なれば男兒なり

- ◎夫 運 上九は陽剛に過ぎて蒙を撃つものなるより見て、嚴酷にして情なき夫に添ひ苦勞する象なり。
- ◎妻 運 上九が陽剛にして蒙を撃つは、氣性烈しき妻に添ひて頭上らざる象なり。
- ◎家庭運 上九陽剛にして卦の上位に居るは、盛んなる家に生るゝ象なるも、卦極に居りて剛に過ぐるは、我儘に流れて家運を破り困窮に陥る憂ひあるものなり。
- ◎壽命 上九が陽剛なるより見て強健の生れなるも、蒙を撃ちて寇を爲すより見て、強健に誇りて攝生を怠り、無理をして健康を損じ、壽命を縮むる憂ひあるものなり。
- ◎病 氣 上九剛に過ぎ蒙を撃ちて寇を爲すは、無理をして病勢を重らし、危険に陥る象なり。
- ◎待 人 上卦艮は止る象、上九卦極に居るは進み行く所なきもの、待人來らず。
- ◎走 人 上卦艮は北、變じて坤となれば西南、その方角を尋ねべし。而して上九剛に過ぎて蒙を撃ち寇を爲すは、血氣に迷りて身を危険に陥らしむる憂ひあることを示す。
- ◎失 物 上九位正を得ず、卦の終に居るは物の終りにて出で難し。方角走人に同じ。
- ◎旅 立 上九は陽剛に過ぎて寇を爲すもの、旅中無理をして災害を招く憂ひあれば注意。
- ◎争 事 上九過剛にして蒙を撃ち、これを害して己れも亦その寇を受くるもの、争ひて共に傷き、不利を招く象なり。争ふは凶。
- ◎就職、試験 上九中正を得ず、剛に過ぎて寇を爲すもの、就職成らず。試験不成績なり。
- ◎開業、轉業、移轉 上九は剛に過ぎて、蒙を發く目的を達せざるもの、何れも進むは不可なり。

◎天 候 上九陽剛なるより見て晴天の象なるも、卦の終りに居りて進む餘地なきは、永續せざる象なり。

☵☵

水天需 需有孚。光亨。貞吉。利涉大川。

(卦辭讀方) 需は孚あり。光り亨る。貞にして吉。大川を渉るに利し。

(象 義) ◎「需」需とは待つと云ふ義である。此卦、下卦の乾は剛健にしてよく動き進まんと欲するものであるが、上卦に坎があり、坎は危険の象で、その爲に阻められて進むことが出来ないから、急に進んで險難に陥ることを避け、時節の到来を待つて後に進むがよいと云ふ意味から出て居り、又上卦の坎は雲の象で、下卦の乾は天の象であるから、乃ち雲が天上にあるも未だ雨とならず、萬人雨となりて滋雨の至るを待つと云う意味から取つて需と名づけたのである。それで此卦を蒙の卦の次に置いた譯は、蒙は幼童を教へ導くことを説いた卦であるが、幼童を教へ導くには先づ飲食を以てこれを養ひ、成長するを待たねばならぬと云ふ意味から、需の上卦坎には飲食の象があり、又雲が雨となつて萬物を潤せば、萬物が成育する基となるものであるから、以上の意味より蒙の卦の次に需の卦を置いたのである。◎「有孚」孚とは誠の中心に充實する義で、九五が陽剛中正にして尊位に居り、坎の真中に居るから「有孚」と云つたのである。◎「光亨」此句は易の經文中他に用いた例がないから「元亨」の誤りであると云ふ説もあるが、互體離に光の象があり下卦乾にも亦光の象があつて、内に孚があれば則ち光りが外へ現れるものであるから、必ずしも光が元の誤

りてあるとするにも及ぶまいと考へるのである。◎「利涉大川」大川は上卦坎の象、渉るとは互體離が中虚にして舟の象あるより云へるものにて、大事をなして宜しき意なり。

(意 義) 兎角世の中の事は、萬事進まんとして色々故障を生じて進み難いことが多いもので、これに處して急がず躁がず、落着いて時機の到来を待つことは極めて至難のことで、疑を抱いたり、迷つたりして稍もすれば躁進妄動に流れ、進むべからざるに進み危険困難に陥ることが多いものである。然るに此卦は、九五が剛健中正で、中心の誠を備へ、躁進妄動に流れず、時機の至り熟するを待つて進むものであるから萬事通達して功を遂げ得るものである。これを「有孚光亨」と云つたのである。然も九五が中正を得て位を變ぜぬのは、只に誠があるのみでなく、心に正しく固く守る所があるもので一層吉と云ふべきで、「貞吉」とはこれを云つたのである。斯くの如く陰忍自重時機を待ち、加ふるに守ること正固であるならば、大難に處してよく大事を成し遂げ得ること、大川の險を渉りて溺るゝ様な事なく、無事を得るが如くである。「利涉大川」とはこれを云つたのである。要するに此の卦は、中心に誠實ありて守る所正しく固く、よく時機の至るを待ちて進まば、大事大業を遂げ、功を成すことを得るものであると云ふことを教へたのである。

(占 斷)

◎運 勢 此卦、中心に誠實あり、忍耐自重時機の到来を待ちて進むが故に、大事大業を遂げ、功を成すことを説ける卦なれば、此卦を得たる時、心を正固に持ち、忍耐自重を第一とし、躁進妄動を慎しみ時機を待ちて進まば、よく大事大業を遂げ、功を成して運氣の隆盛吉祥を見るに至るものである。尙卦意より見て、

功を急ぎての失敗災害、萬事成ること遅きも遂に成就する意、慎しみを欠きての失敗災害等の象がある。

◎願望、金談 此卦下卦の乾剛上卦の坎險に止められて進み難き象なれば、故障ありて急に成就せず。然し九五の如く正固を守りて時を待たば「光亨」とある如く遂に成就すべし。

◎賣買 此卦急進に不可にして時機を待ちて進まば功を遂げ吉を得る象なれば、賣買共に急がば故障に逢ひて失敗不利を招くべし。忍耐時機を待たば利を得べし。

◎相場 此卦下卦の乾剛進み上らんとして上卦の坎險に止めらるゝ象、相場上進の氣配を示すも仲儀む象なり。然し後には上る。

◎縁談 此卦乾剛坎險に止められて進み難き象、縁談故障ありて行儀むことを示す。氣長に進まば「光亨」とある如く纏る。縁としては初め故障あるも末吉なり。

◎子實 此卦坎險健剛を止めて初め通ぜず。時機至りて通達する象、初め子供に就きて故障辛勞あるも末には吉祥幸福を得べし。姪姪は下卦乾は純陽、上卦坎は中男の象、男兒なり。

◎夫運 此卦九五剛健中正にして誠實正固の徳を備へ、遂に大事を遂ぐる象、志想堅固にして才力を備へ將來有爲の夫に添ふ運勢なり。

◎妻運 此卦「有孚光亨貞吉」とあるより見て、貞實なる妻を得て幸福を得る象なり。

◎家庭運 此卦乾剛坎險の爲に止められて進み難き象より見て、初め故障辛勞の象あるも、九五が剛健中正を以てよく大事を遂ぐるより見て、堅忍不拔の精神を以てよくこれを排除し、家運を興し盛大に至る象なり。

◎壽命 此卦九五が剛健中正にして大事を遂ぐる象、乃ち強健にして攝生よく、長壽を保つことを示す。
◎病氣 此卦雲未だ雨とならず、時至りて雨となる象にて物事の長引く意あれば、病氣長引く。然し九五が剛健中正の徳を有するが如く、養生さへよければ全快すべし。
◎待人 此卦物事の長引く意あるも、忍耐自重時節を待たば通じて吉を得る象なれば、待人遅るゝも遂に來るべし。

◎走人 此卦下卦の乾剛進まんとして上卦の坎險に止められて進み難き象、走人家出先にて困難に遭遇して進退に窮せる象なり。上卦坎は北、下卦乾は西北、其方角を尋ぬべし。

◎失物 此卦時節を待ちて通達し、吉を得る象、直に出てざるも時を経て出づべし。
◎旅立 此卦下卦の乾剛進まんとして上坎險に止められて進み難き象、旅立故障あることを示す。急に出でず。時を待つを吉とす。

◎爭事 此卦九五が剛健中正の徳を備へ陰忍自重して吉を得るもの、争ふは不可なり。

◎就職 此卦陰忍自重時節を待ちて通達し、吉を得る象、急に成らず。時節を待つべし。

◎試験 此卦九五が誠實正固を以て功を遂ぐる象、宜しく今一層勉強する必要あり。

◎開業、轉業、移轉 此卦陰忍自重時節を待ちて吉を得る象、何れも暫く時を待つを吉とす。

◎天候 此卦雲天上にありて未だ雨とならざる象、乃ち今曇天にして後雨となるべし。

初九 需于郊。利用恒。无咎。

(爻辭讀方) 郊に需つ。恒を用ふるに利し。咎無し。

(象 義) ◎「郊」曠遠の地のこと。◎「恒」恒常にして變動なき義、共に下卦乾の象より取れるなり。
(意 義) 需の卦は、下卦の乾剛が進み動かんとして上卦の坎水に阻まれて進み得ず、時機の到来を待つ意味の卦であるから、下卦の三爻は、上卦の坎險を隔たることの遠近によつて爻意を説いて居るのである。乃ち初九は最下に居つて坎險を去ること最も遠きが故に「需于郊」と云つて、曠遠の地にあつて時機を待つて居ることを示したのである。斯くの如く初九は坎險を去ること最も遠く、従つて艱難が直に來るものではないが、豫めこれを微に察し、常態を守つて變化異動することなく、時の至るを待つべきで、守ること斯くの如くならば、艱難に陥り禍害を招く様なことがないのである。「利用恒、无咎」とはこれを説示したのである。而して元々陽剛で艱難を耐へ忍ぶ力があるものであるが、陽を以て陽位に居るは、聊か剛に過ぎる傾きがあつて、進み易き憂ひがあり、自ら難を犯して害を招くに至る懼れがないと云へぬから、恒常の道を守る様に戒めたのである。要するに此爻、妄進を戒め、恒常の道を守りて時機を待ち禍害艱難を未然に防ぐべきことを教へたのである。

(占 斷)

◎運 勢 需は坎險に阻まれて進み難く、時機の到来を待つべき卦であり、初九は此時に處して坎險を去る

こと未だ遠しと雖も、豫めこれに備へて恒常を守り妄進を戒めたるものなれば、此爻を得たる時、禍害艱難に遭遇する憂ひある時なれば、萬事陰忍自重して急進妄動を慎しみ、これを未然に防ぐ心掛けが肝要である。此心掛けを守らば、變卦水風井は無事平靜を現はす卦であり、又本卦需は時至りて滋雨下り、萬物潤澤を得る意あれば、運氣平安を得て吉を迎ふるに至るものである。

◎願望、金談 初九需の時に居り、其最下にあるは未だ時機を得ざる象である。然し陽剛にして正位を得、よく耐へ忍ぶ力あるものなれば、急に調ひ難きも時機至りて調ふ望みあり。

◎賣 買 需は坎險に阻まれて進み難き象、賣買共に故障滯滞を示すものなり。然し初九が恒常を守りて「无咎」を得るより見て、焦燥らず時機を待たば順調に運び、時來りて利を得べし。

◎相場 初九は最下に居りて時機を得ざるもの、變じて水風井となれば動かざる象、相場軟弱持合の象なり。然し陽剛にして正位を得、元々力あるものなれば先行は上るべし。

◎縁 談 需は坎險に阻まれて進み難きもの、縁談故障ありて長引く象なり。然し初九が陰忍自重「无咎」を得るより見て、氣長に進まば纏る望みあり。縁としては初九が正位を得、變じて水風井となれば平靜の象を現す故吉なり。

◎子 實 需は初め艱難を示し、後に亨りて吉を得るもの、而して初九此時に處して陽を以て正を得、陰忍自重吉を得るものなれば、初め子供に就きて苦勞故障あるも末は吉なる象なり。妊娠は此爻陽を以て正を得。男兒なり。

- ◎夫 運 初九陽剛を以て正位に居るは、夫の心正しく働きある象、然し最下に居りて時を得ざるより見て初め苦勞を免れず後吉なる象なり。
- ◎妻 運 初九が陽を以て陽位に居るは、稍強きに過ぎ進み過ぐる懼れあるもの、働きあるも氣性烈しき妻に添ふ象なり。
- ◎家庭運 初九が陽剛にして正位を得るは、家庭運吉なる生れなるも、雷は坎險に阻まれて進み難き卦なれば、初運は多少の艱難辛苦を免れざることを示す。忍耐自重大切なり。
- ◎壽命 雷の上卦坎は病患の象にて、下卦の乾健これに阻まれるは、少青年時代に病難ある象なるも、初九陽剛にして正を得るは、生來強健の實にて攝生よきことを示し、「无咎」とある如く壽を保つ象なり。
- ◎病 氣 雷は上卦坎險に阻まれて通ぜず、時機至りて初めて通ずる卦なれば病氣長引く象。然し初九恒常を守りて「无咎」より見て養生さへよければ全快すべし。
- ◎待 人 初九乾體に居り陽剛にして進む氣あるも、上卦坎險に止められて進み難きは、來る意志あるも故障ありて來られざる象なり。
- ◎走 人 初九は恒常の道を守りて妄進せず、「无咎」を得るもの、案することなく間もなく歸來すべし。
- ◎失 物 初九最下に居り、上卦坎險に阻まれて進み得ざるより見て、何かの下になり居るなり。下卦乾は西北、變體巽は東南、其方角を尋ぬべし。
- ◎旅 立 雷は坎險に阻まれて通ぜず、時機を待ちて通ずる卦、旅立故障あることを示す。宜しく初九が恒

常を守りて「无咎」を得る如く、暫く時機を待つを吉とす。

- ◎爭 事 初九は恒常の道を守りて「无咎」を得るもの、争ふは交意に反して凶なり。
- ◎就 職 初九は郊に待つものにて曠遠の地にあり。時到らず、就職急に成らざる象なり。
- ◎試 驗 初九は恒常を守りて「无咎」もの、今一勉強の必要あることを示すものなり。
- ◎開業、轉業、移轉 初九は恒常を守りて妄進せざる機戒めたる交なり。何れも進むは不可なり。
- ◎天 候 雷は曇天の象なるが、初九陽剛にして正を得、變じて巽となれば風の象なり。乃ち風出でて晴る象なり。

九 二 需 干 沙 小有 言 終 吉。

(文辭讀方) 沙に需つ。小しく言あれども終に吉なり。

(象 義) ◎「沙」水邊の地の事にて泥と相連る所なり。乃ち九三の泥に比して水に向遠く、初九の郊に比すれば稍近き所なり。九二が初九よりも一步坎險に近づきたる故に云ふなり。◎「小有言」言は互體兌を口の象とするより取る。小とは多少の義にて又兌を小となすより云ふ。乃ち「小有言」とは小災害ある義なり。(意 義) 九二は初九よりも一步坎險に近づいたもので、従つて九三程ではないが危險の度が進んだ象である。それでこれを悟つて時を待つて進まぬのである。「需 干 沙」とはこれを云つたのである。斯くの如く九二は沙に需つて進まぬのであるが、大分坎險に近づいたことであるから、多少の波瀾とか、争ひとか、誹

論とか云ふ程度の小害は免れないのである。これを「小有言」と云つたのである。然し九二は陽剛の才を以て陰位に居り、中を得て寛容の徳を備へて善なるものであるから、その處すること宜しきを得る爲に、小災害はあつても大災害を受けず「終吉」を得るのである。

(占 斷)

◎運 勢 九二は初九よりも一步坎險に接近し、危險に近づいたものであるが、陽を以て柔に居り中を得て居る爲に、寛容を以て善處し、大害を免れて小害を受くるに止まるものである。故に此爻を得たる時、運氣稍衰へを示し、多少の困難、小波瀾事、言語の慎しみを欠きての過ち等を免れぬ象があるが、急進妄動を慎しむ、寛容柔和の心掛けを守りて善徳を積めば、大害を蒙ることなく、衰運を免れて吉運順調の運びを得るに至るものである。

◎願望、金談 爻辭に「小有言」とあれば、多少の故障行惱みを免れざるも、九二が剛を以て柔に居り中を得て善處するが如く、進退宜しきを得ば、「終吉」とあるが如く成就する望みあり。

◎賈 買 爻辭に「小有言」とあるより見て、賈買共に多少の故障を免れざるも、急進妄動を慎しめば「終吉」とある如く利を納め得べし。

◎相 場 九二陽剛を以て陰に居り、且上坎險に止められて進み得ざるは、相場底力あるも伸悩象むなり。

◎家庭運 九二は坎險に阻まれ、又爻辭に「小有言」とあるより見て、中年期迄は多少の艱難辛勞を免ざれるも、「終吉」とあれば中年後晩年へかけては幸福を得べし。

◎縁 談 爻辭に「小有言」とあるより見て多少の行惱みあるも、「終吉」とあれば結局纏る。
◎子 實 爻辭に「小有言終吉」とある如く、初めは小供に就きて多少の辛勞を免れざるも、末には幸福を得べし。妊娠は此爻變じて陰となりて正を得、變體離も中女の象なれば女兒なり。
◎夫 運 九二陽剛を以て陰に居り中を得るは、働きありて寛容の徳を備へたる夫に添ふ象なり。然し「小有言終吉」とあれば末は幸福なるも初めは幾分苦勞を免れず。
◎妻 運 此爻變じて離となれば華麗の象、美人の姿を得べし。然し坎險に阻まれて進み難き象なれば妻のことに多少の辛勞を免れず。
◎壽 命 九二は坎險に阻まれて進み難きもの、坎は病患の象なれば病難を免れざるも、中を得て善處し、「終吉」を得るものなれば、養生よき爲に壽を保ち得る象なり。
◎病 氣 九二は初九よりも一步進みて坎險に近づくもの、病勢昂進の象なり。然し九二が剛を以て柔に居り中を得る如く、養生よければ「終吉」とあるより見て全快すべし。
◎待 人 爻辭に「小有言終吉」とあるより見て、多少遅るゝも来る。
◎走 人 爻辭に「小有言」とあるより見て、爭事より家出せる象なり。而して「雷千沙」とあるは九二が危險を悟りて進まざる意なれば、非を悟りて歸り來るべし。
◎失 物 爻辭に「雷千沙」とあり。沙は水邊の地なれば水に縁ある場所を尋ねべし。「終吉」とあれば出づる望みあり。下卦乾は西北、變體離は南其方角を探ぬべし。

◎旅立 九二は危険を悟り沙に需らて進まざる爲に大害を免るゝもの、出てざるを吉とす。
 ◎争事 爻辭に「小有言終吉」とあるより見て、多少の苦情争論を免れざるも結局無事に治るべし。又九二は妄進せざる爲に大害を免るゝものなれば、強いて争ふは凶なり。
 ◎就職、試験 爻辭に「小有言終吉」とあるより見て、就職多少行儀むも結局難り、試験二三不成績の課目あるも、全般を通じて成績良好なり。
 ◎開業、轉業、移轉 九二は危険を悟りて妄進せざる爲に大害を免れて吉を得るもの、進むは何れも爻意に反して凶なり。爻意に従ひ暫く時機を待つべし。
 ◎天候 上卦坎は雨の象、九二これに近づくは天候險惡に向ふ象、又九二變じて離となれば太陽の象にして、上卦坎の雲雨に覆はるゝも、天候險惡となる象なり。

九三 需于泥。致寇至。

(爻辭讀方) 泥に需つ。寇の至るを致す。
 (象 義) ◎「泥」水際の湿地のこと。互體兌を澤となし、上卦坎水に接するは泥の象なり。◎「寇」上卦坎に寇の象あるより取る。◎「致」我よりこれを招く義、九三が進んで上卦の坎險に接迫する象より云ふ。
 (意 義) 九三は下卦の三爻の中で、上卦の坎險に一番接近して居つて、險難禍害が目前に迫つて最も危険の地位に居るものである。これを「需于泥」と云つたのである。偕九三は斯くの如く危険の位置に居る

に拘らず、剛を以つて陽位に居るは剛に過ぎ、其上中を得て居らず、殊に下卦乾の上に居りて進む氣が強く静に時機の至るを待つことが出来ないで、妄進して自ら危険に迫つたもので非常に危いと云はねばならぬ。故に若し強いて此坎險を涉らうとすれば、艱難災害を招いて如何ともすることが出来ない様な破目に陥るのであるが、未だ全く坎險の中に陥つてしまつたものではないから、此時に當つて自重警戒して慎しみを守れば艱難災害を免れることが出来るのである。故に「致寇至」と云つてこれを戒めたのである。要するに此爻に於いては、危険艱難に接迫して自重謹慎を守らず、自ら妄動して災害を招き困難に陥るものを戒め教へたのである。

(占 斷)

(運 勢) 九三は過剛不中にして下卦乾の上に居り、進氣強く、時機を待ち得ずして急進妄動し、危険艱難に陥る象があり、又此爻變じて水澤節となれば、萬事節度を守るべきことを戒めた卦である。故に此爻を得たる時、運氣險惡に迫り、然も慎しみを欠きて急進妄動に流れ、艱難災害を招きて身を破るに至る憂ひがあるから、萬事自重謹慎を守りて一身の安全を計る心掛けが肝要である。尙爻意より見て、水難、盜難、病難等の憂ひがあるから注意を要する。
 ◎願望、金談 九三は自重謹慎を欠き、急進妄動に流れて災害困難に陥る懼れあるもの、願望金談共に成就の望みなきのみならず、焦燥りて無理に流れ、後害を招く象あれば注意。
 ◎賣 買 九三は過剛不中、妄動して災ひに陥るもの、賣買共に利を焦燥り無理をして失敗損失を招く象なり

- ◎相場 九三が陽を以て陽位に居り、且乾の上にあるは相場高きことを示すも、中を得ず妄進して破れを招くは先行崩落の兆なり。
- ◎縁談 九三は過剛不中、妄進して身を破るもの、縁談凶にして成立の望みなき象なり。
- ◎子實 九三は過剛不中、妄進して身を破り艱難災害に陥るもの、兒女強情我儘にして苦勞困難する象なり。養育上注意特に肝要なり。妊娠は此爻陽にして正を得。男兒なり。
- ◎夫運 九三が過剛不中にして妄動に流れ、危険に陥るは、氣性激しく我儘なる夫に添ひ、苦勞多き象なり。
- ◎妻運 九三が過剛不中にして妄進し、危難に陥るは、粗暴にして慎しみなき女を妻として迷惑する象、又變體に口舌の象あるは、妻の口やかましき性質を示すものなり。
- ◎家庭運 九三が下卦乾の上にあるは、相當の家に生るゝことを示すも、過剛不中妄進して危難に陥るより見て、我儘に流れ慎しみを缺きて身を破り、家運を傾くる象なり。
- ◎壽命 九三が乾體に居り、陽を以て正を得るは生れつき強健の象なるも、中を得ず、妄動して危地に陥るは攝生悪しく健康を損じて短命に終ることを示す。
- ◎病氣 上卦坎は病患險難の象なるに、九三自ら進みてこれに接迫するは、病勢昂進して險惡に向ひ危険の象なり。
- ◎待人 九三過剛にして進氣強きは來る意志あることを示すも、坎險前にありてこれを止むるは故障あり

て意を果さざる象なり。

- ◎走人 九三が妄進して坎險に接迫するは、走人の身の上に危険ある象なり。「需三千泥」とあれば水邊を尋ぬべし。上卦坎は北、下卦乾は西北、其方向を尋ぬべし。
- ◎失物 九三妄進して危地に陥るは、外に出てたる象にて、手に返る望みなし。
- ◎旅立 九三過剛不中の性を以て妄進し、危難に陥る憂ひあるは、出でて危険災難に遭遇する象なり。中止すべし。
- ◎爭事 九三は過剛不中にして、妄進して危難に陥るもの、強いて争ひを起し艱難災害を招く象なり。
- ◎就職、試験 九三は危地に立ち、妄進して、艱難に陥るもの、就職ならず。試験不成績の象なり。
- ◎開業、轉業、移轉 九三は時機の至るを待たず、妄進して危難に陥るもの、何れも絶體に不可なり。
- ◎天候 上卦坎を雨となす。九三これに接迫するは天候險惡となる象なり。

六 四 需三千血。出、自、穴。

(爻辭讀方) 血に需つ。穴より出づ。

(象 義) ◎「血」上卦坎を寇となし又血の象となす。而して六四が下卦三陽に迫られ陰陽相傷く象あるより云へるなり。◎「穴」上卦坎を陥るとなし、穴の象あるより取る。◎「出」六四變すれば兌となり、兌を解となすより云へるなり。

(意 義) 六四は上卦坎險の中に陥り、其上、下三陽の爲に壓迫されて、非常なる艱難憂患の境遇に處し、傷害を受くる憂ひあるものである。故にこれを「需干血」と云つたのである。斯くの如く六四は頗る危険艱難の状態にあるけれども、柔を以て陰位に居り、位正しく性質が柔順で、よく下三陽に従ひて争はず、時機の至るを待つて居るものであるから、遂に此危難を脱し災害を免れて安全を得ることが出来るのである。これを「出自穴」と云つたのである。要するに此爻、艱難危険の境遇にあるものでも、柔順にして時を待てば、安泰の境遇に出づることが出来ると云ふ意を説き教へたものである。

(占 斷)

◎運 勢 六四は坎險の中に陥り、下三陽に迫られ、憂艱の極に立つもの、故に此爻を得たる時、運氣極めて險惡にして艱苦に難む象を現すも、六四が柔正を得て、柔順の性を以てよくこれを忍び、時機の到来を待つ爲に、此難境を脱するより見て、忍耐柔順の態度を守るためによくこの難關を脱して安泰の境遇に浮び出て、悦びを迎ふるに至ることを示すものである。尙文意より見て、争事、劍難に注意を要し、變卦澤天夫となれば、不慮の災難、書券契約の間違ひを生ずる憂ひあれば注意。

◎願望、金談 六四は坎險に陥り、下三陽に迫られて難境に立つもの、願望金談共に困難多く成立容易ならざる象なるも、六四の如く忍耐柔順を守りて時を待たば「出自穴」とある如く遂に成就する望みあり。

◎賣 買 六四は艱難の極に立つもの、賣買共に故障困難甚しきことを示す。宜しく急進妄動を慎しみ六四の如く忍耐柔順を守りて商機の到来を待つべし。

◎相場 六四が陰柔にして難極に立つは相場不勢の象、然し「出自穴」とあるは、前途徐々に好況に向ふ兆を示すものなり。

◎縁 談 六四が難極に立つより見て、故障困難多く容易に運ばざることを示す。然し氣長に進まば「出自穴」とある如く纏る望みあり。縁としては此爻柔正を得るは吉の象なり。

◎子 實 六四が坎險に陥り三陽に迫られて、憂患甚しき象より見て、子供に就いて苦勞多く、特に坎は病患の象なれば、兒女病弱にて辛勞する象なり。然し「出自穴」とあれば、末は苦勞を脱して喜びを得べし。姪は六四柔正にして變じて兒となれば少女の象、女兒なり。

◎夫 運 六四は正を得て柔順なるもの、温良柔和なる夫に添ふ象なり。然し坎險に陥りて苦しむより見て初めには苦勞を免れず。

◎妻 運 六四柔正を得てよく艱苦に耐ふるは、妻女柔順貞正にして内助の功を得る象なり。

◎家庭運 六四が憂患艱苦の極に立つは、困窮の家に生れて苦難甚しき象なり。然し六四は忍耐柔順を以て「出自穴」もの、よく此難境を突破して身を立て家を興す力あることを示す。

◎壽命 上卦坎は病患の象、六四これに陥りて難むは身體虛弱短命の憂ひあるもの、然し六四が柔正を以てよく穴より出づるは、攝生よければ體質を改善して壽を保ち得ることを示す。

◎病 氣 六四が坎險に陥り三陽に迫られて憂患の極にあるは、病勢險惡危険の象なり。養生よくば或は六四が穴より出づる如く助かることあり。

◎待 人 六四坎險に陥りて難むは、障害ありて來らざる象なり。然し「出_レ自_レ穴」_レとあるは、後には障害を排除して來ることを示すものなり。

◎走 人 六四坎險に陥り「需_三千血_二」_レとあるは、走人の身上に傷害の懼れあることを示す。然し「出_レ自_レ穴」_レとあれば危難を免れて歸來すべし。又六四陰を以て三陽に迫らるるは、色情の關係ある象なり。

◎失 物 上卦坎は穴の象、六四之れに陥るは何所かに落入れるなり。「出_レ自_レ穴」_レとあれば出づべし。方角、上卦坎は北、變體兌は西、其方角を尋ぬべし。

◎旅 立 六四は坎險に陥りて危難の極に立つもの、出でて危険困難に陥る憂ひあれば凶。

◎爭 事 六四は柔正にして忍耐柔順を守り、危きを免るゝもの、争ふは交意に反して絶對に凶なり。

◎就 職 六四は艱難の極に立つもの、望みなし。宜しく忍耐して「出_レ自_レ穴」の時機を待つべし。

◎試 驗 六四は難境に陥りて運氣凶なるもの不成績なり。

◎開業、轉業、移轉 六四は「需_三千血_二」の危地に立つもの、妄動を戒む。何れも進むは凶。

◎天 候 上卦坎は雨の象、六四これに陥るは雨天なり。然し「出_レ自_レ穴」_レとあれば後晴れに向ふべし。

九 五 需_三千酒食_二 貞吉。

(文辭讀方) 酒食に需つ。貞にして吉なり。

(又 義) ◎「酒食」上卦坎の象より取る。坎は水で、水は萬物を潤すものであるからである。

(意 義) 九五は陽剛中正を得て尊位に居り、卦の主ではあるが、今は需の時であり、その上坎險の中に居るから、急がず憂へず。安靜を守りて、酒食を設けて下三陽の進み至るを待つて居るものである。それ酒は宴樂の具、食は生活の資であつて、人としてこれを求むること最も切なるものである。故にこれを得れば則ち喜び、これを得ざれば則ち憂ひ悲しむことは、人情の免れ難きものである。今九五がこれを設けて待つは、君主たるものが、天下の萬民を愛養撫育し、これを満足の境地に達せしめることを待つもので、これによつて人心を教化し、王道を成就するものと云ふべきで、需道に於いて最も大切であり、肝要なことである。乃ちこれを「需_三千酒食_二」と云つたのである。而して酒食は斯くの如く緊要なものであるが、兎角治に始まつて亂に終る弊害があるものである。然るに九五が酒食を設けて待つ心は、その根本が正しいのであるから従つて吉なのであつて、これを「貞吉」と云つたのであるが、これは九五の如き、中正にして尊位に居る君主にして始めて正しきを得て吉なのであるが、普通一般の人は勿論、假令君主であつても、正しい心からでなくして、飲食宴樂に耽るが如きことがあれば、身を亡し家國を失ふに至るは必然であるから、充分戒めを守らねばならぬことは云ふ迄もないことである。これを要するに九五に於ては、中正なる君主の仁心徳澤を讚美したのである。

(占 斷)

◎運 勢 九五は中正の君主で、變じて地天泰となれば和合安泰の象を現す卦であるから、此爻を得たる時身分高く運氣豐盛を得て、吉祥和樂の象を示すものであるが、今急進妄動を慎しむべき需の時に處し、上卦

坎險の中に陥つて居るのであるから、若し盛運に驕り、身分に誇りて、心を亂し行ひを破るが如きことがあれば、變卦泰に歡樂極つて哀愁を招く意ある如く、折角の運氣を破りて悲運困苦に陥る懼れがあるから、宜しく九五が安靜を守り中正の心を持ち、貞にして吉を得るが如き心掛けを以て進退することが大切である。尙交意及變卦の象より見て、金運、榮達、家庭身内の慶事等を得る象がある。

◎願望、金談 九五が陽剛中正を以て尊位に居り、貞にして吉を得、需道を全うして運氣豊盛なるは、願望金談共に成就する象なり。

◎賈 買 九五は進退宜しきを得、需道を全うして盛んなるもの、賈買共に掛引機宜を得て成功利益を得る象なり。

◎相場 九五が陽剛中正を以て尊位に居るは、相場順調に進みて高き象、然し坎險に居り、變卦泰は極まれば否に傾く象なれば、先行逆轉の兆あり。

◎縁談 交辭に「需三酒食」とあるは、縁談纏りて祝典を擧ぐることを示すもの、又九五變じて泰となれば和合安泰の象なれば良縁なり。

◎子 賈 九五が陽剛中正の徳を備へ、貞正を以て需道を全うし、變卦泰が上下の秩序備りて和合安泰の象を現すより見て、優秀にして孝心深き兒女を得て幸福なることを示す。妊娠、九五が陽剛にして中正なるは男兒の象なり。

◎夫 運 九五が陽剛なるは夫の才力あることを示し、中正を得るは志行正しきことを現し、尊位に居るは

榮達することを示し、夫運大吉の象なり。

◎妻 運 九五は陽剛中正の徳を備へ、貞吉なるもの、又變じて坤となれば母の象にて、變卦泰は安泰の象なれば、才力兼備、貞淑にして家道を全うする良妻を得べし。

◎家庭運 九五が陽剛中正を以て尊位に居り、變卦泰が和合安泰の象を現すは、富貴の家に生れて幸福の象なり。然し需は妄動を戒むる卦なれば、驕慢に流れて破れを招かざる心掛け肝要なり。

◎壽命 九五が陽剛なるは強健の象、中正を得て需道を全うするは長壽の象なり。

◎病氣 九五が坎險の中に居るは病狀相當重き象なるも、剛健中正を得るは、體質強く養生よきことを示し、「貞吉」とある如く全快すべし。

◎待人 九五は酒食を備へ、正しき心を以て下三陽の來るを待ち、需道を全うするもの、待人來る象なり

◎走人 九五は陽剛中正にして「貞吉」なるもの、心配なく間もなく歸るべし。

◎失物 九五は坎の中央にありて兩陰に挾まる。坎を陥るとなす。何かの間に紛れ込めるなり。上卦坎は北、變體坤は西南、其方角を尋ねべし。

◎旅立 九五は陽剛中正、貞にして吉を得るもの、出て宜し。

◎爭事 九五は心正しく、柔順貞正を以て三陽を迎へ、吉を得るもの、争ふは交意に反して凶。

◎就職、試験 九五は陽剛中正の徳を備へ、貞にして需道を全うするもの、就職調ひ試験好成绩の象なり。

◎開業、轉業、移轉 九五は需道を全うして吉なるもの何れも進みて吉。

◎天候 雷は雨の至るを待つ卦なるが、今九五に至りて雷道全きを得るは、雨降る象なり。

上六 入千穴。有不速之客三人來。敬之終吉。

(爻辭讀方) 穴に入る。速かざるの客三人來るあり。之れを敬すれば終に吉なり。

(象義) ◎「入千穴」「穴」は上卦坎の象より取る。「入」上六變すれば巽となる。巽を入るとなすより云ふ。

(意義) 需の卦に於いて、六四も上六も共に陰を以て坎體に居るから穴の象を取つて説いたのであるが六四にては「用自穴」と云ひ、上六にては「入千穴」と云つた譯は、六四は未だ卦中に居るものであるから尙出て行く場所があるが、上六は卦の極に居つて、これ以上出て行く場所がないからである。又上六は卦の終りて、雷道は既に終つたのであつて、最早待つ義は盡きて居るのであるから、他の爻では皆「需つ」と云つてあるが、此爻では「需つ」と云はずして「入る」と云つたのである。然し下卦の三陽は時を待つて進み上らんとするものであるから、その極は終に上六に到達するものであつて、乃ち上六はこれ待つて居るのではないが、三陽爻の方から勝手に進んで來るのであつて、上六から云へば招待せぬ不意の來客である。「有不速之客三人來」と云ふのはこれを述べたのである。斯くの如く三陽爻は、上六に取つては不意の來客ではあるが、元々上六は柔を以て陰位に居り、正を得てその性質が柔順であるから、これを敬ひ、誠意を盡して款待するのである。故にやつて來た客もこれに和合して、上六を助ける様になるから、終に吉を得る

のである。「敬之終吉」とあるのはこれを云つたのである。要するに此爻に於いては、人と交りて禮を盡し、柔順の態度を以てよく忍ぶ時は、禍ひを避けて吉を得ることを説いたのである。

(占斷)

◎運勢 上六は卦極に居りて雷道終れる時なれば、此爻を得たる時、物事落着して一時平靜を見る時である。故に「入千穴」とある如く暫く休養して活動せざるを吉とする。又「有不速之客三人來敬之終吉」とあるより見て、豫期せざる事件の起る憂ひあれば注意を要し、敬禮の心と誠意を以て人に交れば、意外の助けを得て禍ひを避け吉を得る象がある。

◎願望 上六は雷道の終りなれば、從來よりの宿望は達するも、新しき願望は「入千穴」とありて休止の状態を示し、又變卦風天小畜は停滯の象なれば成就せず。

◎金談 爻辭に「入千穴」とあるより見て當にせる先は逃れて應ぜざる象なり。然し「有不速之客三人來敬之終吉」とあれば、思掛けぬ金主現れて望みを達する象あり。

◎賣買 爻辭に「入千穴」とあるは賣買共に停滯して意の如く運ばざる象なり。然し「有不速之客三人來敬之終吉」とあれば、思掛けぬ客を得て意外の吉利を得る象あり。

◎相場 爻辭に「入千穴」とあるは、相場安値に陥る象、而して變卦小畜は停滯の象なれば先行持合ふべし。

◎縁談 爻辭に「入千穴」とあるは、行儀みて運ばざる象、變卦小畜は妻夫を嫌ひて和合せざる象なればし。

ば縁としても凶なり。「有_二不_レ速_一之客三人來_レ敬_レ之終吉」とあれば、他に思掛けぬ良縁を得ることを示す。

◎子 實 此交招かざる意外の客三人も來る象にて、意外に兒女多き象なり。娠は上六陰を以て正を得るもの、女兒なり。

◎夫 運 上六が陰柔にして正を得、穴に入る象なるは、柔和なる夫に添ふ象なるも、幾分働きの足らざる傾きあることを示す。然し誠意ある象なれば「終吉」とある如く幸福を得べし。

◎妻 運 上六は陰にして正を得、招かざる客をも好遇するの心あるものなれば、柔順にして誠意深き妻を得る象なり。

◎家庭運 此交坎險の極に居り、又交辭に「入_二千_一穴」とあるより見て、衰微して困難なる家に生るゝ象なり。然し「有_二不_レ速_一之客三人來_レ敬_レ之終吉」とあれば、思掛けぬ機運に遇ひて家運を挽回し幸福を得るに至る象あり。

◎壽命 上六が陰柔を以て病患の象ある坎險の極に居るは、虚弱にして病苦に難む象。「入_二千_一穴」とあるは短命を示す。

◎病 氣 上六が陰柔を以て坎險の極に居り、交辭に「入_二千_一穴」とあるは、病狀重く危險の象なり。然し「有_二不_レ速_一之客三人來_レ敬_レ之終吉」とあるより見て、ふとしたる療法により思掛けず九死に一生を得ることあるを示す。

◎待 人 交辭に「入_二千_一穴」とあるは動かざる象、待人來らず。然し「有_二不_レ速_一之客三人來」とあれば、意

外の人來る象なり。

◎走 人 交辭に「入_二千_一穴」とあるより見て何所かに潛伏し居る象なり。而して上六陰柔にして力乏しく卦極に居りて進むべき所なきは、遠方に走らざることを現す。上卦坎は北、變卦巽は東南、その方角を尋ねべし。

◎失 物 交辭に「入_二千_一穴」とあるより見て、何所かに落込めるなり。「有_二不_レ速_一之客三人來_レ終吉」とあれば、思掛けぬ所より發見すべし。方角走人に同じ。

◎旅 立 上六は陰柔にして正を得、誠意あり、「終吉」を得るもの、出て、宜し。

◎争 事 上六は下三陽の思掛けなく進み來るも、誠意敬禮を以てこれを好遇し、争はざる爲に吉を得るもの、争ふは交意に反して凶。

◎就 職 交辭に「入_二千_一穴」とあるより見て、急に就職望みなし。然し「有_二不_レ速_一之客三人來_レ終吉」とあれば、あせらずして時を待たば思掛けぬ手引にて就職口を得る望みあり。

◎試 験 上六は陰柔不才にして「入_二千_一穴」とあるより見て不成績なり。

◎開業、轉業、移轉 上六は需道終りて「穴に入る」もの、又柔順にして「終吉」を得るものなれば、動を慎しむべく、何れも進まざる方吉なり。

◎天 候 需は雨の至るを待つ卦なるに、今上六は需道終れる時にして、且陰を以て正を得、雨の象なる坎體の極に居るは雨天の象なり。然して變じて巽となれば風の象なれば、風出て、天候恢復に向ふべし。

三三

天水訟 訟有孚窒。惕中吉。終凶。利見大人。不利涉大川。

(卦辭讀方) 訟は孚ありて窒る。惕れて中すれば吉。終ふれば凶。大人を見るに利し。大川を渉るに利しからず。
(象 義) ①「訟」訟とは兩者が是非曲直を争ひ、相對では何れとも決定が出来ぬので、其裁決を上仰ぐことを云ふのである。そこで此卦を訟と名づけた所以は、上卦乾は天で陽性であるから上に昇り、下卦坎は水で陰性であるから下に下るもので、上下の進む方向が反對であり、殊に上は乾剛を以て下を制し、下は坎險を以て上を謀る象で、これ亦彼我相背く象であるから、訟の起るべきことを示して居り、又下卦を内となし、上卦を外となす點から見ても、人間の性質が假令内心は險惡であつても、表面が柔順であるならば争ひを起すに至らぬものであるが、此卦では内卦が坎險で外卦が乾剛であるのは、内心が險惡な上に表面も剛強な象であつて、勢ひ争ひを生ぜざるを得ない譯である。以上の如き點から此卦を訟と名づけたのである。而して雷の卦の次に訟の卦を置いた譯は、需は飲食の卦で、飲食は生活の根元であつて、兎角訟沙汰は生活上の利害問題から起るものであるからである。又蒙は蒙昧の象であり、需は疑惑の象であつて、蒙昧にして疑ひ惑へば必然争ひを生ずるに至るものであるからである。

②「有孚」九二が訟の卦の主であつて、下卦坎の中の一陽で、中心の誠があるからこれを取つて云つたのである。③「窒」これも九二が上下二陰の間に陥りて正を得ず、且應爻の助けがないので「窒る」と云つたのである。

る。④「惕」恐懼の義、下卦坎を患難加憂となすより云ふ。⑤「中」中庸と中正の二義を兼ね、卦主たる九二が中を得て孚あるより云ふ。⑥「終」上九が飽く迄訟を遂げんとする象あるを云ふ。⑦「大人」九五を指す。九五が訟を決する位置にあるを以つてなり。⑧「大川」大事の義、下卦坎の象より取る。
(意 義) 訟の卦に於いて、九二は陽剛で中心の誠あるものであるが、今二陰の間に陥り、然も上に應爻の助けなく、且上卦乾の爲に掩閉されて居るのは、心中に誠がありながらこれを伸べることが出来ぬものでこれを「有孚窒」と云つたのである。九二は斯くの如く心に誠がありながら窒りて通ぜず、理非曲直の明を缺く爲に、一旦は訟を起すのであるが、心に誠がある爲に、訴訟と云ふものは自分に充分の理があつても、必ず勝つと定つたものではなく、乃ち訟を聴くもの、明暗、正不正、相手方の法策如何によつて定るものであると云ふことを悟り、中途で飄然として心を改めて訟へを中止するものであつて、これは進退行動が中庸を得て居るから吉を得るに至るのである。これを「惕中吉」と云つたのである。然るに上九は九二の如く中途で心を改めることなく、何れ迄も勝たうとして、飽く迄も訴訟を進めて行くものであるから凶を招くに至るのであつて、「終凶」とはこれを云ひ、上九の如く勝ちを望んで窮極迄争ふ者は、身を亡し家を失ふ様な禍ひに陥るものであると云ふ戒の言である。次に「利見大人」と云ふのは、訟と云ふものはこれを裁判する人が公明なる人格者でなければ、正しい判決が出来ないものであるから、此卦に於ける九五の如き、陽剛中正にして尊位にある人によつて訟を起すべきであると云ふ意味である。又「不利涉大川」と云ふのは、訟と云ふものは元々已むを得ずして起るものであるから、危険を犯して迄も強いて起すべきものではなく、若

し危険を犯して強いて進めば、大川を無理に渡りて船の顛覆を見る様な危険に陥る憂ひがあると戒めたのである。これを要するに此卦では、訟の如何なるものであるかを説き、これに對す進退處置を教へたもので、訟は誠意を以て已むを得ずして起すべきものであつて、決して好んで起すべきものでなく、然かも飽く迄勝ちを得んとして剛強一點張て進まず、道徳を主として進むべきであると云ふ意味である。

(占 斷)

◎運 勢 訟の卦は「有孚窒」とある如く、乾の陽氣と坎の陰氣が上下相背きて通ぜざる象であるから、此卦を得たる時、運氣閉塞して通ぜず、物事齟齬して意の如く運ばざる時である。故に「惕中吉終凶」と戒めある通り、萬事恐れ慎しみて中正を守り、進むを戒め退き守る心掛けが肝要であり、又「利見大人」不利、涉大川」とある如く、人格ある尊位の人の意見に従ひ、急進妄動に走りて危険を犯さざる様注意することが肝要である。尙卦意より見て、争事特に目上との不和、理ありて非とせらるゝ象、苦情事、讒言中傷奸計に陥りての災ひ等を招く恐れあれば注意を要する。

◎願望、金談 訟は上下の陰陽相背きて窒り、物事通ぜざる卦なれば、願望金談共に成就せず。

◎賈 買 訟は上下陰陽の二氣相反して通ぜざる象にて、卦辭にも「有孚窒」とあれば、賈買共に故障多く失敗損失を招く象なり。

◎相 場 訟は上卦乾の陽剛と、下卦坎の陰柔相反して和せざる象なれば、人氣強弱の兩様に別れて定まらず、波瀾多き象なり。

◎縁 談 訟は陰陽の二氣相背きて争訟の象なれば、縁談纏らずして凶なり。

◎子 實 訟は上下相背きて通ぜざる卦なれば、親子間の意見合はず、子供運悪しく苦勞多き象なり。姪姪は上卦乾は純陽、下卦坎は中男の象なれば男兒なり。

◎夫運、妻運 訟は陰陽の二氣相背きて和せず。氣運閉塞、争訟の象を現す卦なれば、男女共に縁運悪しく夫婦間に争ひ絶えざるか、苦情波瀾を起して縁變る象なり。

◎家庭運 訟は陰陽相背きて窒りて通ぜざる卦なれば、家庭運悪しく、家内の和合を缺き苦情辛勞絶えざる象なり。宜しく卦辭の戒めを守り、我儘強情を慎しみ、恐懼謹慎の心掛けを忘れず、目上の意見を重んじて進むこと大切なり。

◎壽 命 訟は陰陽相和せず、氣運閉塞の卦なれば、身體に故障病難多く壽を保ち難き象なり。卦辭に「惕中吉」とある如く、身を慎しみ行ひを正しくして健康長壽を計ること肝要なり。

◎病 氣 訟は氣運閉塞し故障齟齬を見る卦なれば、病性悪しく、重態危険の象なり。

◎待 人 訟は物事窒りて通ぜざる卦なれば、待人來らず。

◎走 人 訟は陰陽相反し、争訟の象を示す卦なれば、争事より家出せるものなり。而して物事齟齬する象あれば、行先判明し難き象なり。上卦乾は西北、其方角を尋ねべし。

◎失 物 訟は閉塞して通ぜざる卦なれば出でず。

◎旅 立 訟は氣運窒りて通ぜず、故障齟齬を招く卦なれば、出づるは凶。

◎争事 訟は争訟の卦なれば、争事を免かれざるも、交辭に「惕中吉、終凶、利見大人、不利涉大川」とあれば、これに従ひて窮極迄争はず、目上の人格者に依頼して、程よき所にて和解するを吉とす。

◎就職、試験 訟は氣運閉塞し、物事通ぜざる卦なれば、就職ならず、試験不成功なり。

◎開業、轉業、移轉 訟は氣運通ぜざる象にして、自重謹慎すべきことを教へたる卦なれば、何れも進むは凶なり。

◎天候 訟は陰陽の二氣相合せざる象なれば、天候險惡なり。

初六 不永所事。小有言終吉。

(爻辭讀方) 事とする所を永うせず。小しく言あれども終に吉なり。

(象義) ◎「事」訟のことなるが、些細の争ひにて未だ訟と云ふ迄に至らぬ小事故、訟と云はずして事と云へるなり。◎「小有言」小波瀾ある意、小とは初六が陰爻にして陰を小となすより云ひ、言とは初六變ずれば下卦兌となり、口舌の象あるより云ふ。

(意義) 訟に於いて、訟へを聞くものは九五だけで、他の五爻は皆訟をなすものであるが、初六は訟を起す心はあつても、最下に居りて身分も低く、陰柔で力弱いから、強いて訟を起すことが出来ず、心だけで實行に移らず断念するものである。「不永所事」とはこれを云つたのである。然し訟の時に居り、一旦は訟を起さうとしたのであるから、一寸した言の上の争ひ位は免れぬ所であるが、斯くの如きは些細の事である

から、大した禍害を招くことなく終に吉を得ることが出来るのである。これを「小有言終吉」と云つたのである。要するに此爻に於いては、己れの分に安んじ、溫柔にして強いて争はないものの、禍害を免れて終に吉を得ることを説き、これを以て訟に處する道を教へたのである。

(占断)

◎運勢 此爻を得たる時、陰陽相反して通ぜざる訟の時に居るを以て、氣運順調を缺くと雖、初六は自己の身分低く、陰柔にして力乏しきを知りて、強いて訟を起さず、温順控目の態度を守るものなるを以て、「小有言終吉」とある如く、小災、小難は免れざるも大害を招くことなく、終に吉を得ることが出来るものである。尙交意より見て、先見の明ありて關係事より手を引きて災難を免るゝ象、思慮方針を改めて吉を得る象がある

◎願望、金談 初六は氣運不通の卦訟の最下に居り、陰柔にして才力乏しきものなれば、大望大金は成就の望みなきも、初六の如く自己の分を知り溫柔を以て進まば、「終吉」とある如く願望金談共に分相應の望みは達すべし。

◎賣買 初六はよく自己の分を知りて妄進せざる爲に「終吉」を得るもの、賣買共に大事を企てず、分相應のことに従はゞ利を納め得べし。若しこれに反して、大事に手を出さば失敗損失を招くべし。

◎相場 初六は陰柔にして力なく、然も最下に居るもの、相場安き象なり。

◎賈買 交辭に「小有言終吉」とあるより見て、稍故障行惱む象あるも結局纏り、縁としても末は吉なり

◎子賣 交辭に「小有言終吉」とある如く、初めは子供に就きて多小苦勞あるも末は吉なり。妊娠は初六

陰柔にして、變じて兌となれば少女の象なれば女兒なり。

◎夫 運 初六が陰柔にして力弱く、最下に居るより見て、氣力弱き目下の身分の者を夫とする象なり。然し「小有言終吉」とあれば、初めは稍意に満たざる象あるも末は幸福を得べし。

◎妻 運 初六は温順にして己れの分を知るもの、又變じて天澤履となれば禮節の卦なれば、温順にして貞節の女を妻とし、幸福を得べし。

◎家庭運 爻辭に「小有言終吉」とあるより見て、初めは稍苦勞故障あるも、末には幸福を得べし。

◎壽命 初六が陰柔にして位正を得ざるは身體虛弱の象なり。故に「小有言」とある加く病弱を免れず。然し「終吉」とあれば相當の壽を保つべし。

◎病 氣 初六は氣運閉塞の卦訟の時に居り、「小有言」とあれば、一時心配の病狀を示すべきも「終吉」とあれば全快すべし。

◎待 人 爻辭に「不永所事、小有言終吉」とあるより見て、故障ありて少し長引くも遂に来る。

◎走 人 初六は争訟の卦なる訟に居り、「小有言」とあれば何かつまらぬ争ひより家出せるなり。然し「不永所事」とあり、又「終吉」とあれば、心静まりて間もなく歸來すべし。

◎失 物 初六最下に居り、陰柔にして力なきは、何かの下に押つけられ居る象なり。「小有言終吉」とあれば出づ。下卦坎は北、變體兌は西、其方角を尋ぬべし。

◎旅 立 爻辭に「小有言」とあれば幾分故障の象あるも「終吉」とあれば出で、差支へなし。然し「不永

所事」とあれば長途の旅行、長期の滞在は見合すべし。

◎争 事 初六は争心を斷念し、温順の態度を守りて「終吉」を得るもの、争ふは不可なり。

◎就職、試験 初六は「小有言終吉」を得るもの、就職多少の故障あるも結局纏り、試験は一部不良の課目あるも全體を通じては成績良し。

◎開業、轉業、移轉 初六は争心を斷念して「終吉」を得るもの、乃ち進まざる爲に吉を得るものなれば、何れも見合すを吉とす。

◎天 候 初六は陰柔を以て坎體に居るもの、坎は雨の象、雨天なり。然し爻辭の意味より見て大したることなくして晴るべし。

九 二 不克訟。歸而逋。其邑人三百戶无眚。

(爻辭讀方) 訟を克くせず。歸りて逋る。其邑人三百戶 眚なし。

(象 義) ◎「不克」勝つこと能はざる義、九二が陽を以て陰に居り位正を得ず。又九五と應ぜざるより云ふ。◎「逋」逃と同義、九二が陽を以て下卦坎の二陰の中に潛伏する象より云ふ。◎「邑人」村人のこと。坤☷を邑となす。下卦坎☵は坤中に一陽爻あり。乃ち邑人の象なり。◎「三百戶」九二は下大夫の位にして、下大夫は三百戸を領する制あるより云へるなり。◎「无眚」眚は災害の義、坎の象より取る。而して九二變すれば互體艮となり、止る象あるより「无眚」と云へるなり。

(意 義) 九二は成卦の主であつて又下卦坎の主である。故に己れと同類である初六と六三とを率ひて九五に敵し、これを訟へんとするものであるが、元來九二は剛中で誠意があるから、九五が剛健中正を以て尊位に居る人君で、到底その勢ひの敵し難きを悟つて、本來の誠ある心に歸つて訟へを中止し、己れの本據へ逃れ歸つて陰れるのである。これを「不克訟歸而逋」と云つたのである。斯くの如く主魁であつた九二が訟を止めて逃げ歸るのであるから、これに従つて行つた邑人三百戸、乃ち一族領内の者も亦逃れ歸つて、災禍を免れて無事を得ることが出来るのである。「邑人三百戸无眚」とはこれを云つたのである。要するに九二に於いては、訟の主魁となれる者が、誠心に歸つて訟を中止すれば、これに従ふ者も災ひを免れることが出来るが、主魁者が飽く迄訟へを強行すれば、これに附隨した者も災ひを受くるに至ることを説き戒めたのであつて、一國、一家に取つても、その主となる者はこの戒めを悟らねばならぬのである。

(占 斷)

◎運 勢 訟は運氣不通の時であり、變卦天地否も亦運氣閉塞の時である。九二此時に處して陽剛なる爲に、一旦は九五に敵して訟を起さんとせるも、九五が剛健中正にして尊位に居り、敵し難きを悟り、これを中止して災ひを免るゝ者である。故に此爻を得たる時、運氣閉塞の時であるから、自己の力と時の勢ひを察して、無暴の舉に出でず、退守自重して一身の安全を計る心掛けが肝要である。若しこれに逆ひて輕舉盲進せば、只に一身を過ち災厄困難に陥るのみならず、一家一族の不幸を見るに至る懼れがある。尙爻意より見て、目上との不和、物事の見込違ひ、諸事初めに慎しみを缺きての災ひ等に注意を要する。

◎願望、金談 九二は力を計らず、強剛九五に敵せんとして意を果さざるもの、願望金談共に望み大に過ぎて成就せざる象なり。

◎賣 買 九二は氣運通ぜざる訟の時に居り、力を計らずして強剛九五に敵せんとし、志を遂げざるもの、賣買共に分外の大事を企て、見込違ひより失敗損失を招く象なり。

◎相 場 九二は陽剛にして上九五に敵せんとして力足らず、中止するもの、相場買占めを企つるものありて一時上るも、挫折して崩るゝ象なり。

◎縁 談 九二は上九五に敵せんとして意を果さざるもの、又變じて否となれば陰陽和せざる象、縁談凶にして纏らず。

◎子 實 九二が九五に敵せんとするは、親子の意見合はず、子供のことにて苦勞ある象、然し九二が非を悟りて退くより見て後には融和して悦びを得ることを示す。姪姪は下卦坎は中男の象、九二は剛中を得。男兒なり。

◎夫 運 九二剛中を得るは夫の働きあることを示す。然し九五に敵せんとして果さず、逃れ歸るより見て夫が自己の力を過信して、事を企て、失敗して一時困難に陥る象あり。

◎妻 運 九二は陰を以て正しとするものなるに今陽剛にして上に敵せんとするは、氣性烈しく柔順ならざる妻に添ひて迷惑する象なり。

◎家庭運 九二が陽剛にして中を得るは、盛大なる家に生るゝ象なるも、變じて否となれば閉塞の象なるに

勢ひを待みて九五に敵し意を果さず、逃れ歸るより見て、盛運に驕りて妄動し、身を破り家を傾くる憂ひあれば慎しみを要す。

◎壽命 九二が陽剛にして中を得るは健康長壽の象なるも、力を計らずして九五に敵し、逃れ歸る象あり且病患の象坎體に居るは、健康を誇りて攝生を缺き、病患に犯されて壽を縮むる憂ひあることを示せば慎しむ肝要なり。

◎病氣 九二坎中に陷るは病狀危険の象なるも、剛中を得るは體質強健なるものなれば、養生次第にて全快の望みあり。

◎待人 爻辭に「不克訟歸逋」とある如く、九二は志を果さずして中途より引返すものなれば、一旦出掛けて途中より引返し、來らざる象なり。

◎走人 爻辭に「不克訟歸逋」とあるは、一旦家出せるも引返す象にして又「邑人三百戶无眚」とあるはその爲に家族の安堵する象なり。

◎失物 九二は訟を起すも、中止して引返すもの、一度人手に渡るも手に返る象なり。

◎旅立 九二は上九五に敵せんとして進み、意を果さずして途中より引返すもの、旅立出づるも目的を達せずして歸る象なれば、出てざるを吉とす。

◎爭事 九二は九五に敵せんとし、その勢ひ及ばざるを悟りて逃れ歸るもの、爭事相手方の勢ひ強く勝利の望みなき象なれば、和解中止するを利とす。強争せば破れて災ひあり。

◎就職、試験 九二は訟を起さんとして力足らず、逃れ歸るもの、就職ならず、試験不成績の象なり。
◎開業、轉業、移轉 九二は進みて九五に敵せんとして果さず、中止して災ひを免るゝもの、何れも進まざるを吉とす。
◎天候 九二陽剛を以て中を得るは天候良き象、然し陰を以て正しとし、雨の象坎體に居るは長く續かざる象なり。

六 二 三 食舊德 貞厲終吉 或從王事 无成

(爻辭讀方) 舊德を食む。貞なれば厲けれども終に吉なり。或は王事に從ふも成す事なし。

(象 義) ◎「舊德」徳とは祿の義にて、俸祿は其の徳の大小厚薄に應じて授けらるゝものより云へるなり。而して舊徳とは從來より食める祿のことなり。◎「厲」六三が上下變轉の危地に居り、且二陽の間に挟まるゝより云ふ。◎「或」六三が陰を以て陽位に居り未定の意あるより云ふ。◎「王事」茲に云ふ王事とは九五の王に訟ふる小事の義。

(意 義) 六三は一度は九二に誘はれて訟を起さんとしたのであるが、九二が訟を思止つて逃れ歸るや、自分も身を退きて舊祿に安んじ強いて訟をなさず、元來陰にして才微なるも、陽位に居りて志強き爲、これを固守するから、終に危きを免れて吉を得るのである。「食舊德 貞厲終吉」とはこれを云つたのである。而して「或從王事 无成」と云ふのは、斯くの如く時には九二に從ひて九五に對し訟を起す様なことがある

が、元來陰爻で柔順の性質であるから、飽く迄これを強行する様なことなく、分を守りて止ると云ふ意味である。

(占 断)

◎運 勢 六三は氣運閉塞の卦訟の時に居り、且下卦の極に位して危地に立つものであるから、此爻を得たる時、運氣悪しく危難に迫る惧れあるも、陰を以て陽位に居り、柔順にして然も志强き所ある爲に、舊縁に安んじてこれを固守し、災厄を免れて吉を得るものであるから、よく現状を守りて妄動せず、爲に危難を免れて無事を得る象である。尙爻意より見て、他に煽動せられて妄動せざる注意、舊を守りて新事に手を出さざる心掛けが大切である。

◎願望、金談 六三は舊態を守りて吉を得るもの、願望金談望みなき象なり。

◎賣 買 六三は舊態を固守して危難を免れ吉を得るもの、賣買共に従来より手習れし事を固く行はゞ利を挙げ得べきも、新しき事に手を出さば失敗損失を招くべし。

◎相 場 六三は舊態を固守するもの、相場持合ひの象なり。

◎縁 談 六三は舊態を守りて災厄を免れ吉を得るもの、今暫く縁談を見合せ時機を待つ方吉なり。

◎子 實 六三は下卦の極に居り内外變轉の危地に立つもの、子供に就きて苦勞故障を免れざる象なるも、陰柔にして守ること固く危きを免れて吉を得るものなれば、養育宜しきを得て末は幸福を得べし。妊娠は此爻陰にして變じて巽となれば長女の象、女兒なり。

◎夫 運 六三が柔順にして分を守り、危難を免るゝより見て、柔和にして慎しみ深き夫に添ひて平安を得る象なり。

◎妻 運 六三は陰柔なるもの、柔和なる妻を得る象なるも、正を得ず、且變じて天風姤となれば一陰を以て五陽に接する象なれば多情の傾きあり。

◎家庭運 六三が陰柔を以て下卦の極に居り、内外變轉の危地に立つより見て、家運變轉の兆ある難局に生るゝ象なるも、「食舊徳、貞厲終吉」とある如く、柔順を旨とし、舊態を守ること固くば、危難を脱して安泰幸福を得るに至るべし。

◎壽命、病氣 六三が陰柔を以て、病患の象坎體の極に居り、危地に立つは病弱にして短命の憂ひあることを示すも、六三が舊徳を固守して危きを脱するが如く、身を慎しみ攝生よくば健康を保ちて相當の壽を全ふし得べく、又病氣は可なり重態危険の兆あるも、「貞厲終吉」とある如く養生さへよければ全快の望みあり。

◎待 人 六三は九二と共に訟を起さんとせしも、志を改めて舊居に歸り、固守して動かざるもの、途中迄出掛けて引返し、來らざる象なり。

◎走 人 六三は心を改め訟を中止して舊居に歸り、これを固守するもの、一旦家出せるも後悔して歸家する象なり。

◎失 物 爻辭に「食舊徳」とあり、又「貞厲終吉」とあるより見て、再び手に返り安心を得る象なり。

◎旅 立 六三が下卦の極に居り、内外變轉の危地に立つは、旅行に危険の憂ひある象。宜しく六三が舊態を

守りて吉を得るに鑑み、出てざるを吉とす。

◎争事 六三は心を改め訟へを中止して、危きを免れ吉を得るもの、宜しく争ひを止め和解すべし、強行せば災ひを招くべし。

◎就職 六三が訟を中止して舊居に安んずるに鑑み、舊状を守りて心を動かさざるを吉とす。又失職者は「食舊徳」とあるより見て急に就職の望みなし。

◎試験 爻辭に「食舊徳」とあるより見て、成績に變化なき象なり。

◎開業、轉業、移轉 六三は舊状を守りて危難を免れ吉を得るもの、何れも進むは不可なり。

◎天候 六三が陰を以て雨の象坎體に居るは雨天の象なり。變じて巽となれば風の象なれば後に風加はるべし。

九四 不克訟。復即命。渝安貞吉。

(爻辭讀方) 訟を克せず。復つて命に即く。渝つて貞に安んずれば吉なり。

(象 義) ◎「不克訟」此句の意味は九二に於ける説明に同じ。◎「命」天命の意。互體巽を命となすより取る。◎「復」訟を果さずして歸る意。又本心に歸る意。◎「渝」心を革むる義。共に互體巽に事を果さざる象あるより取る。

(意 義) 九四は陽剛にして不中不正である。故に亦下三爻と共に上に訟を起し、争はんとする心を起し

たのであるが陽剛中正にして尊位に居る九五に接近して居つて、その徳と勢ひに服し、且自己も不中不正で才徳なきことを悟り、一旦思立つた訟への心を中止して天命に従ひ、自己の本分に歸るものである。これを「不克訟、復即命」と云つたのである。斯くの如く九二は一旦は訟へ争ふ心を起したのであるが、自己の才徳乏しく時勢の非なるを悟りて、心を改めて正理に従つたから吉を得るのである。「渝安貞吉」と云つたのはこれを述べたのである。これを要するに九四も亦訴訟を戒め教へたものである。

(占 斷)

◎運勢 九四は陽剛不中正にして争心があり、一旦は訟へ争はんとしたるも、自己の才徳の微弱と時勢の非を悟り、本心に歸りて九五の威徳に服し、正理に従ひてこれを中止して吉を得るものであり、又變卦風水渙は艱難消解の卦であるから、此卦を得たる時、分外の望みを起し無理に流れ、正道を失して危難に遭遇せんとする象あるも、よく自己の才力と時勢の推移を察して非行を改め、危害艱難を脱して無事を得るものである。

◎願望 九四は才徳乏しく訟を遂げんとして果さざるもの、願望成就せざる象なり。「渝安貞吉」とあれば方針を變じたる方吉なり。

◎金談 九四は訟を起して果さざるもの金談成らず。「渝安貞吉」とあれば方面を改めて努力すべし。

◎賣買 九四は才力乏しく時勢を得ずして志を果さざるもの、賣買共に不況にして力足らず、成功を得ざる象なり。

◎相場 九四は陽剛不中正にして訟を起さんとするもの、一時強調を示す象なり。然し元來陰位にして力

乏しく、變卦は物事の消散する象なれば先行崩るべし。

◎縁談 九四は不中正にして才徳乏しく、初志を果さざるもの、縁談難らざる象、「渝安貞吉」とあれば氣長に他に縁を求むれば良縁を得べし。

◎子實 九四が不中正を以て氣運閉塞の卦に居るは、子供に就きて故障苦勞ある象、然し「渝安貞吉」とあれば後には氣運轉換吉を得べし。姪此交陽を以て乾體に居るは男兒なり。

◎縁運 九四が陽剛不中正にして争心あるは、男女共に氣性烈しく行ひ正しからざる連合ひに添ひて苦勞多き象、「復即命、渝安貞吉」とあるより見て、縁の變る象を示し、變じて却つて吉を得べし。

◎家庭運 九四が氣運不通の卦に居り、中正を得ざるは家庭上の苦勞を見る象なり。然し「渝安貞吉」とあれば中年後は運氣變じて吉に向ふべし。

◎壽命 九四陽剛なるは健康の象なるも、中正を得ずして争心あるは、攝生惡しく壽を縮むる憂ひあることを示す。慎しみ肝要なり。

◎病氣 爻辭に「渝安貞吉」とあれば醫師を取替へて好結果を得べし。

◎待人 九四は訟を起さんとして中止し、復つて命に即くもの、來らざる象なり。

◎走人 爻辭に「不克訟、復即命」とある如く、九四は訟を遂げずして本心に歸るもの、走人改心して歸家する象なり。

◎失物 此爻氣運閉塞の卦に居りて不中正なるに、變じて渙となれば物事消散の象なれば出でず、

◎旅立 九四訟へを起さんとして意を果さざるは、旅行の目的達し難きことを示す。出でざるを吉とす。

◎争事 九四は争ひを中止し、本心に歸りて吉を得るもの、争事和解する方利あり。

◎就職試験 九四は氣運不通の卦に居り、訟を起して志を遂げざるもの、就職成らず、試験不成績の象なり。「復即命、渝安貞吉」とあれば、忍耐努力時機を待つべし。

◎開業 九四は不中正にして才力乏しく、且時勢非なるもの、今暫らく時機を待つを吉とす。

◎轉業、移轉 爻辭に「渝安貞吉」とあれば轉じて吉なり。然し轉じたる後慎しみ肝要なり。

◎天候 九四陽剛なるは天氣良き象なるも、不中正なるは永く續かざる象なり。

九五 訟元吉。

(爻辭讀方) 訟へ元吉。

(意義) 訟の卦に於いて他の諸爻は皆不正であるが、獨り九五だけは剛健にして中正を得、然も尊位に居るもので、卦辭に「利見大人」と云つてある大人とは實に九五を指したのであつて、訟へを聴く明主である。夫れ訟を聴く明主は、剛健中正の徳を兼備せねばならないものである。何故ならば、剛健でなければ民がこれに威服せぬからであり、中を得なければ、過不及を生じて偏頗に流れる過ちがあるからであり、正しくなければ固執の弊害に陥つて理非を過まるに至るからである。今九五はこの剛健中正の三徳を完備し、その上變じて離となれば聰明の徳を現して居るのは、これ實に訟へを聴く明主と云ふべきで、その裁斷が

公平無私にして理非公明を得ることは云ふ迄もないのである。即ち「訟元吉」と云つてあるのはこれを讚美した言で、元吉とは大吉と同様である。

(占 斷)

- ◎運 勢 九五は剛健中正にして訟を聴くの明主で、威徳を兼備し元吉なるもの、故に此爻を得たる時運氣盛大吉祥にして物事順調に運び、悦びを見る時である。
- ◎願望、金談 九五は剛健中正を以て尊位に居り大吉なる象、願望金談共に成就す。
- ◎買 買 九五は剛健中正にして元吉なるもの、賣買勢ひありて順調に運び大いに利を得べし。
- ◎相 場 九五は剛健中正を以て尊位に居り、威徳盛んなる明主の象、相場高し。而して變じて火水未濟となれば暗より明に向ふ象なれば先行向上。
- ◎縁 談 爻辭に元吉とある如く、縁談吉にして纏る。
- ◎子 實 此爻剛健中正を以て、尊位に居るは、身體強健にして才徳兼備の兒女を得、大いに幸福を得る象なり。粧姫は此爻陽剛中正にして乾體に居るより見て男兒なり。
- ◎夫 運 九五は剛健中正にして尊位に居り、威徳を兼備して盛んなるもの、才力を備へ志行正しく榮達する夫に添ひて幸福の象なり。
- ◎妻 運 九五が陽剛にして中正を得るは、志強く行ひ正しき貞女を妻とする象、又此爻尊位に居り變じて離となれば華麗の象あるより見て、目上の美人を得ることを現す。

◎家庭運 九五が剛健中正を以て尊位に居り、元吉なるより見て、家柄高く盛大なる家に生れて幸福を得る象なり。

◎壽 命 九五が陽剛なるは身體強健の象、中正を得るは志行正しき象、乃ち「元吉」とある如く長壽を保つべし。

◎病 氣 爻辭に「元吉」とあるより見て、心配なく速に全快すべし。

◎待 人 此爻中正を得るは志行正しきもの、必ず来る。

◎走 人 上卦乾は西北、九五變じて離となれば南、其方角を尋ぬべし。「訟元吉」とあれば警察の力を借りたる方早く判明すべし。

◎失 物 爻辭に「元吉」とあるより見て出づ。方角走人に同じ。

◎旅 立 此爻大吉にして運氣盛大の象なれば、出て、悦びあるべし。

◎争 事 爻辭に「訟元吉」とあれば、争事勝利を得て悦びあるべし。

◎就職、試験 九五は盛大にして大吉の象なれば、就職好條件を以て調ひ、試験優等の成績なり。

◎開業、轉業、移轉 此爻大吉の象、何れも進みて吉なり。

◎天 候 九五は陽にして中正を得、變じて離となれば太陽の象、好晴なり。

上九 或錫鞶帶。終朝三褫之。

(文辭讀方) 或は鞶帶を錫はる。終朝三たびこれを褫はる。

(象 義) ①「或」事の未定なる義、上九が陽を以て陰に居るより云ふ。②「鞶帶」命服乃ち功ある者に授くる服のことにて革帶なり。互體離を牛となし、帶の象あり。又上卦乾を衣となし圓となす。帶は腰に巻くものなり。乃ち鞶帶と云へるなり。③「終朝」日の出より朝飯迄のこと、乃ち僅の間と云ふ意、乾を朝日となし、上九が卦の終に居るより云へるなり。④「褫」上九變すれば兌となり、兌を解くとすより云へるなり。

(意 義) 上九は陽剛を以て訟の極に居るもの、乃ち訟へを強行して飽く迄勝ちを得んとする者である。故に時に或は訟に勝ちて恩賞を給はることもあるのである。これを「或錫鞶帶」と云つたのである。然し訟に勝つたと云つても力に任せ、策略を弄して勝つたのであつて、理を以つて勝つたのではなく、僥倖の勝利であるから、その曲直眞偽が直に判明して、暫時の間に折角賜つた恩賞も奪還される様になるのである。「終朝三褫之」とはこれを云つたのである。要するに此爻、力を待み飽く迄争訟を強行する者を戒めたのである。

(占 斷)

◎運 勢 上九は陽剛を以て卦極に居り、力を待み勢ひに任せて強訴し、飽く迄勝を求めらるもので、一時は

目的を達することあるも、正理を以て進まず曲非を以て進むものなれば、忽ち功を失ふに至るものである。故に此爻を得たる時、力に任せ勢ひに乗じて非行を遂げ、一時運氣盛んなる象あるも、元來正しきを失ふが故に、忽ち逆轉して悲境に陥り、變卦澤水困の艱難を見るに至る象である。宜しく非理強行を慎しみ、正しきを守りて運氣の安泰を計る心掛けが肝要である。尙爻意より見て、悦び變じて悲しみとなる象、強情我儘よりの災ひ、變動事等に注意を要する。

◎願 望 上九は勢ひに乗じ力に任せて一度は目的を遂ぐるも、理に反く故に直に破れを見るもの、願望一時は成就するも無理ある爲に忽ち破るゝか、却つて後害を招く象あり。

◎金 談 上九は一度は訟に勝ちて恩賞を受くるも、直ちにこれを奪還さるるもの、金談話だけ成立して手に入らずして終るか、變卦困となるより見て手に入るも身につかずして忽ち困窮に陥る象あり。

◎賣 買 上九は一度は志を遂げて訟に勝つものなれば、賣買共に奇利を得る象なるも、力に任せ勢ひに乗じて無理に勝ちたるものにて、忽ち破るゝ象あるより見て、賣買取引上に無理ありて後害を招く象あり。

◎相 場 上九が陽剛を以て卦極に居り、訟に勝ちて勢ひを振ふより見て、相場一時暴騰するも、忽ち破れを招くものなるに、變卦困は窮境の象なれば、高値永續せずして忽ち崩るゝ象なり。

◎縁 談 上九は一度は訟に勝ちて目的を達する象なれば、縁談成立するも、非理を以て勝てるものなれば忽ち破るゝより見て、話に行違ひ又は偽りありたる爲に直に破談となる象なり。

◎子 賣 上九が一度は訟に勝ちて勢威を振ふも忽ち破れを招くより見て、初めは子供運よく人に羨まるゝ

象あるも、末には不幸苦勞を見る象あり。姪は此爻陽爻にして勢ひあるも、陰を以て正しとし、變じて兌となれば少女の象。れば、男と思ひしもの女兒の象なり。

◎夫 運 九五が陽剛にして卦極に居り、訟を強行する象より見て、氣性荒く亂暴なる夫に添ひ苦勞する象なり。

◎妻 運 上九が卦極に居るは目上より妻を得る象なり。而して陽を以て陰に居り位正しからざるは、強情我儘にして迷惑する象なり。

◎家庭運 上九が陽剛を以て卦極に居り、訟に勝ちて勢ひを振ふより見て、盛大なる家に生るゝ象なるも力を恃み勢に乗じて非理を遂げ忽ち破るゝ象あり、又變卦困となりて窮困の象を示すより見て、驕慢に流れて身を破り家を亂し、悲境に陥る象なり。

◎壽命 此爻陽剛なるも陰に居りて正しきを得ざるは、外見よりも體質弱き象、又變じて兌となれば毀折の象あり。且非理を遂げて忽ち破るゝ象あるは、攝生を守らずして夭折する憂ひあることを示す。

◎病 氣 此爻卦極に居るは病状重き象、而して一度訟に勝ちて忽ち破るゝより見て、一時快方に向ふも、再び悪化して危険に陥る象なり。

◎待人 上九は陽剛にして卦極に居り、非理を強行するもの、來らざる象なり。

◎走人 上九が陽剛にして正を得ず、卦極に居りて力を恃み勢ひに乗じて非理を強行する象あるは、走人無算の舉に出で、危険ある象なり。上卦乾は西北、變體兌は西、其方角を一刻も早く尋ぬべし。

◎失物 九五が一時訟に勝ちて勢ひを振ふも、直に破るゝ象より見て、早ければ出づるも時を経ば出でず。而して卦極に居るより見て高所を尋ぬべし。方角走人に同じ。

◎旅立 上九が位を得ずして卦極に居るは危険の象、又變卦困は艱苦の象なれば、出で、危険困難に遭遇する憂ひあれば中止すべし。

◎争事 上九は一度訟に勝つも忽ち破るゝもの、争事初めは有利なるも後には不利に終るべし。飽く迄争ふは凶なれば時機を計りて和解すべし。

◎就職、試験 爻辭に「或錫鞶帶終朝三褫之」とある如く、此爻一時勢ひ盛んにして直に破るゝもの、就職意外に良き口を得るも永續せず、試験案外好成绩なるも、慢心して後害を招く象あり。

◎開業、轉業、移轉 此爻方に任せ勢ひに乗じて進み、一時は功を得るも忽ち破るゝもの、何れも調子に乗りて進まざる方吉なり。

◎天候 此爻陽を以て上卦乾に居るは天氣良き象なるも、元來陰を以て正しとし、變體兌は毀折の象、且上九が一時訟に勝ちて忽ち破るゝ象あるより見て天候急變することを示す。

䷧ 地水師 師貞。丈人吉。无咎。

(卦辭讀方) 師は貞なり。丈人なれば吉。咎なし。

(象 義) 師とは軍旅乃ち戦争の義で此卦全體の形から見ると、九二の一陽が上下の五陰を統率してこれを帥る象があり、又上卦坤は地て下卦坎は水てあり、元來地と水は相親しむもので、水は地によりて安居し、地は水の滋潤を得て萬物生育の用をなすものであるが、此卦で地が上になり水が下になつて居るのは、兩者自然の位置が轉倒して居るもので、相親しむことが出来ない象であつて、例へば人間は元來相親しむべきものであるのに、賢者が下に居つて不肖者が上に立つたり、不善者が富み榮えて善人が窮乏して居る様な轉倒した世態にあると、世の中が亂れると同じ譯である。以上の様な理由から此卦を師と名づけたのである而して此卦を訟の次に置いた譯は、訴訟には必ず双方に黨派が出来て相争ふもので、師乃ち戦争は争ひが原因となつて起るものであるからである。

(意 義) 師とは戦争のことであるが、戦争は人間を殺傷し、貨財を消費するもので、危道であつて正道でない。故に無暗にこれを起すべきものでなく、天下の不正を正し亂を治める爲に己むを得ずして用ふるもので、所謂侵略主義と云ふ様な利慾から起してはならないのであつて、何所迄も正義による事が必要である。故に「師貞」と云つてこれを戒めたので、貞とは正しき義である。次に「丈人吉」と云ふのは、丈人とは智徳兼備の良將の意味で、茲では剛中を得たる九二を指したもので、乃ち九二が剛中を得て居るのは、智仁勇の三徳を具備せる象であるからである。か様に九二の如き大人乃ち良將であつて始めて、よく亂を治め民を安んずることが出来るものであると云ふ意味で、これが若し小人にして軍旅を卒るたならば、徒らに人命を損じ、災禍を生ずる様な結果を見るものである。而して「无咎」と云つてあるのは、上述の如く、戦争の原

因が正義に基き、之を統率するものが九二の如き良將であつて始めて天理に背かないから、戦争の如き危道を行つても咎めを受けないと云ふ意味である。要するに此卦は戦争に對する心得を説き教へたものである。

(占 斷)

◎運 勢 師は戦争のことを説いた卦で、常道でなく危道である。故に此の卦を得たる時、運氣平常を欠き非常の事ある象で、従つて身上に波瀾の多いことを示すものである。斯くの如き氣運に際しては、異常の決斷を以て進むことが必要であるが、飽く迄師の卦の示すが如く、正義を旨として其上で果斷の處置に出づべきで、運氣重大の爲に不正に走り、術策を弄して私利私慾に流れてはならないのである。尙卦意より見て、危険困難事、争事、變動事、盜難、我意に走り他の意見を用ゐざる爲の過ち等に注意を要する時である。

◎願望、金談 師は戦争の卦で波瀾困難の象があるから、願望金談共に故障困難多く、容易に目的を遂げ難きことを示すものである。然し九二の如く正理仁勇の徳を守りて努力せば「丈人吉」とある如く、成就の望みあり。

◎賣 買 師は戦争の卦にて危道なり。乃ち賣買共に波瀾變動多く、危険に臨む象なり。宜しく九二の如く正道を持して進むべし。然らば「丈人吉」とある如く、最後の勝利を得べし。

◎相 場 師は戦争の卦なれば、相場に強弱の戦ひ激烈を極め、波瀾高下甚しき象なり。

◎縁 談 師は上卦坤は地、下卦坎は水の象にて、地水自然の地位を失ひ、相親和せざるもの、縁談纏らず又凶の象なり。

◎子 實 此卦五陰一陽より成るより見て、女兒多く男兒少き象なり。然し九二の一陽は剛中の徳を備へたる丈人にして吉なるのなれば、男兒傑出して悦びを得ることを示す。姪姪は五陰一陽にして陰勝るより見て女兒なり。

◎夫 運 此卦九二の一陽剛中を以て五陰を統率し、智仁勇を兼備する象なれば、傑出せる夫を持ちて他の美望的となる象なり。然し九二が五陰に接するは艶福家の象にて、その點に就きて苦勞あり。

◎妻 運 此卦九二の一陽五陰に順從せらるゝ象あるは、人物を見込まれて求婚者多く、却つて迷惑を感じる象なるも、結局「丈人吉」とあれば妻運吉なることを示すものなり。

◎家庭運 師は上卦の坤地と下卦の坎水、自然の位地を得ずして親しまざる象、又戦争の卦なれば一家和合を得ずして困難波瀾を見る象あり。宜しく九二が剛中の徳を備へて五陰を統率するが如く、果斷剛毅の中に温容を失はずして一家の和合圓滿を計る心掛け肝要なり。

◎壽命 師は戦争の卦にして危険波瀾の象あれば、健康上故障變動多く、危険を見ることある象なり。然し九二が剛中の徳を以て五陰を卒る、よく戦禍を治めて吉を得るより見て、攝生よく健康を克ち得て壽を保つべし。

◎病 氣 師は戦争の卦にて危険の象、病狀險惡危殆を示す。宜しく九二が剛中の徳を以て戦禍を治むるが如く、強固なる意志と完全なる養生を以て病氣に打勝つ心掛け肝要なり。然らば「丈人吉」とあれば全快の望みあり。

◎待 人 師は上卦の坤地と下卦の坎水自然の位地を得ず、相背きて親しまざる象、待人來らず。

◎走 人 師は戦争の卦なれば、争ひより家出せる象なり。「丈人吉、无咎」とあれば案することなく行先判明すべし。上卦坤は西南、下卦坎は北、其方角を尋ぬべし。

◎失 物 師は上卦坤は土、下卦坎は水にして、地水自然の位地を轉倒して相親しまざる象、失物出でざる象なり。方角走人に同じ。

◎旅 立 師は戦争の卦にて危険の象、旅先にて災害危険に遇ふ憂ひあれば出でざるを吉とす。

◎争 事 師は戦争の卦、争事已むを得ざる象なり。宜しく卦意に説くが如く正々堂々と争ふべし。然らば「丈人吉」とある如く勝利を得べし。

◎就職、試験 師は戦争の卦にて困難變動多き象、就職多難にして試験の成績不同なる象なり。

◎開業、轉業、移轉 師は戦争の卦にて前途危険多難の象を示す。何れも進まざる方可なり。

◎天 候 師は戦争の卦にて危険の象、天候險惡なることを示す。

初 六 師出以律。否臧凶。

(文辭讀方) 師出づるに律を以てす。臧からざれば凶なり。
(象 義) ◎「律」軍律乃ち號令節制のこと、下卦坎は水の象、水は常に平均を得るものにて法律の象あるより取る。◎「否」不に同じ。◎「臧」善と同義、乃ち「否臧」とは「不善」と同義にて、初六が陰柔

にして位正を得ず、才力乏しき象より云へるなり。

(意 義) 戦争は大家を卒るて危地に臨むものであるから、衆力を一にし衆心を同じくせねば勝利を得ることは出来ないもので、それには軍律が正しく行はれて紀律が整はねばならぬのである。「師出以律」とはこれを云つたのである。然るに初六は陰柔不正であるから、軍律正しきを得ず、號令行はずして、爲に士氣奮はず、敗れを招くに至るもので凶である。「否、威凶」と云つたのはこれを説いたのであるが、初六は師を出す初めて、何事も物事は初めが大切であるから茲で戒めたのである。此爻戦争に於いて軍律が正しくよく行はれねば、必ず破れを招くことを説き、紀律の重んずべきことを示したのであるが、必ずしも戦争に限らず、人間萬事のこと凡てが、紀律が行はれねば功を遂げることが出来ないのは必然であつて、初六に説く所、取つて以つて訓戒とすべきである。

(占 斷)

(運 勢) 初六は師の時に居り、陰柔不正にして才力乏しく、紀律を失ひて、恰も戦争に於いて軍律行はずして敗れを招く如く、凶を見るものである。故に此爻を得たる時、心身共に弱く、放縱に流れて萬事に紀律を失ひ、事を破りて凶運を招く象である。宜しく心身を堅固に持ち、紀律を正しくして凶運を退け、吉運を迎へる様心掛けることが肝要である。

◎願 望 初六は「否、威凶」とある如く、陰柔にして才力乏しく、不正にして紀律を欠くもの、願望成らず。

◎金 談 初六は陰柔不正にして、放縱紀律なきもの、乃ち人の信用なく金談成就せざる象なり。

易學講義錄 第一卷 非賣品

昭和七年七月七日 印刷
昭和七年七月十日 發行
昭和八年三月四日 再發行

版權
所有

著者兼
發行者
神 山 五 黃

印刷者
日 本 印 刷 學 校
衣 笠 道 夫

發行所

神 山 易 學 會

東京市本郷區動坂町六三番地
電話小石川六三八八番
振替東京五一九三四番

終

